２０１３
４月版

アイジーヴァンドシリーズ

ＷＨパネル®25
（縦／横）

施工説明書

施工前にこの施工説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
（「ＷＨパネル25の維持管理について」P4、5を必ずお読みください。）

IG KOGYO

目 次

事故防止のために 1

1．取り扱い時のお願い 2
設計上の注意 …… 2
運搬、保管上の注意 …… 2
施工上の注意 …… 3
補修上の注意 …… 3
廃棄物の注意 …… 3
維持管理のポイント …… 3
その他 …… 3

2．WHパネル25の維持管理について 4
維持管理の目的 …… 4
外壁の点検方法 …… 4
メンテナンススケジュール …… 4
クリーニングについて …… 5
安全に関する注意 …… 5

3．本体規格･付属品規格 6

4．物性一覧 8

5．認定関係 9
防火構造認定 …… 9
材料認定 …… 9
地域の制限 …… 9
建築基準法の制限 …… 9
せっこうボードについて …… 10
認定仕様 …… 11

6．施工に必要な工具 13

7．施工の手順とポイント 14
横張り施工手順 …… 14
1． 下地の確認 …… 14
2． 割り付け …… 15
3． 水切25Sの施工 …… 15
4． 墨出し …… 16
5． 先付け付属品の施工 …… 16
6． 本体の施工 …… 18
7． 捨てシーリングの施工 …… 19
8． 後付け付属品の施工 …… 20
9． 仕上げシーリングの施工、補修塗装 …… 21
10． クリーニング …… 21
縦張り施工手順 …… 22

8．納まり図 横張り 23
A．土台 …… 24
B．土台［出隅］ …… 24
C．土台［入隅］ …… 25
D．横継ぎ …… 26
E．軒 …… 27
F．笠木 …… 28
G．下がり壁 …… 29
H．開口部［半外］ …… 30
I．開口部［外付け］ …… 31

9．納まり図 横張り 表面止水仕様 34
A．土台［出隅］ …… 34
B．土台［入隅］ …… 35
C．横継ぎ …… 35
D．軒 …… 36
E．笠木 …… 36
F．開口部［半外］ …… 37
G．開口部［外付け］ …… 38

10．納まり図 縦張り 39
A．土台 …… 40
B．土台［出隅］ …… 40
C．土台［入隅］ …… 41
D．縦継ぎ …… 42
E．縦継ぎ［出隅］ …… 42
F．軒 …… 43
G．笠木 …… 44
H．下がり壁 …… 44
I．開口部［半外］ …… 45
J．開口部［外付け］ …… 46

11．納まり図 縦張り 表面止水仕様 48
A．土台［出隅］ …… 48
B．土台［入隅］ …… 49
C．縦継ぎ［出隅］ …… 49
D．軒 …… 50
E．笠木 …… 50
F．開口部［半外］ …… 51
G．開口部［外付け］ …… 52

12．付属品の加工方法 53
1． 土台加工［出隅］ …… 53
2． 土台加工［入隅］ …… 53
3． 軒加工［出隅］ …… 54
4． 下がり壁加工［出隅］ …… 55
5． 開口部加工 …… 55

13．免責事項 59

事故防止のために

この商品は壁材です。壁以外の部位に使用しないでください。

⚠ 警告　死亡または重傷を負う可能性が想定される場合の表示です。

1．強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
風にあおられる・雨や雪ですべるなどの原因で、落下事故の可能性があります。
2．高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。

⚠ 注意　取り扱いをあやまると障害を負う危険や物的損害などの可能性が想定される場合の表示です。

1．取り扱いの際はゴム付き手袋や保護眼鏡などの保護具を着用してください。ケガをする可能性があります。
2．現場加工時、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。ケガをする可能性があります。
3．防水のため、施工の際は、働き幅による割り付けを行ってください。
4．パネル本体の切断面に、溶接の炎、火花などが当たると引火するおそれがありますので、養生するなど特に注意してください。
5．防火のため、加熱箇所との取り合いには、めがね石など有効な部材を使用してください。
6．包装材・残材などは産業廃棄物として処分してください。
7．シーリング・タッチアップペイントなどは製品安全データシート(MSDS)に従って正しく使用してください。
8．電動工具など、工具を使用する際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。

1 取り扱い時のお願い

●設計上の注意

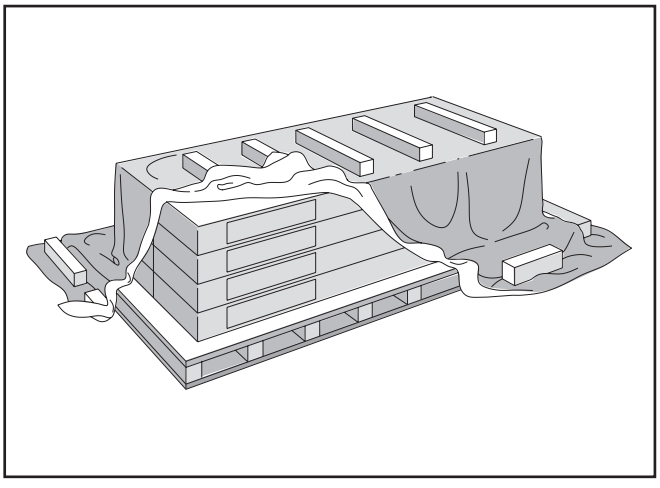
WHパネル25を次のような部位や施工方法で使用しないでください。性能、機能の低下などの不具合をまねく原因となります。

・屋根などの外壁以外の部位での使用。
・傾斜のあるパラペットへの使用。
・異種金属との使用（銅屋根などの異種金属からの雨水が接触すると、電食が起こる場合があります。異種金属との取り合いには注意してください）。
・Ｒ面での使用（商品をＲ面に施工すると、耐風圧強度の低下、かん合部からの雨水の浸入を招くおそれがあります）。
・煙突回りなど加熱箇所での使用（防火のために、めがね石など有効な部材を使用してください）。
・笠木の外勾配施工（外勾配にすると大量の雨水が商品表面を流れ、汚れの付着や塗膜の劣化が早まります）。
・商品を斜めに張ること、または縦張り商品を横張りで張るなど、指定の張り方向以外での使用。
・乱張り施工（商品を千鳥調に張るなどの行為は、雨漏りの原因となります）。
・塗膜の厚いセメントスタッコなどの上塗り、タイルなどの直張り。
・付属品だけによるパネル本体の固定（パネル本体は、必ず留め具で直接下地に留め付けてください）。
・積雪などを考慮しない設計（積雪の影響（雪の負荷）のある地域では、パネル本体と付属品に積雪の荷重や落雪、除雪の固まりなどが当たらないよう対処してください）。

●運搬、保管上の注意

・梱包された商品を持つ際には、ＰＰバンドを持たないでください。
・1ケースあるいは開梱した商品を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。
・パネル本体の運搬に必要な人数は、５ｍ未満は２人以上、５ｍ以上は３人以上を目安にしてください。
・車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れ、汚れがないことを確認した上で、平積みにしてください。
・急ブレーキなどによる荷崩れ、損傷を防ぐため、ロープをかけ、角には必ず当て板を入れてください。
・ロープの締め付けが強すぎると商品の破損につながるおそれがあります。過度の締め付けは避けてください。
・商品の保管は、雨水、湿気などの影響を受けない風通しのよい屋内の平らな場所で行ってください。
・屋外に保管する際は、パレットあるいは、りん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。（図Ａ参照）
・商品が破損するおそれがありますので、次のような行為は避けてください。
■商品を放り投げる、または落とすこと。
■商品の上に人が乗る、または重量物を載せること。
■商品の片方をりん木やトラックのあおりなどに乗せて斜めに置き、保管や運搬すること。
■商品をりん木やフォークリフトのつめに直に置き、２点支えにすること。
■商品より小さなパレットを使用すること（パレットの角で商品が破損するおそれがあります）。

図Ａ



●施工上の注意

1．防水処理について
・パネル本体と付属品のすき間から雨水の浸入を防ぐため、必ず指定の位置にシーリング材を施工してください。（各納まり図参照）
・横張り商品は、パネル本体かん合部に水の横走りによる漏水を防止するために捨てシーリングが必要です。パネル本体左右端部に横走り防止シーリングを施工してください。（P19参照）
・シーリング材はしん材には接着しません。切断面にシーリング材を施工する場合には、必ず表面材に箱折加工を施してください。
・換気口やエアコン配管の取り付けのために商品に穴をあけた際は、有効な防水処理を行ってください。

2．商品の破損防止のために
・すり傷防止のために、商品表面を直に地面に置いたり、金属製足場板など硬いもので擦るなどの行為は避けてください。
・塗装が傷みますので、商品表面に切断時の切粉、火花などを当てないでください。
・換気口やエアコン配管を外壁面に取り付ける際は、必ず下地材に取り付け、商品には取り付けないでください。

3．さび防止のために
・商品を切断した際に出る切粉は、ハケなどで払ってください。
・商品の取り付けねじ類は、ステンレス製を推奨します。

4．その他
・WHパネル25には必ず純正付属品を使用してください。それ以外の部材では十分な性能を得られないことがあります。
・しん材には水をかけないでください。
・商品にモルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。
・基礎モルタルへ商品を埋め込んで施工しないでください。
・付属品だけで、パネル本体を固定するのは不十分です。パネル本体は必ず留め具で直接下地に留め付けてください。
・パネル本体を取り付ける胴縁の出入り（不陸）により、仕上がりの意匠に影響が出る場合があります。隣り合う胴縁の不陸は、3㎜以内に抑えてください。また、胴縁同士のつなぎ目の不陸も同様です。

●補修上の注意

表面材、裏面材の補修
・降雨及び降雪がある際は補修を避けてください。
・補修の前に表面の汚れ、ホコリ、水分などがある場合は布などで拭き取ってください。
・商品表面の傷の補修には、必ず純正のタッチアップペイントを用い、製品安全データシート(MSDS)に従って正しく使用してください。
・タッチアップペイントは、使用前によく撹拌してから使用してください。カタカタという音がしてから30秒以上振り、よく撹拌してください。
・タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすり傷のみに使用してください。商品の変形を伴う傷や、広範囲にわたる塗装は、専門の業者に依頼してください。
・事前に商品の端材などで試し塗りをして、色調の確認を行ってください。
・タッチアップペイントは、常乾タイプの塗料です。商品とは塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

●廃棄物の注意

・包装材、残材などの廃材は、産業廃棄物として適切に処理してください。

●維持管理のポイント

1．シーリングの確認
・シーリング材は2～3年毎を目安に点検してください。経年変化による劣化で切れが生じる場合があります。切れた場合には補修することにより漏水を未然に防いでください。

2．外壁の汚れの確認
・大気中にはパネル表面基材の腐食の原因になるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海塩粒子、凍結防止材など、多種多様な要因があります。近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性が低下しさびの発生に至る場合があります。汚れが著しい場合はクリーニングをお勧めします（「WHパネル25の維持管理について」P4、5参照）。

●その他

・日射による熱の影響で、朝・夕の温度変化時に、表面鋼板の伸縮により、かん合部などからまれに音が発生する場合があります。

2 WHパネル25の維持管理について

■維持管理の目的

大気中にはWHパネル25表面基材の腐食の原因になるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海岸地帯の海塩粒子、凍結防止剤など、多種多様な要因があります。

近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性の低下やさびの発生に至る場合があります。

建築物の長寿命化を実現するためのひとつとして、WHパネル25の適切なメンテナンスが重要であり、外壁の性能を維持するために定期的な維持管理をお勧めします。

■外壁の点検方法

点検はお施主様ご自身で行ってください。

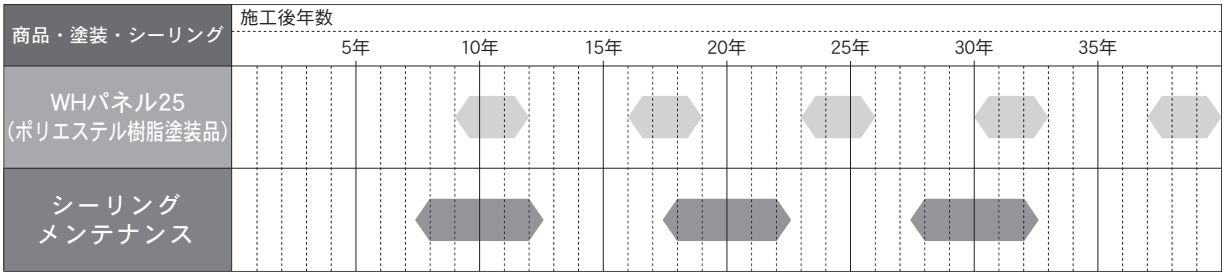
パネル本体の点検	パネル本体に傷、へこみなどがないか目視で点検してください。
付属品の点検	付属品に傷、へこみなどがないか目視で点検してください。
塗膜の点検	塗装表面に白亜化（触ると白い粉が手に付く現象、チョーキング）、変色、さびなどが発生していないか目視で点検してください。
シーリングの点検	シーリングに剥離、亀裂などが発生していないか目視で点検してください。

・環境や気象、立地条件などで異なりますが、塗膜は3～5年、シーリングは2～3年を目安に点検してください。

外壁の点検により気になる不具合を発見した場合は、早めに施工店にご相談の上、専門業者に依頼してください。
（メンテナンス費用はお施主様負担となります）

■メンテナンススケジュール

こまめにお手入れをし、傷みを早めに補修することで外壁を長持ちさせ、建物を守ります。



塗り替え※　部分補修・打ち替え時期

塗り替えは、表面状態を確認の上で判断してください。
変色が著しく、白亜化（触ると白い粉が手につく現象、チョーキング）が現れた場合は塗り替えをお勧めします。

注意
・メンテナンススケジュールは目安であり、メンテナンス時期を保証するものではありません。地域や環境により表面劣化の進行が異なります。
・メンテナンス時期は、本体平面部について適用するものであり、加工部、端部及び付属品は除きます。

※2回目以降の塗り替え時期は塗料タイプにより異なります。使用される環境、耐用年数などを検討の上、専門業者とご相談ください。
上記の塗り替え時期は、一般的なウレタン樹脂塗料を使用した場合を想定しています。

■クリーニングについて

外壁を美しく保つために、年に数回の水洗いをしてください。

WHパネル25は、めっき鋼板の中でも耐久性に優れたガルバリウム鋼板※を使用しております。
しかし、汚染物質の長期の付着により、数年で表面にシミや白さび、黒さびが発生した例が報告されております。シミや白さび、黒さびが発生しても、機能上支障はありませんが、外観が損なわれるため表面塗装の塗り替えの時期が短くなります。但し、年間数回簡単に水洗いすることで、美しい外観を長期間保つことが可能です。

※55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板

■クリーニング回数の目安

立地条件	回数の目安
海岸地帯	年 4 回
工業地帯	年 3 回
市街地	年 2 回
田園地帯	年 1 回

大気汚染の状況に応じて、さらに年間の洗浄回数を増やすことをお勧めします。

■クリーニング方法

1 水洗いにより、塵や汚れを洗い落とし、柔らかいスポンジや布で十分に水洗いしてください。

2 水洗いで取れない汚れなどは、中性洗剤（1～2%の水溶液）を使用し、最後に水洗いしてください。

【注意事項】

・強くこすったり、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどを使用すると塗膜表面に傷がつき腐食を招くおそれがあります。
・水切部や、下屋見切部、窓上などのパネル本体を切断してシーリング材を施していない場所には、ホースなどで下から直接水をかけないでください。
・クレンザーなどの研磨剤入りの洗剤や、酸性やアルカリ性の洗剤は、塗膜を傷め変色・退色を招くおそれがありますので、絶対に使用しないでください。
・シンナーなどの有機溶剤やタイル洗浄剤などは塗膜を破壊するおそれがありますので、絶対に使用しないでください。
・中性洗剤を使用した後は十分な水洗いを行い薬剤を洗い流してください。
・洗浄後は、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。

■クリーニングのポイント

塗膜の劣化や鋼板の腐食は、塵やほこり、酸性雨や酸性雪に含まれる自然からの汚染物質と、車や給湯器・暖房機などの排気・燃焼ガスによる汚染物質が、雨や水蒸気などにより外壁に停滞して進行します。よって、雨水が当たりにくく汚れや汚染物質が流れにくい部分や過度に汚れがひどい部分を重点的に洗浄すると効果的です。

重点洗浄箇所		
①軒下	②庇の下	③アルコーブなどの内部に入り込んだ所
④窓脇、窓下など	⑤フード、換気口などの下	

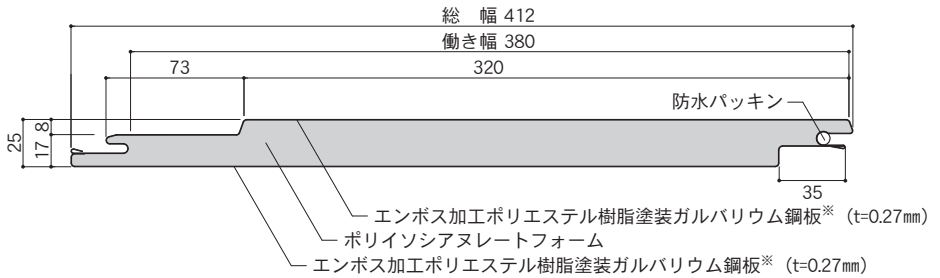
■安全に関する注意

・**お施主様ご自身で高所作業を伴う点検やお手入れは絶対に行わないでください。**落下事故やけがの原因となります。
・点検は外壁を目視で確認できる範囲にとどめてください。高所作業の場合は、専門業者に相談してください。
・再塗装などの補修工事はお施主様ご自身では絶対に行わないでください。専門業者に相談してください。
・ハシゴや脚立などはパネル表面に直接立て掛けると、傷・へこみが生じるおそれがありますので、立て掛けないでください。 傷が付いた場合はP3の「補修上の注意」を参考にしてください。

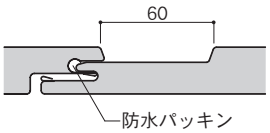
3 本体規格・付属品規格

本体形状断面図

単位：㎜



かん合部



※55％アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板

本体規格

働き幅	総　幅	厚　さ	重　量	入り数
380㎜	412㎜	25㎜	6.7kg／m^2	6枚

張り方向	標準品		特注品
	長さ	入り数面積	長さ
縦張り、横張り	4,000㎜	9.12m^2	2,780～8,000㎜ （10㎜単位で設定可）

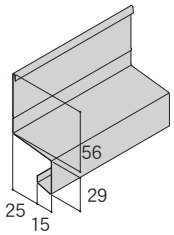
○ 納期につきましては、弊社担当営業に都度ご確認ください。
○「特注品」は、1色、1回のご注文につき1サイズ5ケース以上の取り扱いになります。

付属品規格

単位：㎜

水切25S(注1)

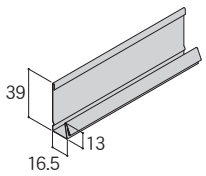
梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：土台、縦継ぎ、開口部

スターター25S

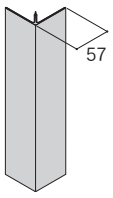
梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：土台

出隅キャップ15-25S(注1)

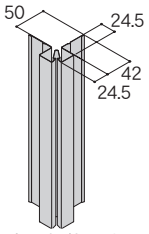
梱包単位：4本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：出隅

出隅下地25N(注1)

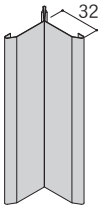
梱包単位：4本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：出隅

入隅キャップ15-25S(注1)

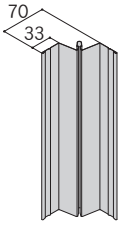
梱包単位：5本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：入隅

入隅下地25(注1)

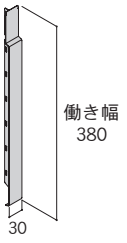
梱包単位：5本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：入隅

段キャップH25WS

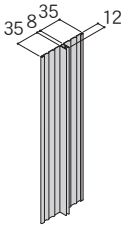
梱包単位：25本/箱



適用部位：横継ぎ

段Tジョイナー15-25(注1)

梱包単位：5本/包
長　　さ：3,030㎜



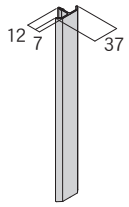
適用部位：横継ぎ

付属品規格

単位：㎜

ワンタッチHキャップ15-25(注1)

梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜

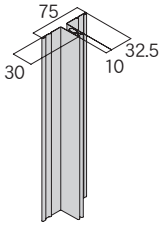


適用部位：横継ぎ

併用

ワンタッチTジョイナー25(注1)

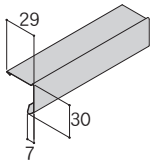
梱包単位：5本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：横継ぎ

止縁キャップC25(注1)

梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜

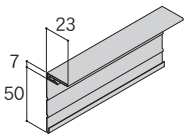


適用部位：軒・開口部

併用

止縁捨板25(注1)

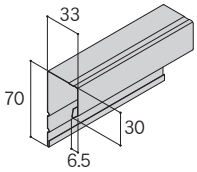
梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：軒・開口部

止縁C25(注1)

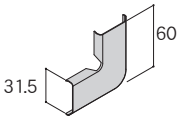
梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：軒・開口部

ワンタッチコーナーキャップ15-25

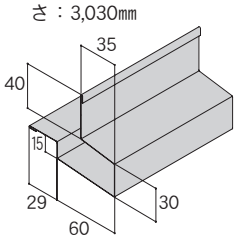
梱包単位：50個/箱



適用部位：開口部

下がり壁水切15-25(注2)(注3)

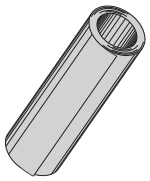
梱包単位：5本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：下がり壁

10Mコイル

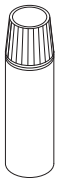
梱包単位：1本/箱
長　　さ：10m



W=914
適用部位：現場加工用

タッチアップペイント

内 容 量：15ml



適用部位：補修用

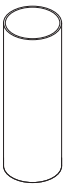
エコシーリング

梱包単位：10本/箱
材　　質：変成シリコーン
内 容 量：320ml

別売りホルダーが無いと使用できません

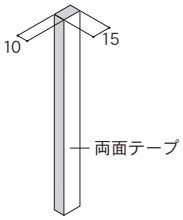
エコシーリングホルダー

梱包単位：2本/箱



パッキン材C

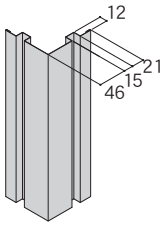
梱包単位：20本/箱
長　　さ：2,000㎜
材　　質：ＥＰＤＭ



適用部位：出隅・入隅・軒・開口部

HS-出隅カバー25W

梱包単位：5本/包
長　　さ：3,030㎜

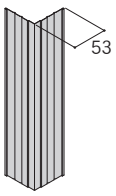


適用部位：出隅

併用

HS-出隅捨板25W(注1)

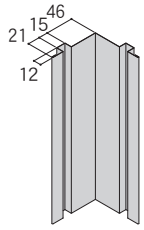
梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：出隅

HS-入隅カバー25W

梱包単位：5本/包
長　　さ：3,030㎜

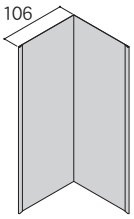


適用部位：入隅

併用

HS-入隅捨板25W

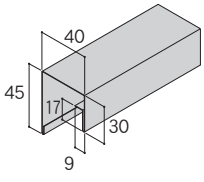
梱包単位：5本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：入隅

HS-止縁25W

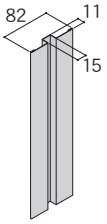
梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜



適用部位：軒・開口部

HS-目地キャップ25W

梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜

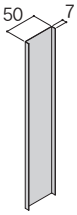


適用部位：横継ぎ

併用

HS-カバープレート25W

梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜

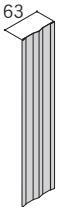


鋼板の厚みは0.5㎜です
適用部位：横継ぎ

併用

HS-ジョイナー25W

梱包単位：10本/包
長　　さ：3,030㎜

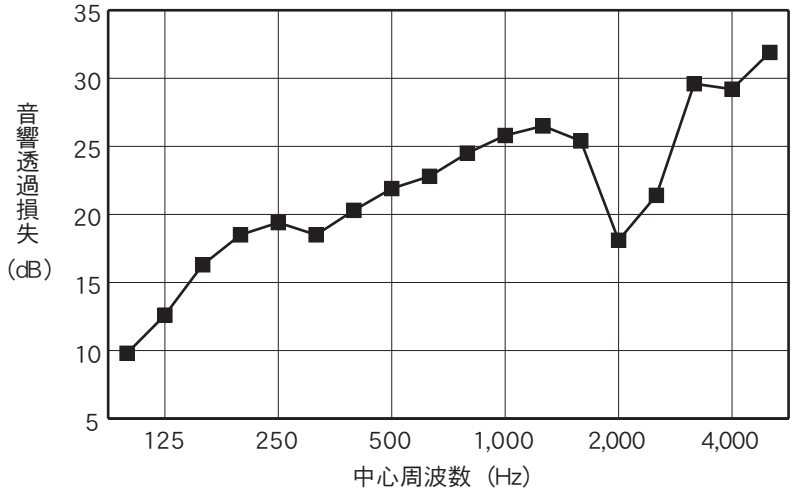


適用部位：横継ぎ

材質はポリエステル樹脂塗装ガルバリウム鋼板※（t=0.35㎜）です。※55％アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板
（注1）切り欠き加工がされており、働き長さは3,000㎜になります。
（注2）色は、Ｆネオブラック、Ｆシルバーメタリック、Ｆネオホワイトのラインナップとなります。
（注3）下がり壁水切15-25Sは、材質が遮熱フッ素樹脂塗装ガルバリウム鋼板の商品です。

4 物性一覧

	物性値	試験方法
しん材熱伝導率	0.021W／ｍK　（0.019kcal／ｍｈ℃）	JIS-A-1412-2
熱貫流率	1.20W／m^2K　（1.04kcal／m^2ｈ℃）	JIS-A-1420
水密性	1600Pa以上　（163.2kgf／m^2以上）	JIS-A-1414（平均圧力）
音響透過損失	25.8dB　（1,000Hz時）	JIS-A-1416（外装材単体張り）



耐風圧性能 鉄骨下地	縦張り	正圧：3,000Pa（305kgf/m^2）以上　負圧：4,333Pa（442kgf/m^2）※1 留め付け下地間隔：610㎜（留め具：ドリリングタッピンねじφ4×L25）	空気圧による等分布荷重
	横張り	正圧：3,000Pa（305kgf/m^2）以上　負圧：4,315Pa（440kgf/m^2）※1 留め付け下地間隔：610㎜（留め具：ドリリングタッピンねじφ4×L25）	
しん材吸水性		1.5g/100cm^2	JIS-A-9511
耐食性		800hr以上	JIS-Z-2371

■上記物性データは性能参考値です。環境によって異なった数値になる場合があります。
※1　耐風圧データの負圧の数値は破壊値です。設計に際しては、十分な安全率を見込んでください。

下地間隔1,000㎜で施工する場合

WHパネル25（横張り）は、下地間隔が1,000㎜でも使用していただけます。

〇適用範囲
建設省告示第1454号第2項で定める基準風速が38m/s以下の地域、且つ高さが13m以下の建築物に適用します。
また、下記の使用条件を満たすことを確認してください。

〇使用条件
・外壁にかかる風荷重が下表の許容値を下回ることを確認してください。
・本体の留め付けにはシンワッシャービスφ4×L35㎜（頭径11㎜）以上を使用してください。
・下地材はC型鋼の寸法がC-100×50×20×2.3㎜以上の材料を使用してください。
・積雪地域では雪の積もる高さまで補強胴縁を入れてください。

■下地間隔1,000㎜の耐風圧性能許容値

商品名	張り方向	単位	耐風圧性能許容値	
			正圧	負圧
WHパネル25	横張り	Pa（kgf/m^2）	2,000（203）	1,250（127）

（1Pa=1N/m^2）

5 認定関係

防火構造認定

詳細については各仕様の記載ページをご覧ください。不明な点は最寄りの営業所にご確認ください。

不燃下地防火構造：せっこうボード下張り仕様（縦張り）ＰＣ０３０ＮＥ－００８４
せっこうボード下張り仕様（横張り）ＰＣ０３０ＮＥ－００７４

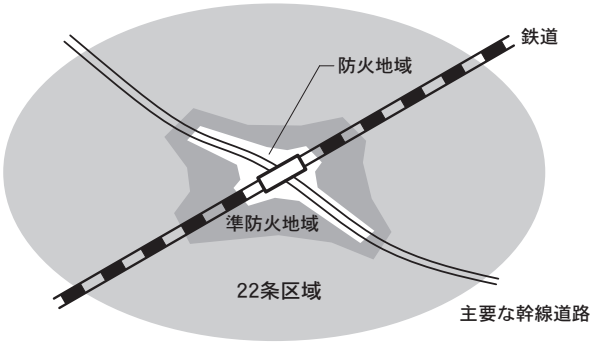
材料認定

不燃材料認定番号：ＮＭ－３５５４

地域の制限

建築基準法では、個々の建築物の火災による延焼を防止するために、第22条に基づいた地域（22条区域）を定めています。

また、都市計画により市街地における火災の拡大を防ぐために、大きな都市の駅周辺など、建築物が密集している地域を防火地域、その周囲に準防火地域が指定されており、各地域、規模及び用途などに応じ、建築物の防耐火構造が規定されています。



建築基準法の制限

建築基準法において建築物は、その地域及び用途・規模・階数などにより必要な防耐火構造が規定されています。

（１）主な外壁の構造とWHパネル25の認定取得範囲

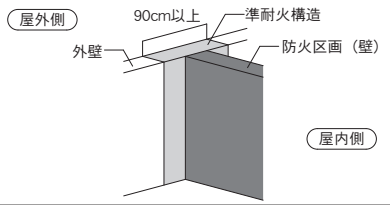
■不燃下地

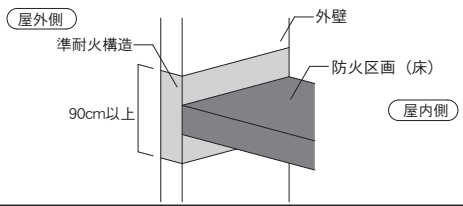
<table>
<tr><th>用途</th><th>地域</th><th>延床面積(s)㎡ ＼ 階数</th><th>S≦100</th><th>100＜S≦500</th><th>500＜S≦1000</th><th>1000＜S≦1500</th><th>1500＜S≦3000</th><th>3000＜S</th></tr>
<tr><td rowspan="6">事務所、工場、戸建住宅など（特殊建築物以外）</td><td rowspan="2">防火地域</td><td>3階建以上</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td>a.45分準耐火構造[イ準耐]※3
b.防火構造※1＋準不燃材料[ロ準耐二号]
（法61条、令109条の3）</td><td colspan="5">耐火構造(法61条)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">準防火地域</td><td>4階建以上</td><td colspan="6">耐火構造(法62条)</td></tr>
<tr><td>3階建</td><td colspan="2">準防火3階建仕様(法62条、令136条の2)
防火構造＋内装せっこうボード12㎜</td><td colspan="4">a.45分準耐火構造[イ準耐]※3
b.防火構造※1＋準不燃材料[ロ準耐二号]
(法62条、令109条の3)</td></tr>
<tr><td>1,2階建</td><td colspan="2">制限なし</td></tr>
<tr><td>その他の22条区域</td><td>1階建以上</td><td colspan="3">制限なし</td><td colspan="3">制限なし（但し、一部45分準耐火構造必要※2※3）
a.45分準耐火構造[イ準耐]※3（法26条、令109条の3）
b.防火構造※1＋準不燃材料[ロ準耐二号]（法26条、令109条の3）
b.防火構造※1＋準不燃材料[ロ準耐二号]（令112条、令109条の3）（但し、一部45分準耐火構造必要※2※3）</td></tr>
</table>

WHパネル25の認定取得範囲です。

※1：「延焼のおそれのある部分」のみが対象になります。「延焼のおそれのある部分」、[イ準耐]、「ロ準耐二号」については、次のページを参照してください。
※2：防火区画と接する部分を含み幅90cm以上の部分を準耐火構造としなければなりません。（令112条）
※3：45分準耐火構造が必要な部分には使用できません。

外壁と防火区画との取り合いについて　防火区画とは建物内での火災の拡大を防ぐ目的で、ある一定面積ごとに区画することです。

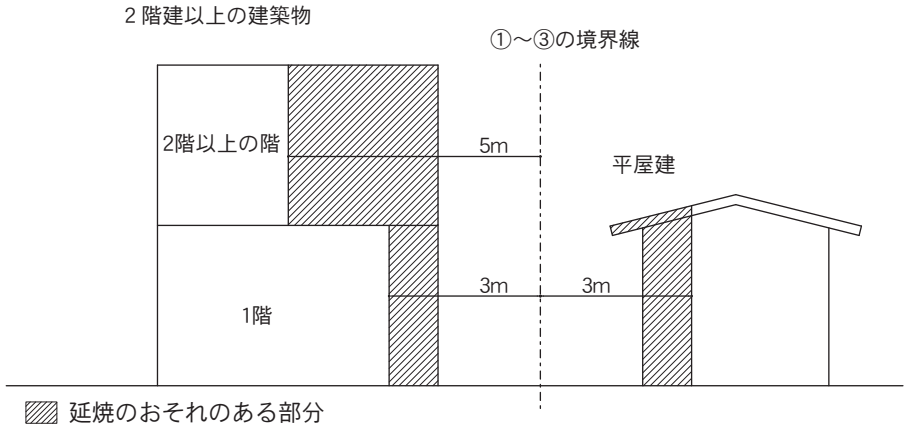




以上は、外壁のみに関する建築基準法の大まかな制限を表しています。建築基準法ではこれより詳細な制限を設けている条項があります。
また、自治体の条例などで建築基準法より厳しい制限が設けられている場合がありますので、計画の際は前もって管轄の行政庁に確認してください。

（2）延焼のおそれのある部分（法2条六号）

防火地域など各地域の指定は、火災が周囲に広がるのを防ごうとするもので、特に延焼のおそれのある部分については、防耐火構造が強化されます。延焼のおそれのある部分とは、①道路中心線、②隣地境界線または③同一敷地内にある2つ以上の建築物（延床面積の合計が500㎡以内であれば1つの建築物とみなされる）の相互の外壁間の中心線から、1階については3m以下、2階以上については5m以下の建築物の部分を指します。但し防火上有効な公園、広場や耐火構造の壁などに面している部分は除かれます。



（3）耐火建築物、準耐火建築物の仕様

耐火建築物 …… 主要構造部を耐火構造としなければならない建築物（法2条九の二号）
準耐火建築物 … 準耐火建築物には次の3つがあります。（法2条九の三号、令109条の3）

種別	内容
① イ準耐	主要構造部を準耐火構造としたもの
② ロ準耐一号	外壁を耐火構造としたもの
③ ロ準耐二号	主要構造部を不燃材料または、準不燃材料で造ったもの

①イ準耐（令107条の2）

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	準耐火構造	
柱・はり	準耐火構造	
床	準耐火構造	
屋根	準耐火構造	
階段	準耐火構造	
開口部	防火戸など	－

②ロ準耐一号（令109条の3一号）

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	耐火構造	
柱・はり	－	
床	－	
屋根	準耐火構造など	不燃材料
階段	－	
開口部	防火戸など	－

③ロ準耐二号（令109条の3二号）

部位	延焼のおそれのある部分	その他の部分
壁	防火構造+準不燃材料	準不燃材料
柱・はり	不燃材料	
床	準不燃材料 （3階以上は準耐火構造など）	
屋根	不燃材料	
階段	準不燃材料	
開口部	防火戸など	－

上表は、準耐火建築物の大まかな仕様であり、詳細は建築基準法をご確認ください。

せっこうボードについて

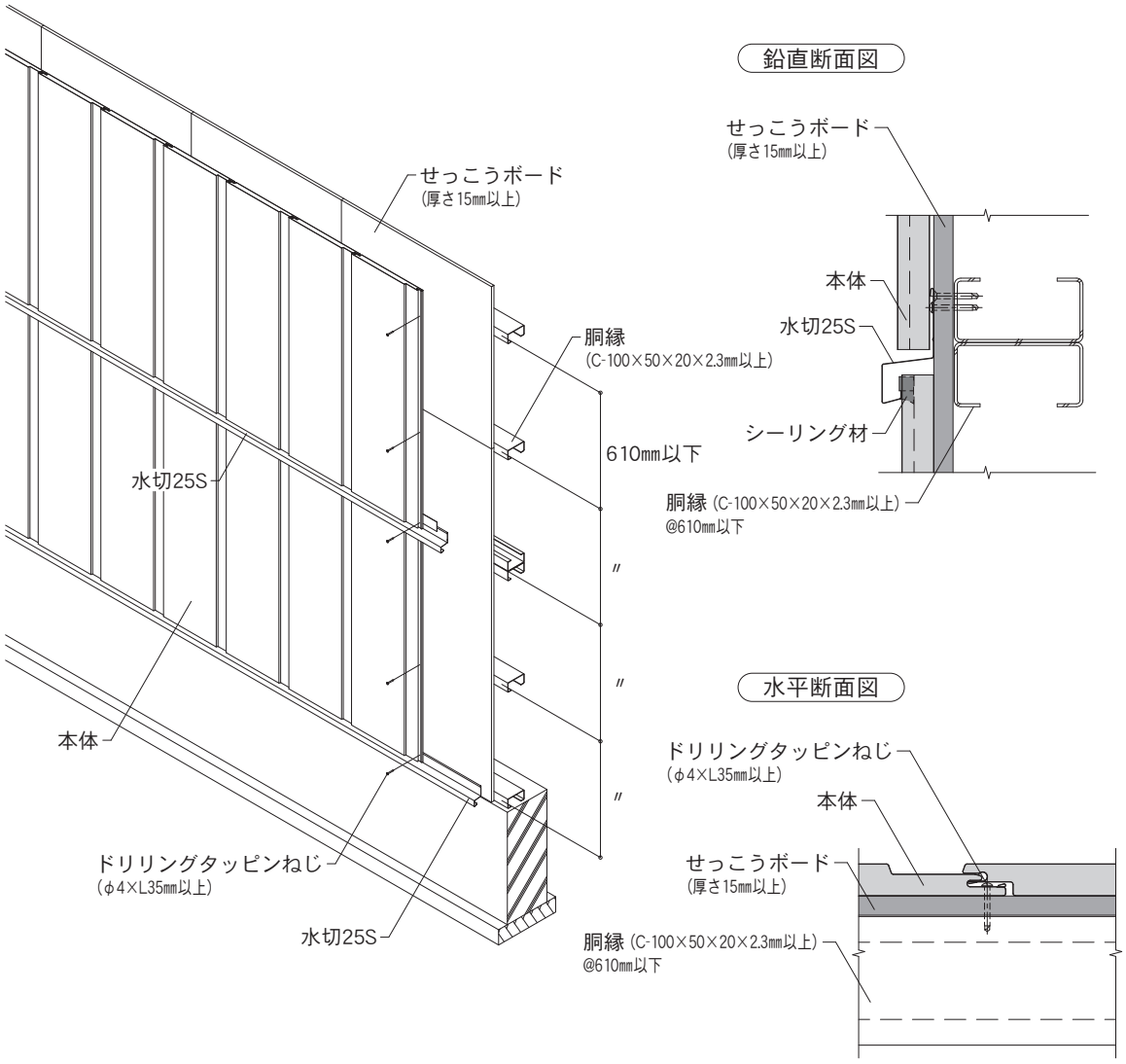
せっこうボードの目地部については、火災時の安全性向上のため、せっこうボードメーカーの推奨する適切な目地処理（乾式壁目地処理工法など）をお勧めします。

認定仕様

不燃下地防火構造
縦張り

■せっこうボード下張り仕様：PC030NE-0084

屋外側せっこうボード下張りに対応した認定番号です。



チェックポイント

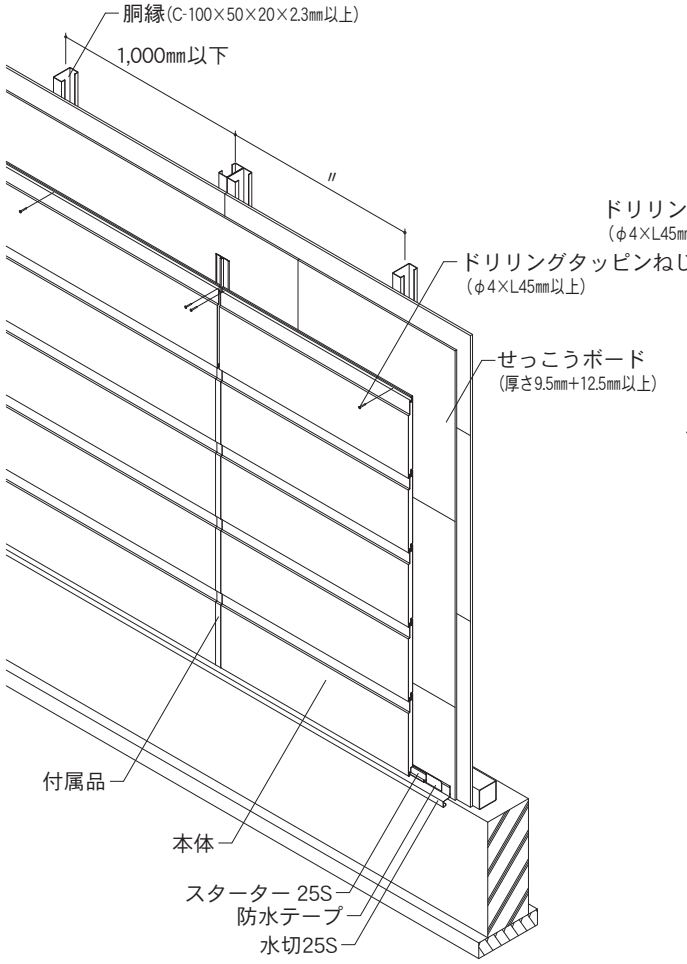
1．付属品は、ドリリングタッピンねじ（φ4×L30㎜以上）で留め付けてください。
2．せっこうボードの取り付けは、ドリリングタッピンねじ（φ4×L25㎜以上）を使用し、333㎜以下で留め付けてください。

不燃下地防火構造

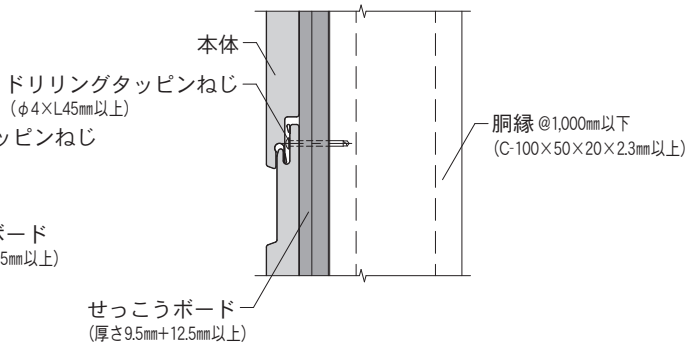
横張り

■せっこうボード下張り仕様：PC030NE-0074

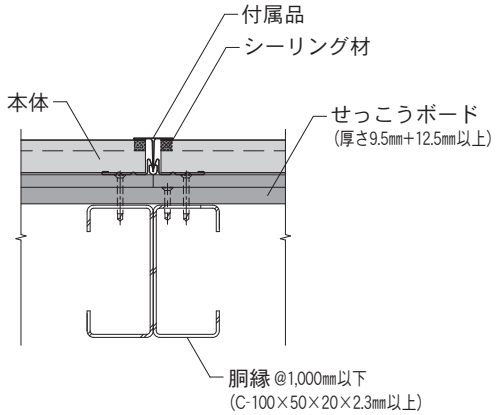
屋外側せっこうボード下張りに対応した認定番号です。



鉛直断面図



水平断面図



チェックポイント

1．せっこうボードは、下張り側をドリリングタッピンねじ（φ4×L25㎜以上）を用いて、333㎜以下の間隔で胴縁に取り付けた後、上張り側をドリリングタッピンねじ（φ4×L35㎜以上）を用いて、333㎜以下の間隔で胴縁に留め付けてください。せっこうボードは、下張り側と上張り側の横目地が重ならないように配置してください。

2．WHパネル25と付属品は、ドリリングタッピンねじ（φ4×L45㎜以上）で留め付けてください。

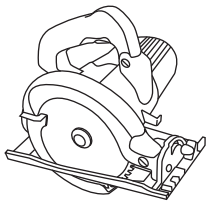
6 施工に必要な工具

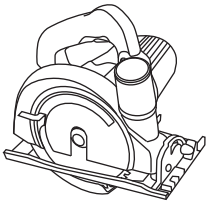
留め具

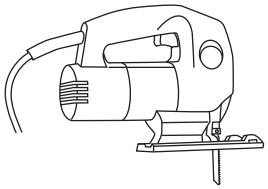
・ドリリングタッピンねじを使用してください。
・留め具の材質はステンレスまたは亜鉛めっきとしてください。
・留め具の長さは防耐火構造認定に従ってください。防耐火構造認定を必要としない場合は下記の表に従ってください。

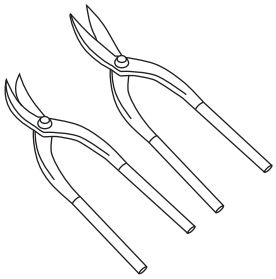
下地	留め具の種類	
鉄骨下地	ドリリングタッピンねじ	φ4×L25㎜以上

切断工具類

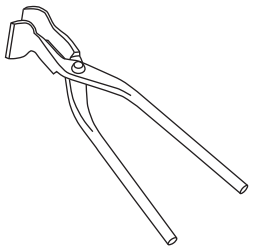

電動丸のこ


防塵丸のこ

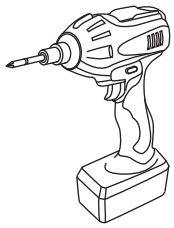

ジグソー

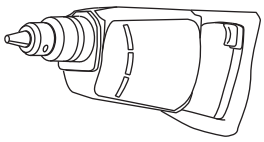

はさみ

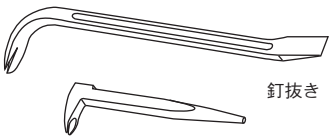
折り曲げ工具類


つかみ

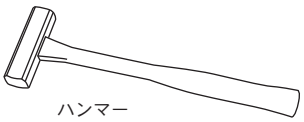
取り付け工具類

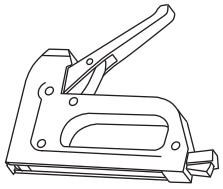

インパクトドライバー

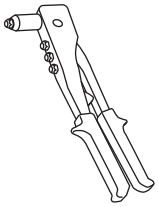

電動ドリル


釘抜き

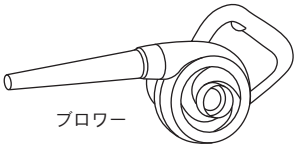
釘しめ


ハンマー

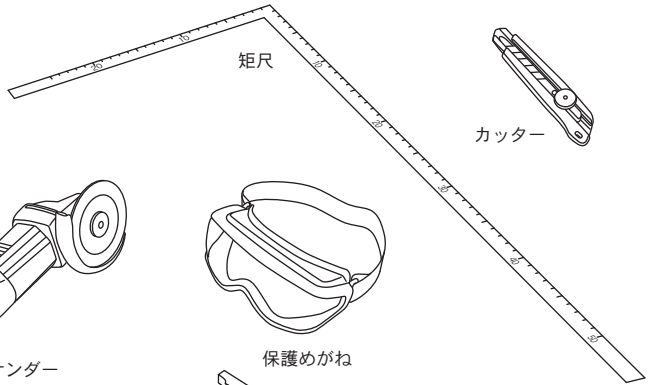

タッカー


リベッター

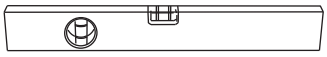
その他の工具類

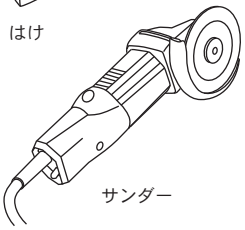

ブロワー

はけ


矩尺

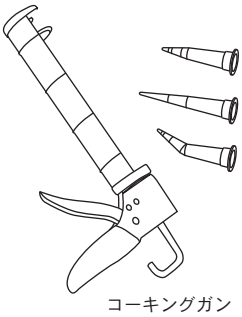
カッター

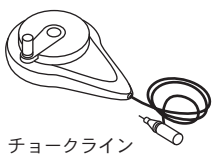

水平器

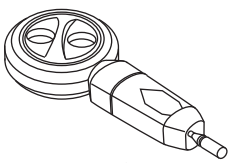

サンダー

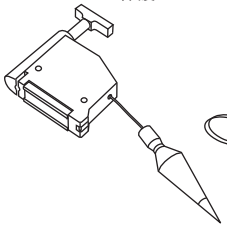
保護めがね

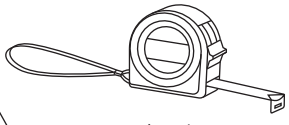
水糸


コーキングガン


チョークライン


墨つぼ（粉）


下げ振り

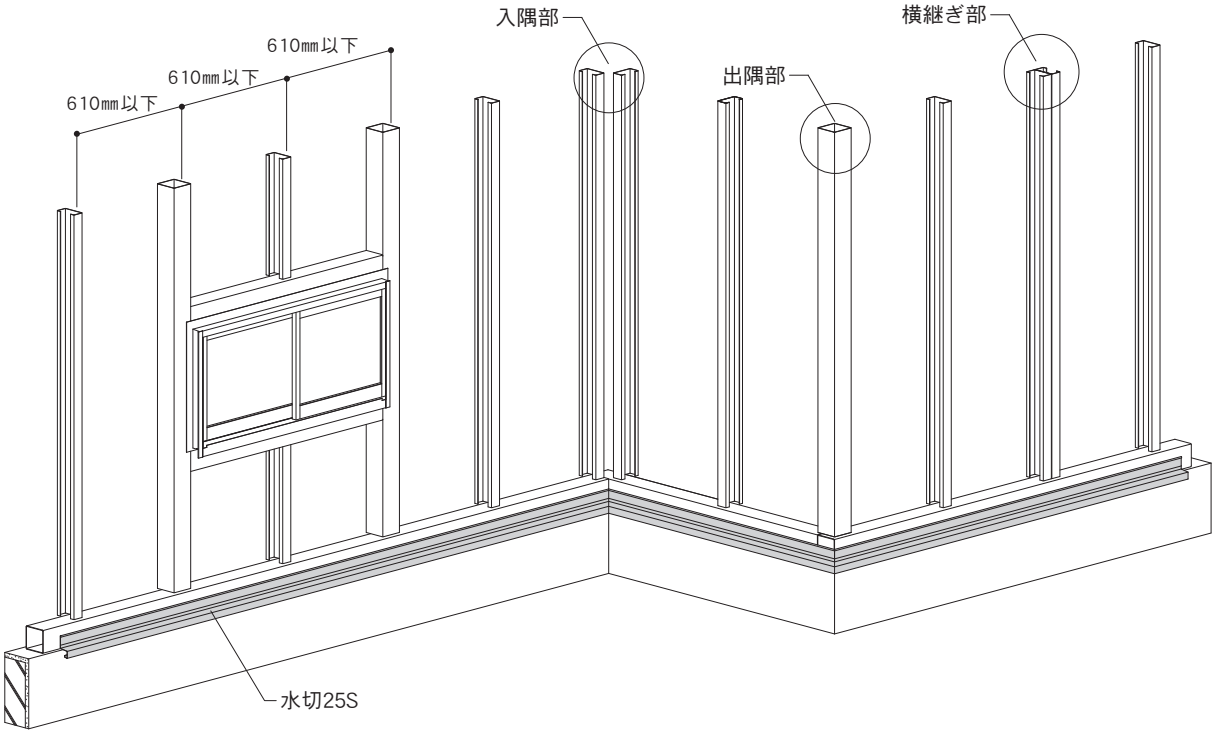

スケール

・調達資材は現場手配となります。
・電源をあらかじめ確保してください。
・ここに記載した以外の工具が必要になることもあります。
・各工具の取り扱いにつきましては、それぞれの取扱説明書に従ってください。

7 施工の手順とポイント

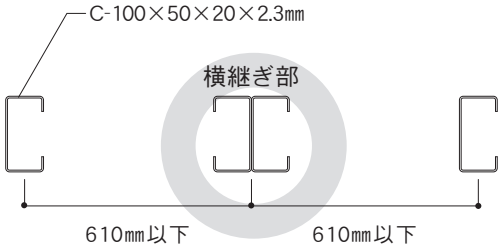
1. 下地の確認 2. 割り付け 3. 水切25Sの施工	4. 墨出し 5. 先付け付属品の施工	6. 本体の施工 7. 捨てシーリングの施工	8. 後付け付属品の施工 9. 仕上げシーリングの施工、補修塗装 10. クリーニング

横張り施工手順

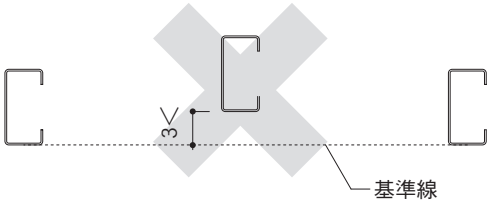


1．下地の確認

●胴縁間隔610㎜以下、C-100×50×20×2.3㎜以上の材料を標準としてください。
横継ぎ部には、C-100×50×20×2.3㎜以上の材料をダブルで取り付けてください。

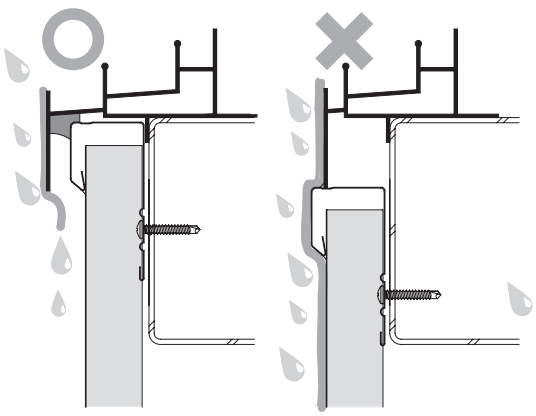


●下地には、不陸がないことを確認してください。
隣り合う胴縁の不陸は3㎜以以内に抑えてください。
また、胴縁同士のつなぎ目の不陸も同様です。



●積雪地域では雪の積もる高さまで、補強胴縁を入れてください。

●サッシは半外付けサッシまたは外付けサッシを使用してください。下枠の出幅が少ないサッシでは、雨だれなどによる汚れが発生しやすくなります。

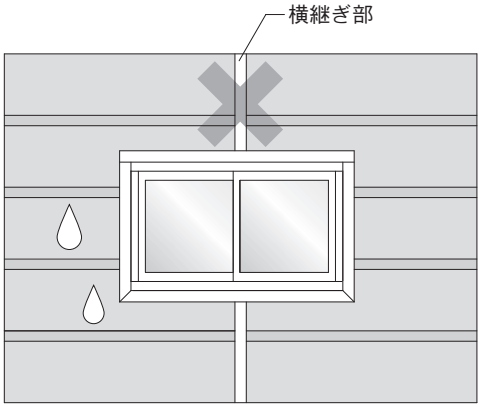


2．割り付け

●本体の横継ぎ部は、開口部の位置、デザイン、材料ロス、作業効率を考慮して決めてください。

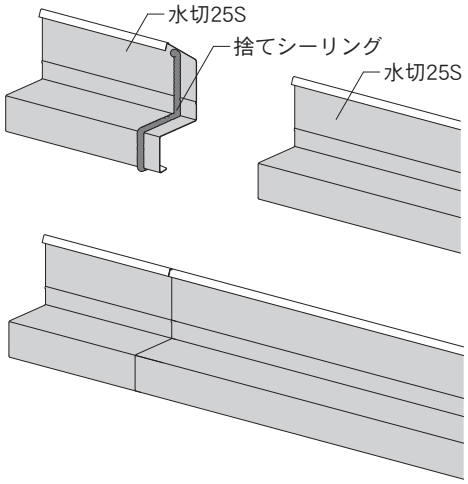
●開口部は雨漏りが発生しやすい箇所です。雨水の集中を避けるため開口部の上下では横継ぎをしないように注意してください。

●サッシは半外付けサッシまたは外付けサッシをご使用ください。下枠の出幅が少ないサッシでは、雨だれなどによる汚れが発生しやすくなります。

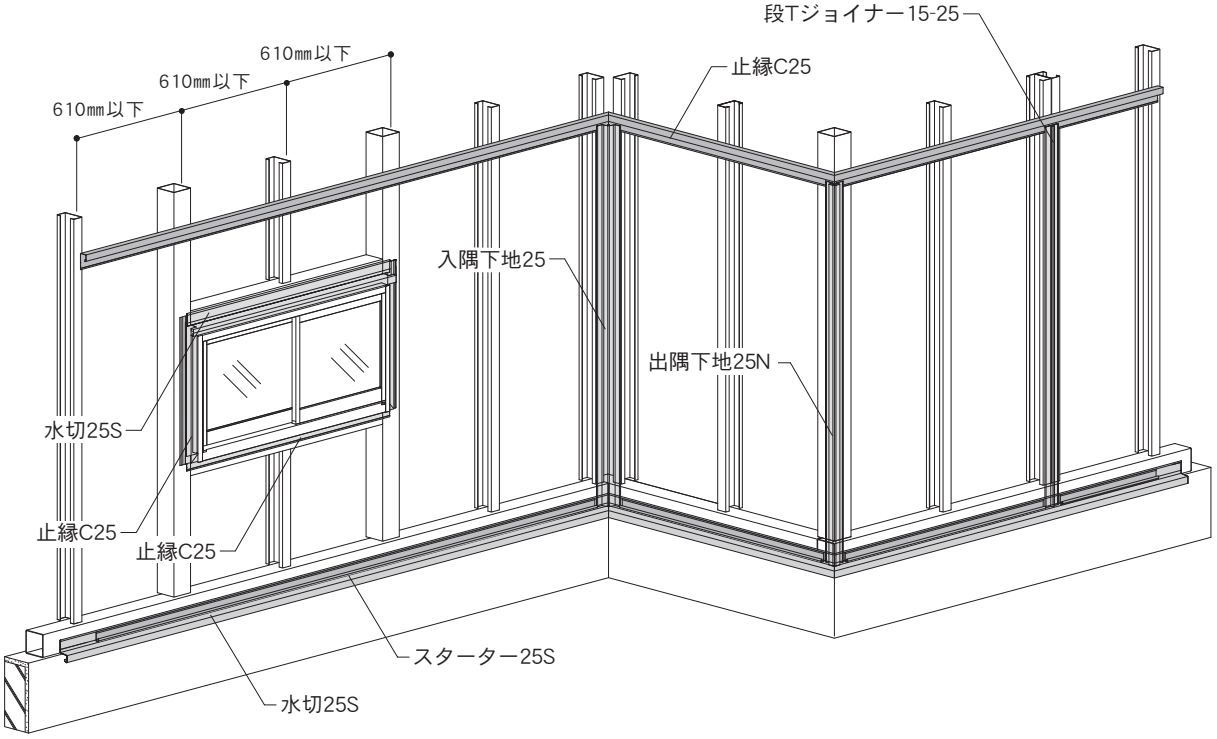


3．水切25Sの施工

●土台部に水切25Sを施工してください。
水切25Sは片側に切り欠き加工がされており、左右の接続が容易に行えます。切断して左右を接続する場合は、同様に切り欠き加工をしてください。
捨てシーリングを施工してから接続してください。
出隅部、入隅部でも、切り欠き加工が必要になります。
P53の「12.付属品の加工方法」を参照してください。



1. 下地の確認 2. 割り付け 3. 水切25Sの施工	**4. 墨出し 5. 先付け付属品の施工**	6. 本体の施工 7. 捨てシーリングの施工	8. 後付け付属品の施工 9. 仕上げシーリングの施工、補修塗装 10. クリーニング



4．墨出し

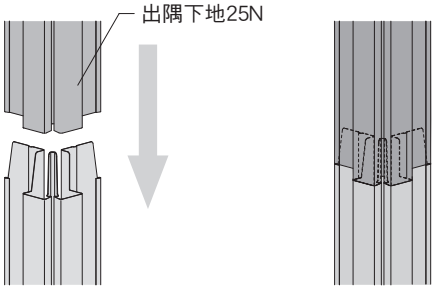
●パネル本体の働き幅に合わせて墨出しを行ってください。

5．先付け付属品の施工

●各部位に付属品を施工してください。
付属品は、先付け付属品→本体→後付け付属品の順序で施工します。先付け付属品と後付け付属品は、組み合わせと数量をご確認の上、施工してください。

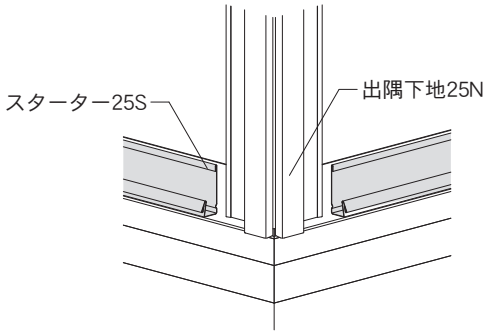
部位	先付け付属品	後付け付属品
出隅	出隅下地25N	出隅キャップ15-25S
入隅	入隅下地25	入隅キャップ15-25S
横継ぎ	段Tジョイナー15-25	段キャップH25WS
	ワンタッチTジョイナー25	ワンタッチHキャップ15-25
軒	止縁C25	−
	止縁捨板25	止縁キャップC25
開口部	水切25S/止縁C25	−
	水切25S/止縁捨板25	止縁キャップC25
下がり壁	下がり壁水切15-25	−
土台 下がり壁	スターター25S	−

●付属品の片側には切り欠き加工がされており、接続が容易に行えます。



●出隅下地25N、入隅下地25、段Tジョイナー15-25を施工してください。

出隅部

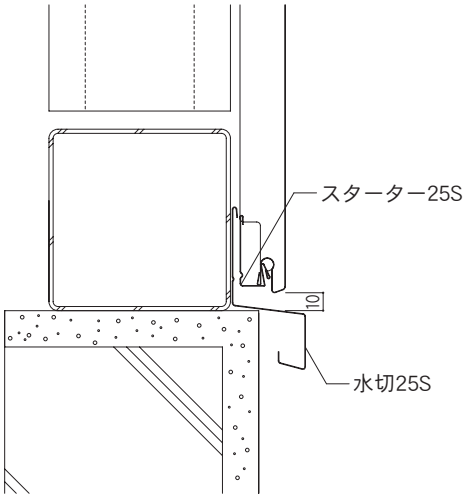


●土台部にスターター25Sを施工してください。下屋見切り部、下がり壁部は、必要に応じてスターター25Sを施工してください。

●スターター25Sは、出隅下地25N、入隅下地25、段Tジョイナー15-25に重ならないように、施工してください。

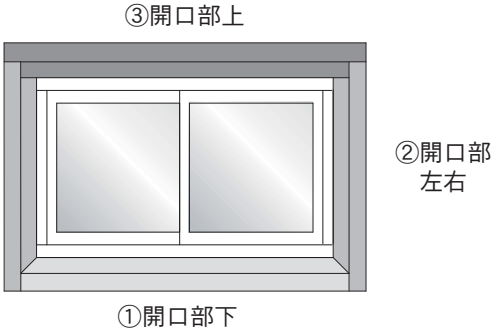
●スターター25Sの施工の際は、本体と水切25Sとのすき間が10㎜程度あくように取り付けてください。

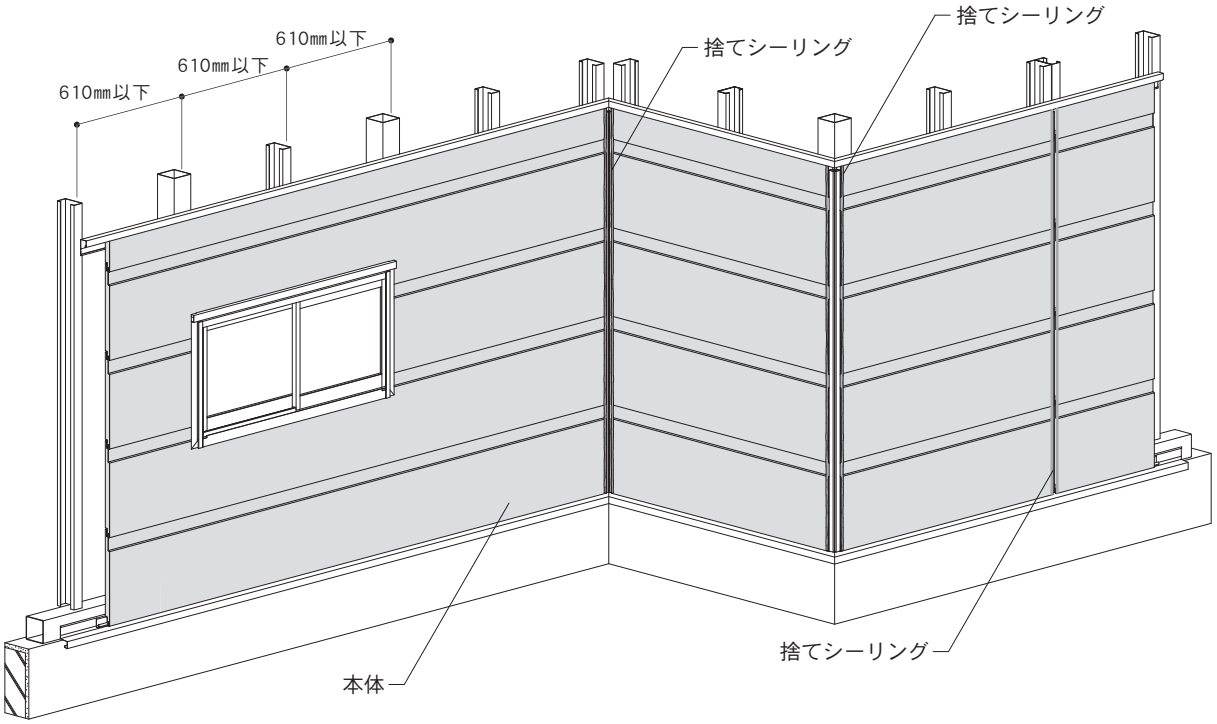
土台部



●開口部の付属品の取り付けは、基本的に①開口部下、②開口部左右、③開口部上の順序で施工してください。

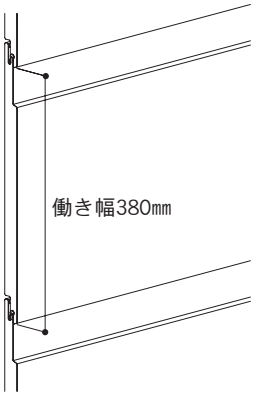
開口部





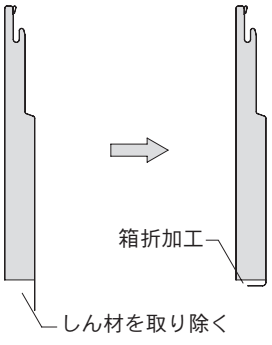
6．本体の施工

●墨出し線に合わせて本体を施工してください。働き幅で施工しない場合、水密性や耐風圧などで十分な性能を発揮できません。
また、目地ずれなどの意匠性の低下につながります。

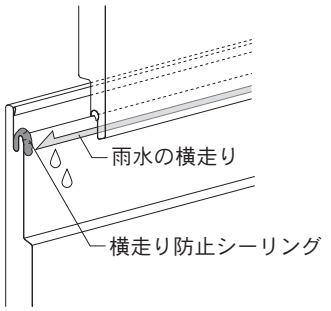


●開口部、下屋見切り部、下がり壁部などで本体を切断して納める際は、箱折加工を施してください。

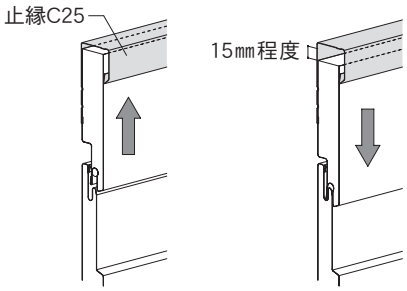
●施工期間中は、笠木などから雨水が入らないよう、養生してください。



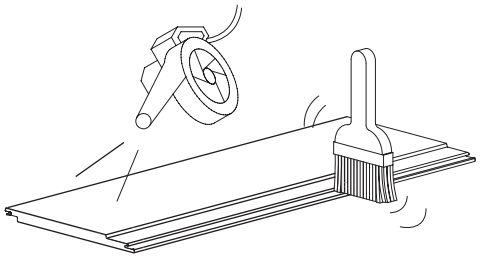
●出隅部、入隅部、横継ぎ部などに本体を施工する際は雨水の横走りを防止するために、1枚ごとに横走り防止シーリングを捨てシーリングと連続する位置に施工してください。



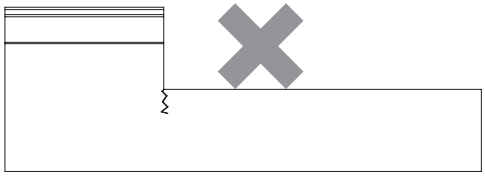
●本体の張り終わりなどで止縁C25に差し込む際は、15㎜程度のはめ込み代が必要となります。採寸時に注意してください。



●切断時に発生するバリ・切り粉はさびの原因になります。必ず除去してください。



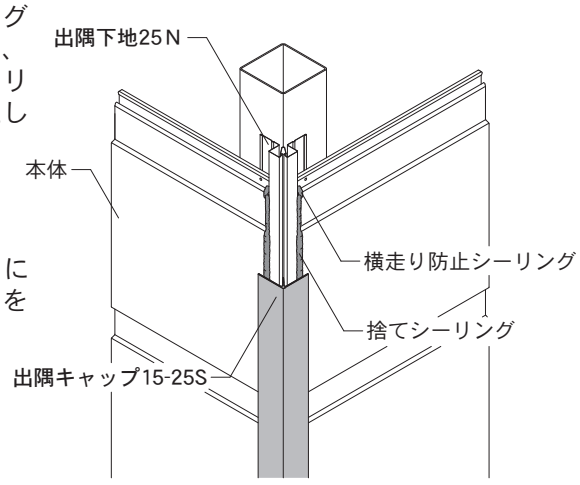
●本体を切り欠く際は、破損しないように注意してください。

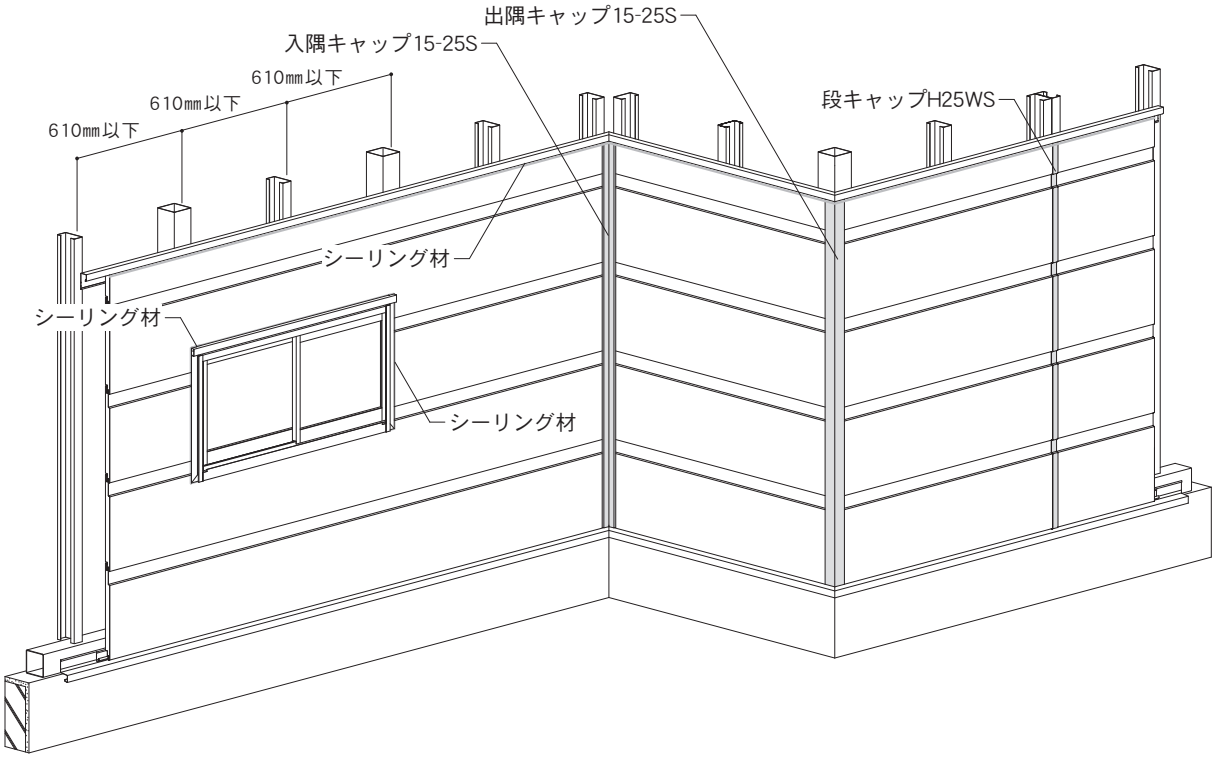


7.捨てシーリングの施工

●後付け付属品を施工する前に出隅部、入隅部、横継ぎ部に捨てシーリングを施工してください。捨てシーリングは、後付け付属品を施工した際にはみ出さないよう、シーリング幅を考慮して施工してください。捨てシーリングは、横走り防止シーリングとつながるように施工してください。

●付属品を使用する箇所で本体同等の水密性を発揮するには、シーリング材を施工する必要があります。納まり図を参照して指定箇所にシーリング材を施工してください。





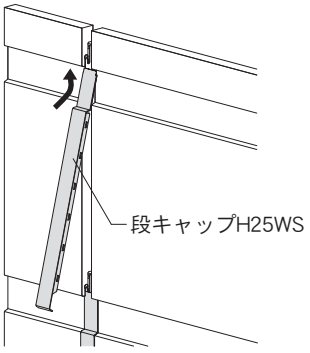
8．後付け付属品の施工

●各部位に後付け付属品を取り付けてください。後付け付属品の片側には切り欠き加工がされており、接続が容易に行えます。

部位	先付け付属品	後付け付属品
出隅	出隅下地25N	出隅キャップ15-25S
入隅	入隅下地25	入隅キャップ15-25S
横継ぎ	段Tジョイナー15-25	段キャップH25WS
	ワンタッチTジョイナー25	ワンタッチHキャップ15-25
軒	止縁C25	―
	止縁捨板25	止縁キャップC25
開口部	水切25S/止縁C25	―
	水切25S/止縁捨板25	止縁キャップC25
下がり壁	下がり壁水切15-25	―
土台 下がり壁	スターター25S	―

●垂直方向に施工する付属品は下から上へ張り上げてください。

●段キャップH25WSは、先端を本体かん合目地に差込み、先付け付属品に取り付けてください。

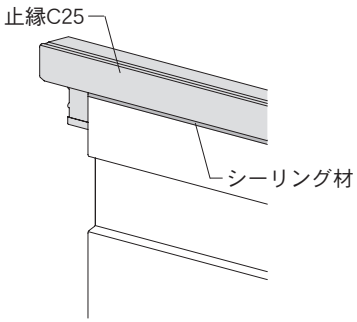


9．仕上げシーリングの施工、補修塗装

●仕上げシーリングは、接着面が乾燥している状態で施工してください。シーリング材の接着面が高温の場合は工事を控えてください。また、水分、油分、ほこりなどにも注意してください。詳細は該当する箇所の納まり図を参照してください。

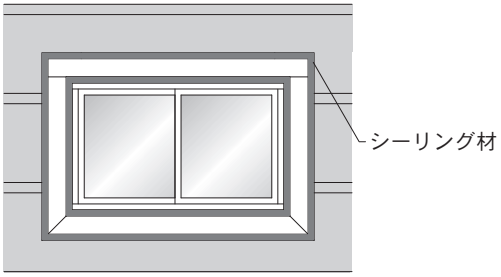
●タッチアップペイントは、使用前によく撹拌してから使用してください。カタカタという音がしてから30秒以上振り、よく撹拌してください。
事前に商品の端材などで試し塗りをして、色調の確認を行ってください。
タッチアップペイントは、常乾タイプの塗料です。商品とは塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。塗料の接着面が高温の場合は工事を控えてください。また、水分、油分、ほこりなどにも注意してください。

軒部



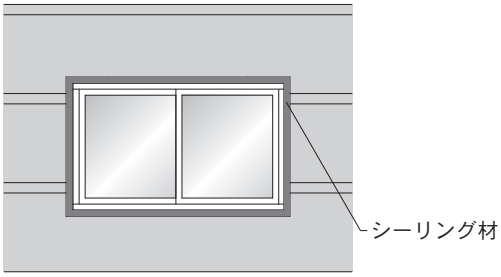
●開口部①：水切25Sと止縁C25を使用する場合
開口部上は、本体に箱折加工を施してください。付属品と本体の間、サッシと付属品の間はシーリング材を施工してください。

開口部①：水切25Sと止縁C25を使用する場合



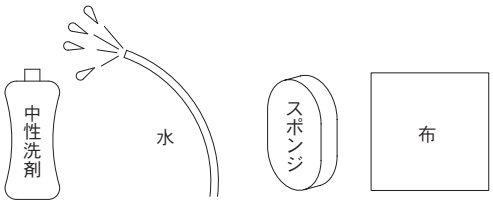
●開口部②：付属品を使用しない場合
開口部上、開口部左右、開口部下は本体に箱折加工を施してください。サッシと本体の間は、シーリング材を施工してください。

開口部②：付属品を使用しない場合



10. クリーニング

●商品表面をクリーニングする場合は、水または中性洗剤（1～2%の水溶液）で洗浄し、中性洗剤を使用した場合は、水でよく洗い流してください。洗浄用具は、やわらかいスポンジや布を使用し、商品表面に傷が付かないように注意してください。



縦張り施工手順

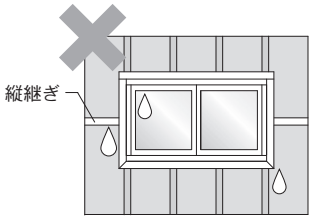
基本的な施工手順は横張りと同様ですが、縦張りの際は以下の手順に留意してください。
（詳細は横張りの施工手順、及び納まり図を参照ください。）

❶下地の確認

・胴縁は横胴縁とし、間隔は610㎜以下、C-100×50×20×2.3㎜以上の材料を標準としてください。
・縦継ぎ部にはC-100×50×20×2.3㎜以上の胴縁をダブルで施工してください。

❷割り付け

・開口部は雨漏りが発生しやすい箇所です。雨水の集中を避けるため開口部左右には縦継ぎ部を配置しないよう注意してください。

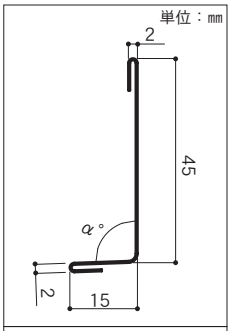


❸水切25Sの施工 → ❹墨出し

❺先付け付属品の施工

・縦継ぎ部の水切25Sと出隅下地25Nや入隅下地25などの先付け付属品との取り合いでは、水切25Sを先に取り付けてください。水切25Sと出隅キャップ15-25Sでは水切25Sの方が出幅が大きいため出隅キャップ15-25Sを通して施工することはできません。

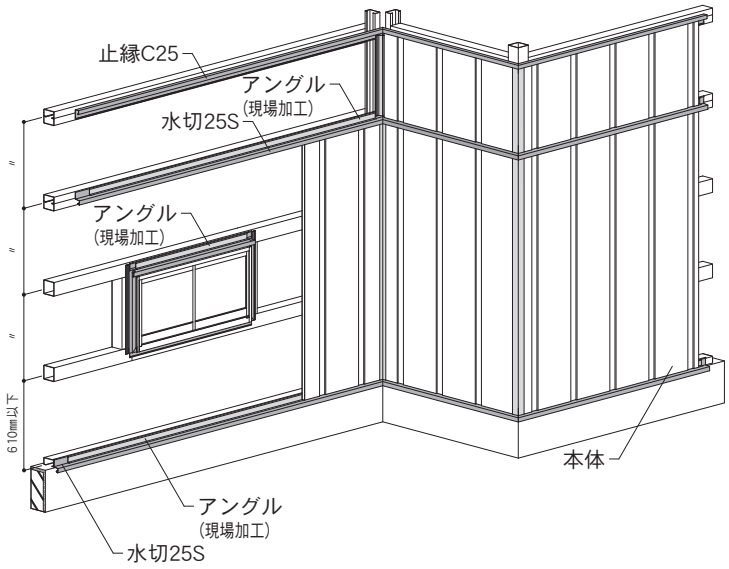
・水切25S、下がり壁水切15-25の指定箇所では、防水のため右の図のアングル（現場加工）を使用してください。α°は水がたまらないように直角以上（92°程度）の角度をつけてください。詳細は、納まり図を参照してください。



アングル （現場加工）

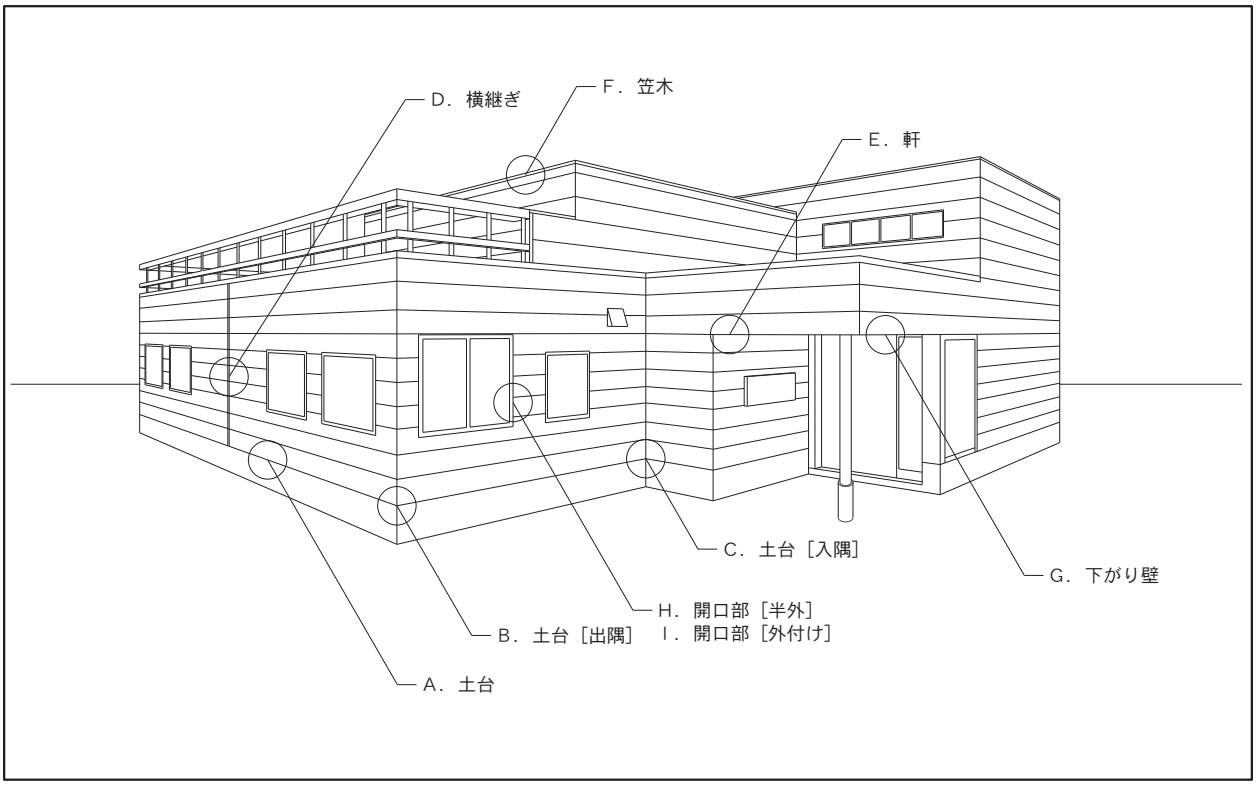
❻本体の施工 → ❼捨てシーリングの施工 → ❽後付け付属品の施工

❾シーリング材の施工、補修塗装 → ❿クリーニング



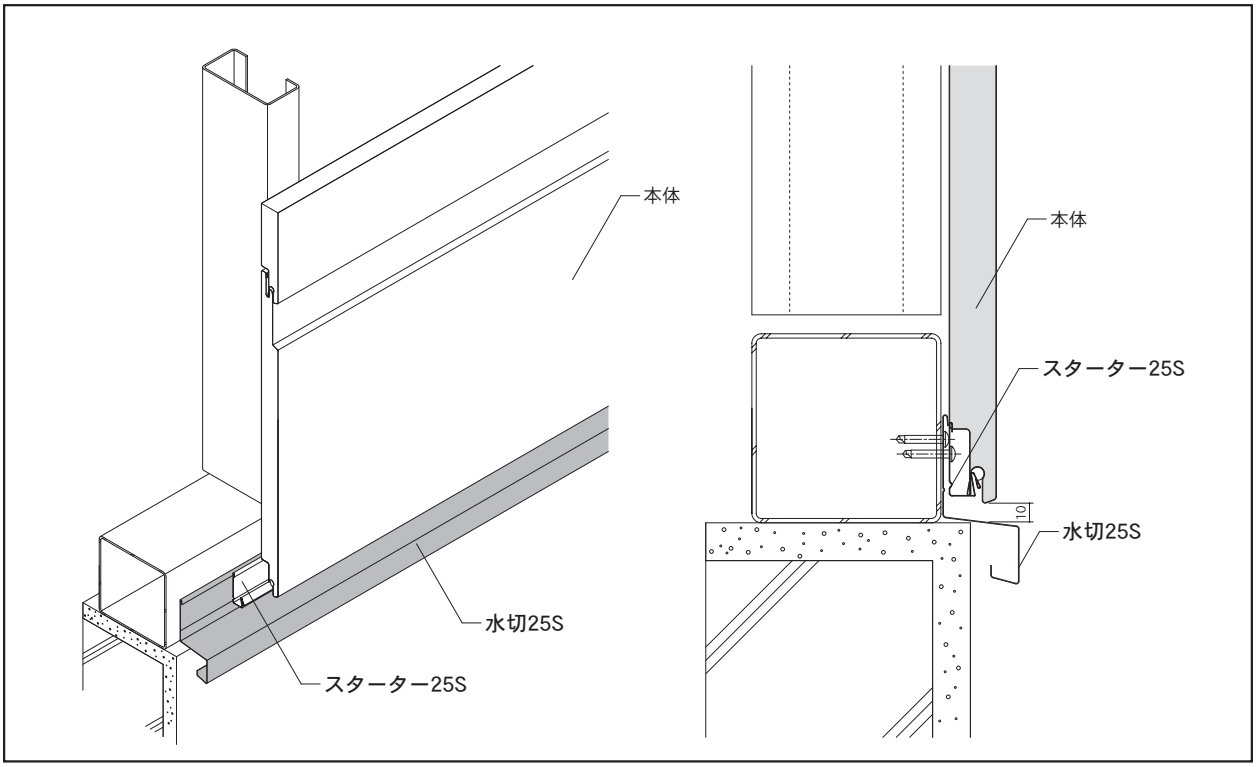
部位	先付け付属品	後付け付属品
出隅	出隅下地25N	出隅キャップ15-25S
入隅	入隅下地25	入隅キャップ15-25S
縦継ぎ	水切25S/アングル	―
軒	止縁C25	―
	止縁捨板25	止縁キャップC25
開口部	水切25S/止縁C25/アングル	―
	水切25S/止縁捨板25/アングル	止縁キャップC25
下がり壁	下がり壁水切15-25/アングル	―

8 納まり図



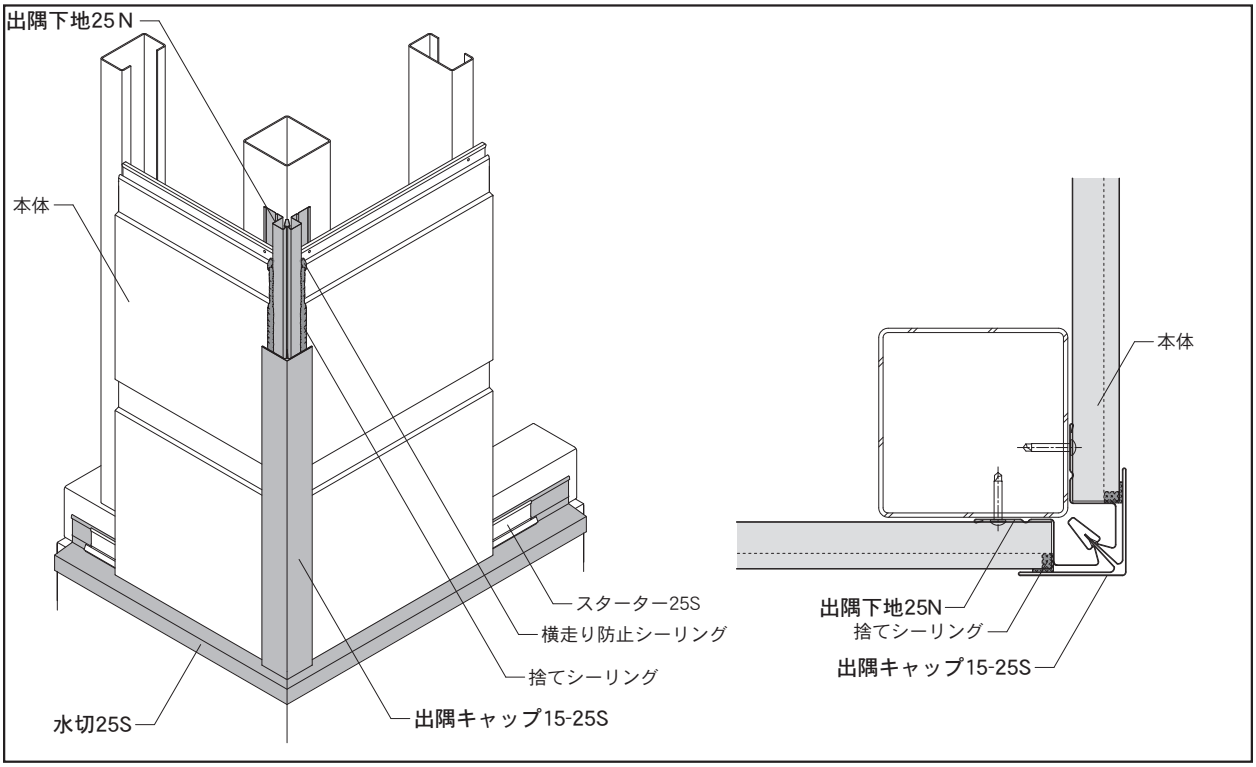
A．土台・・・・・・・・・・・・・・P24
B．土台［出隅］・・・・・・・・・・P24
C．土台［入隅］・・・・・・・・・・P25
D．横継ぎ・・・・・・・・・・・・・P26
E．軒・・・・・・・・・・・・・・・P27
F．笠木・・・・・・・・・・・・・・P28
G．下がり壁・・・・・・・・・・・・P29
H．開口部［半外］・・・・・・・・・P30
I．開口部［外付け］・・・・・・・・P31～33

A．土台　（水切25S／スターター25S）

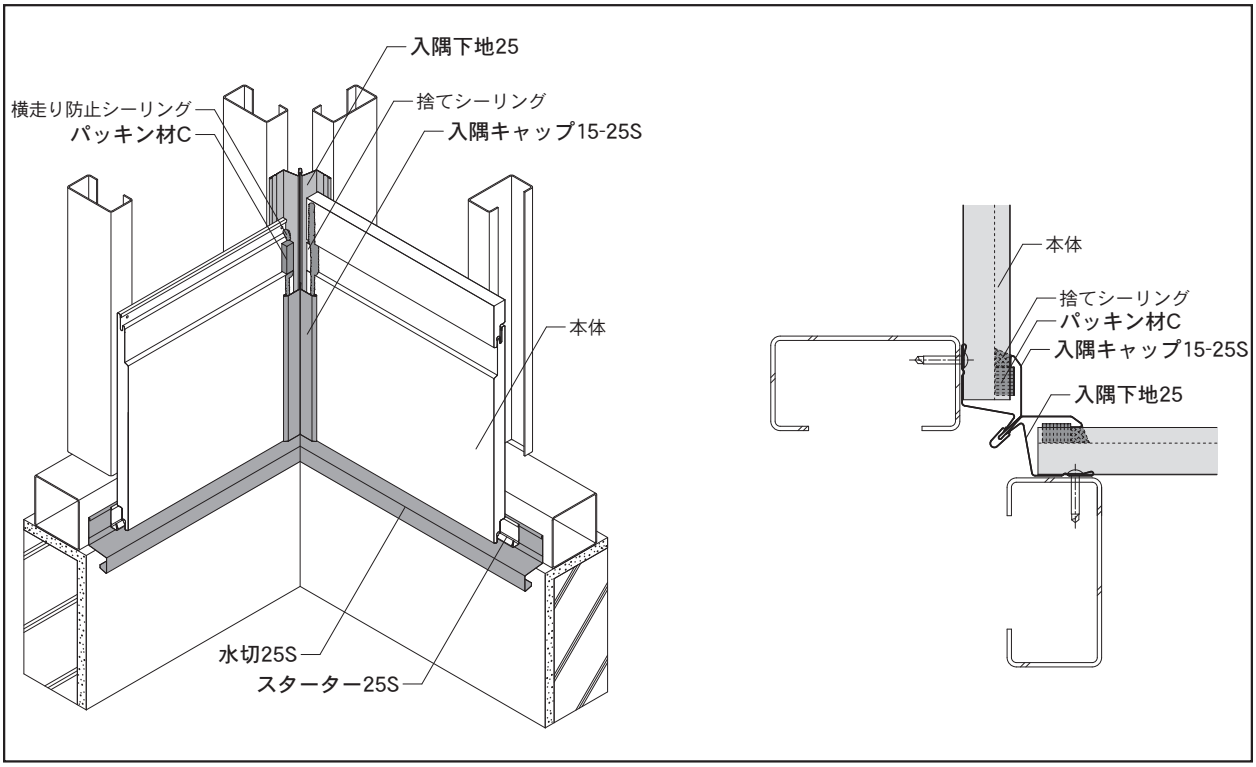


●出隅・入隅などの加工はP53の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

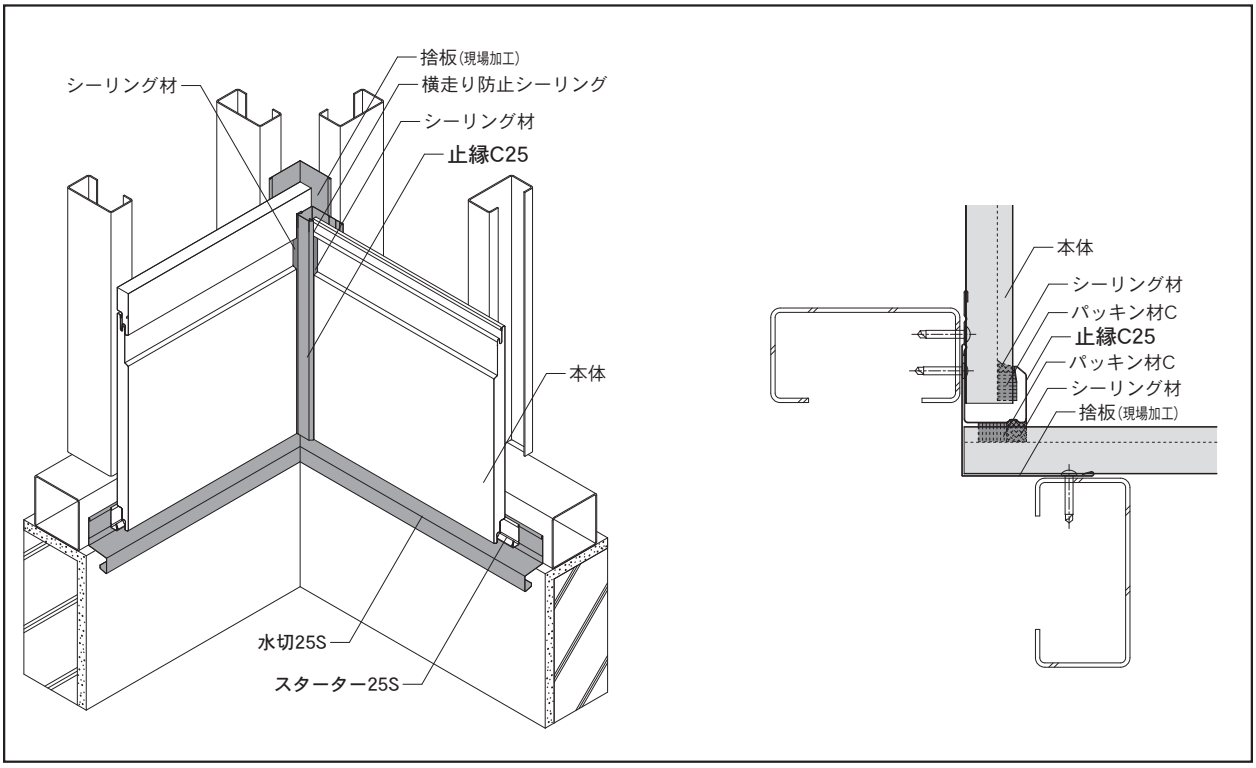
B．土台［出隅］　（出隅キャップ15-25S／出隅下地25N）



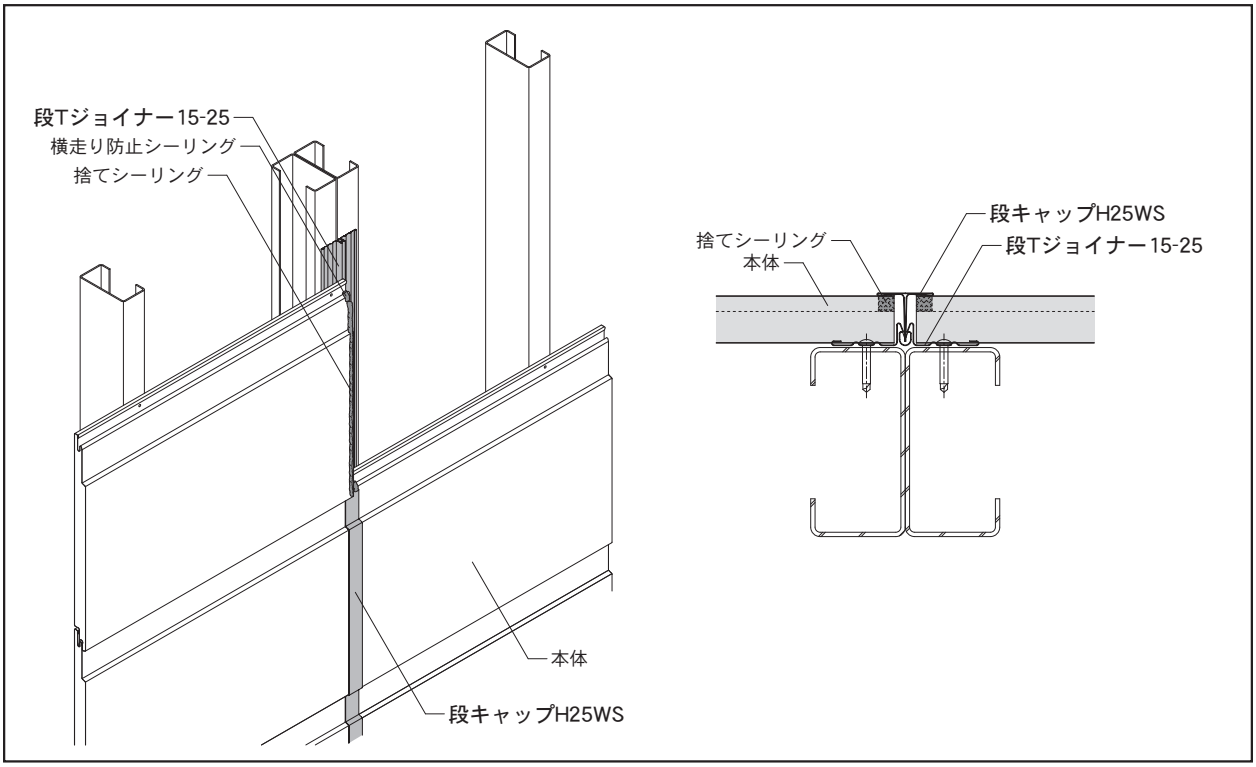
C．土台［入隅］①　（入隅キャップ15-25S／入隅下地25）



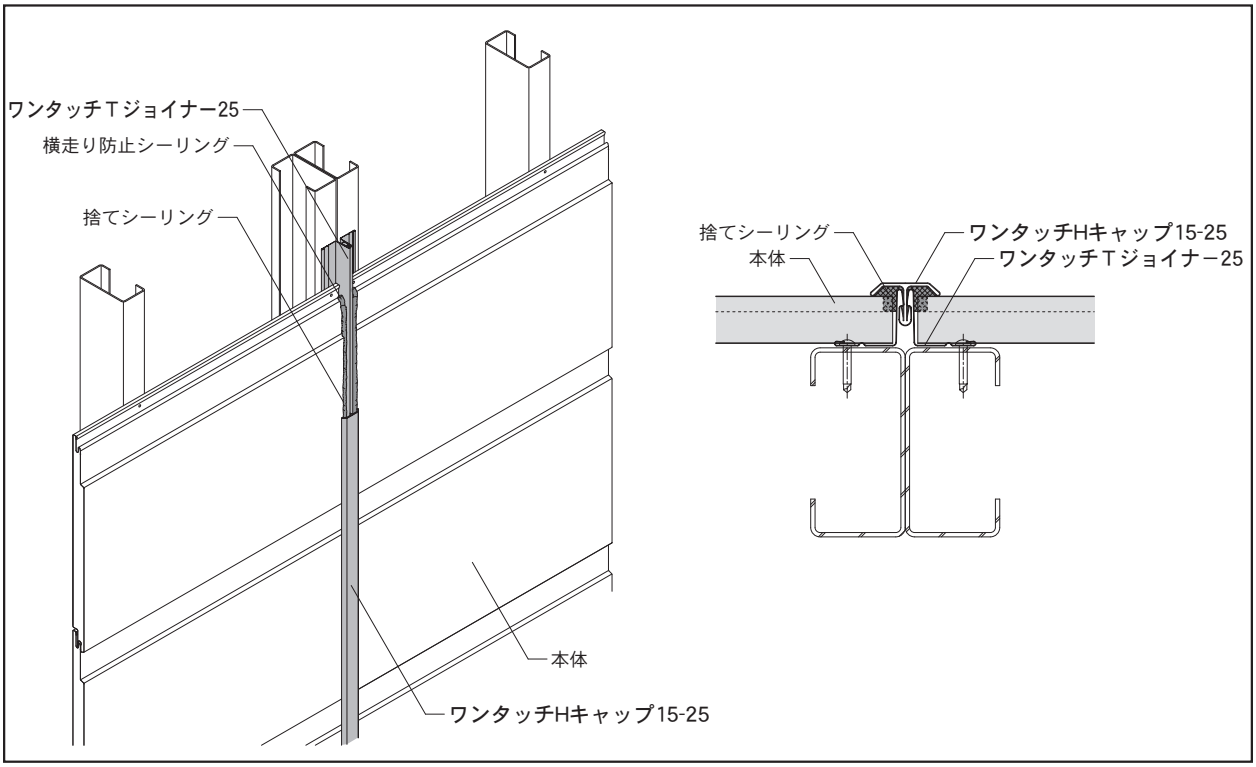
C．土台［入隅］②　（止縁C25）



D．横継ぎ①　（段キャップH25WS／段Ｔジョイナー15-25）

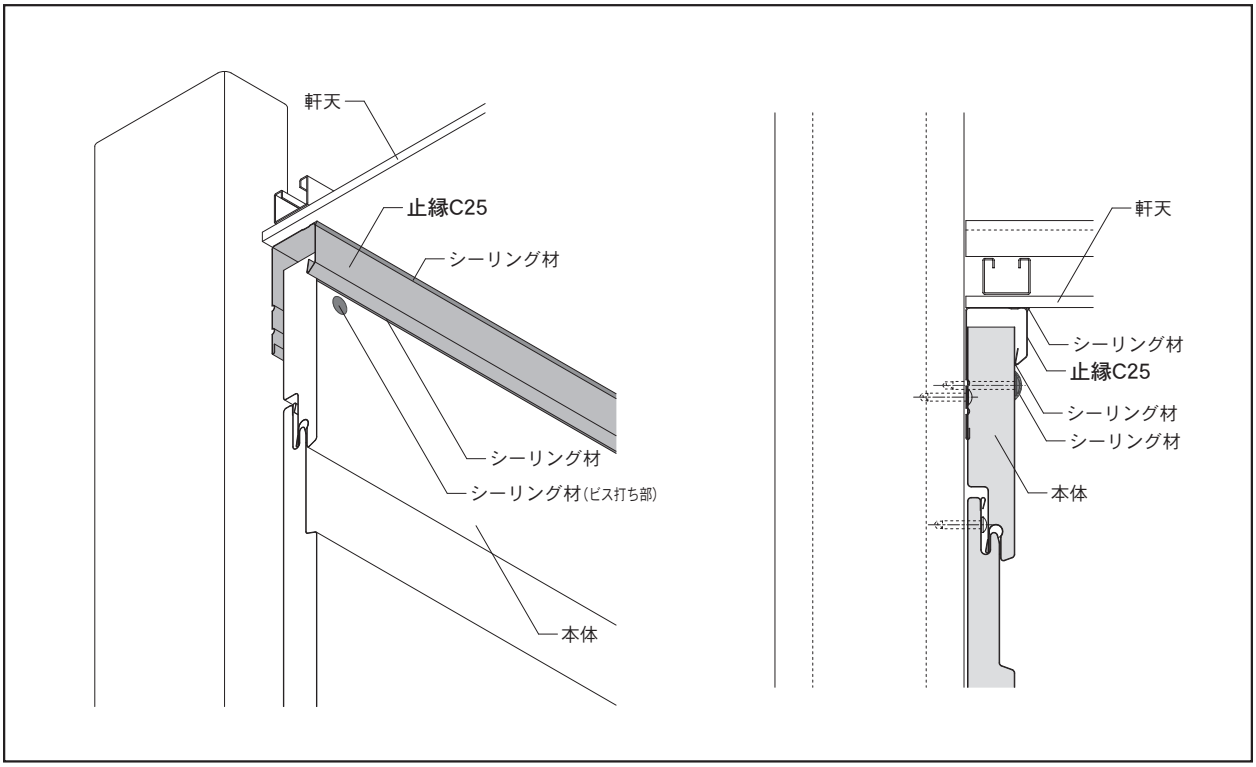


D．横継ぎ②　（ワンタッチHキャップ15-25／ワンタッチＴジョイナー25）



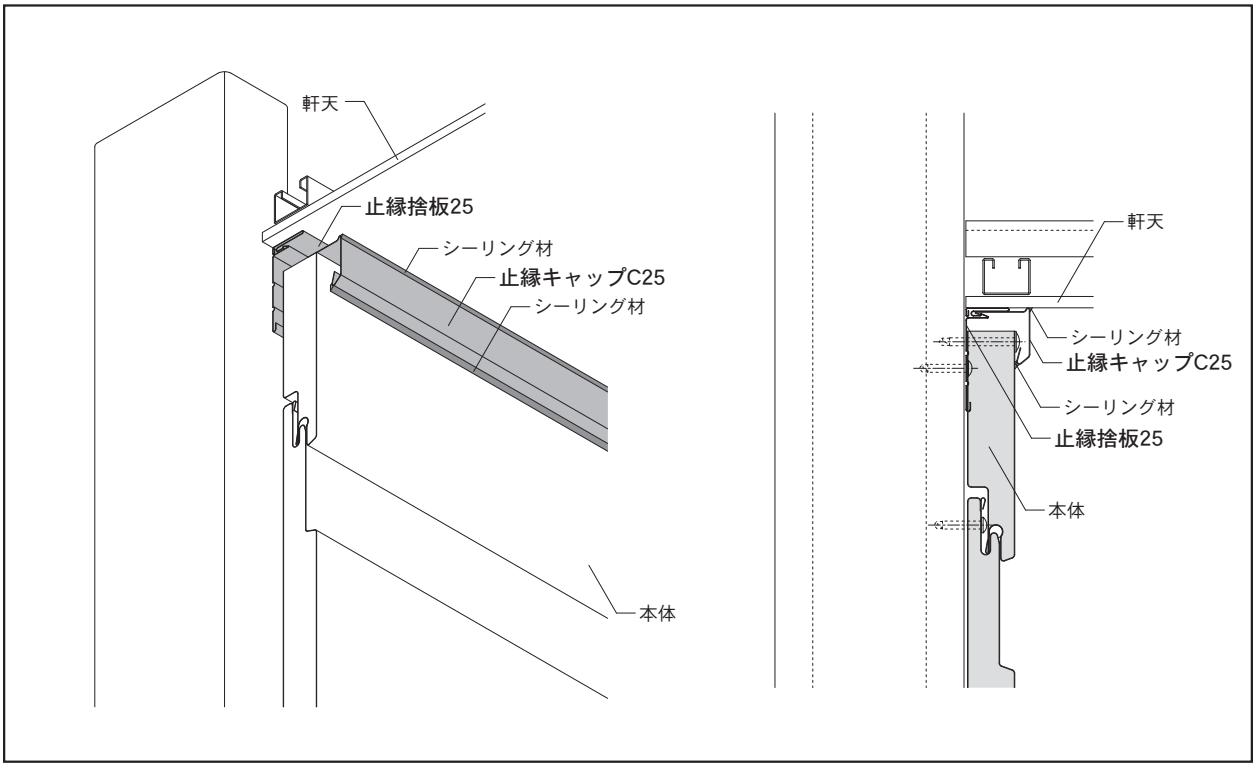
E． 軒①

（止縁C25）

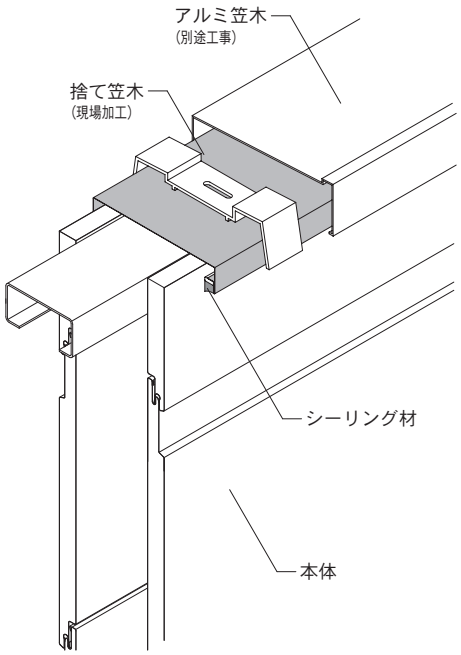


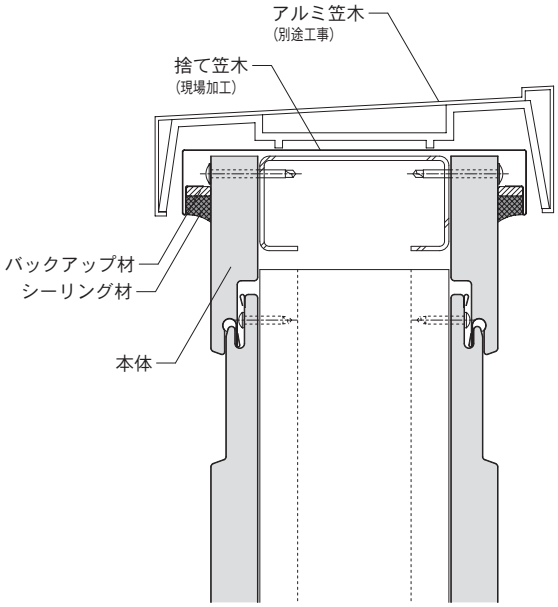
E． 軒②

（止縁キャップC25／止縁捨板25）

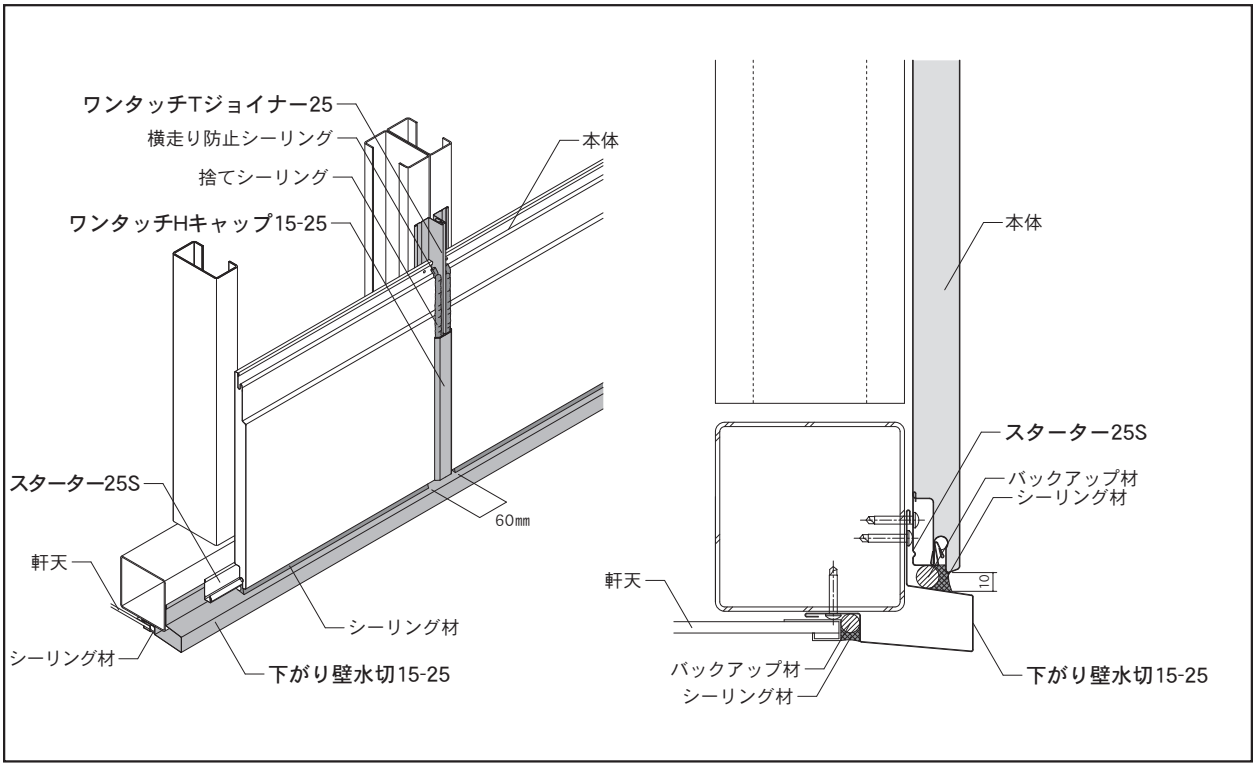


F．笠木


アルミ笠木
(別途工事)
捨て笠木
(現場加工)
シーリング材
本体

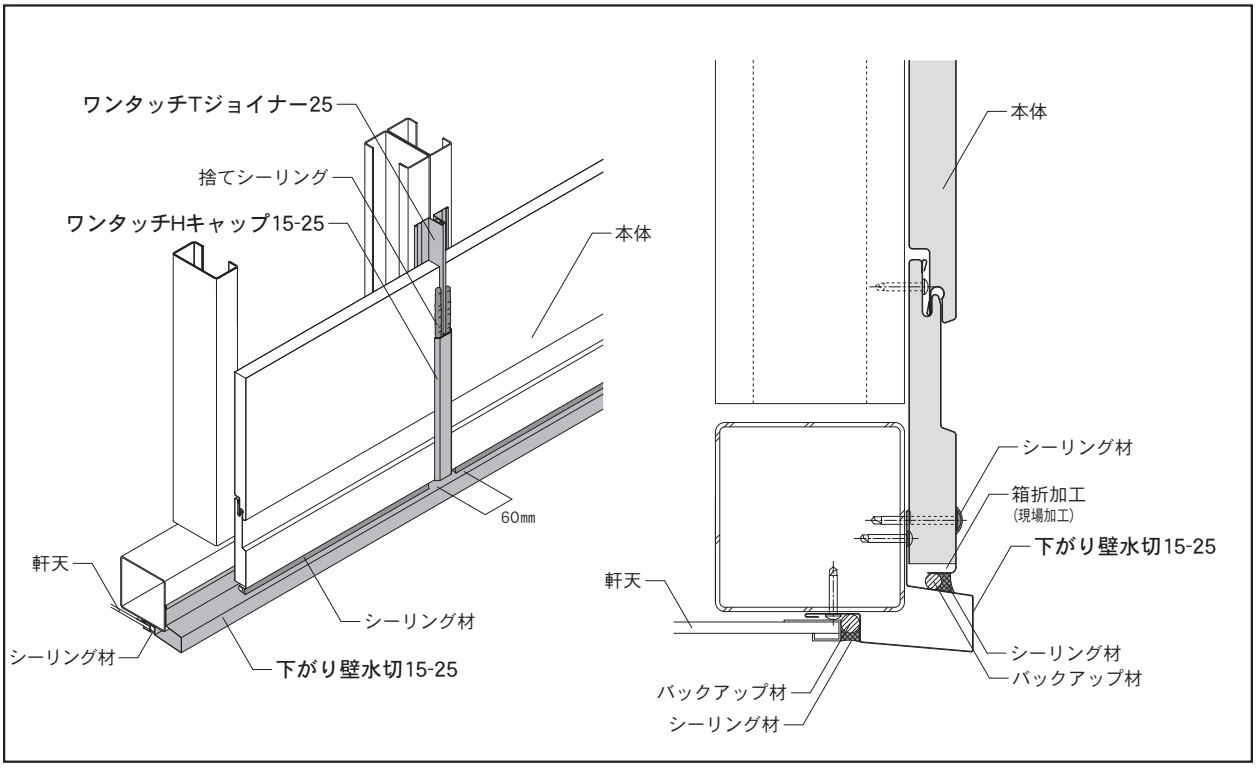

アルミ笠木
(別途工事)
捨て笠木
(現場加工)
バックアップ材
シーリング材
本体

G．下がり壁①　（下がり壁水切15-25／スターター25S）



●横継ぎ付属品下部はシーリング材を施工しないでください。

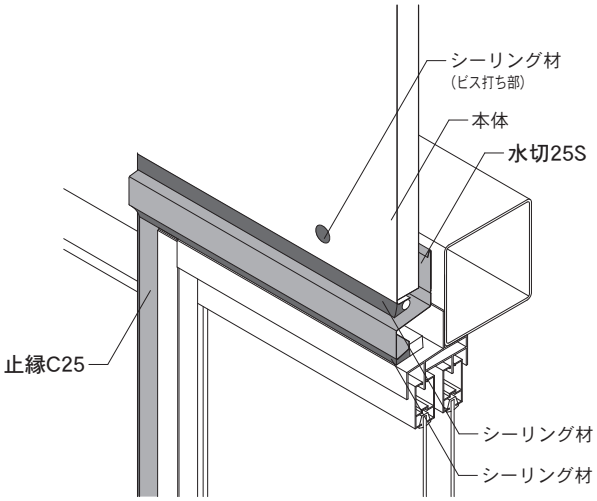
G．下がり壁②　（下がり壁水切15-25）

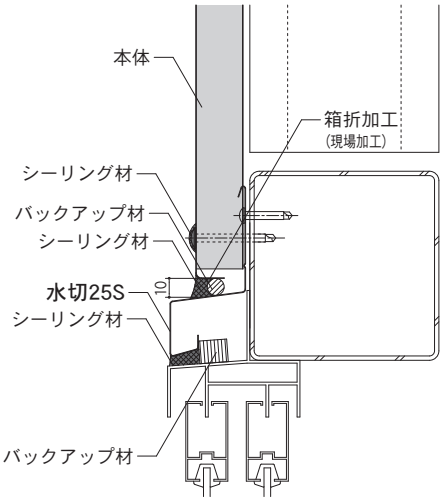


●横継ぎ付属品下部はシーリング材を施工しないでください。

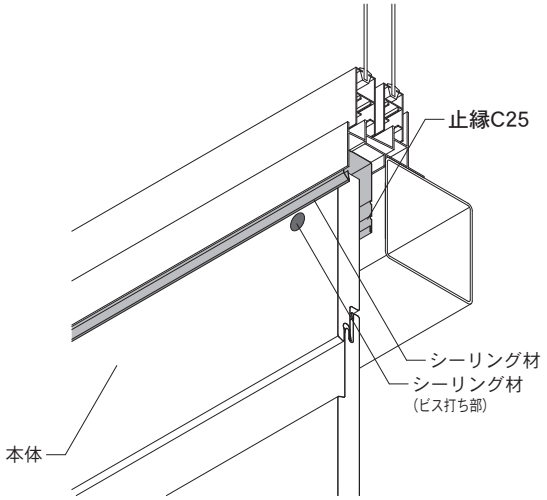
H. 開口部［半外］①　（水切25S／止縁C25）

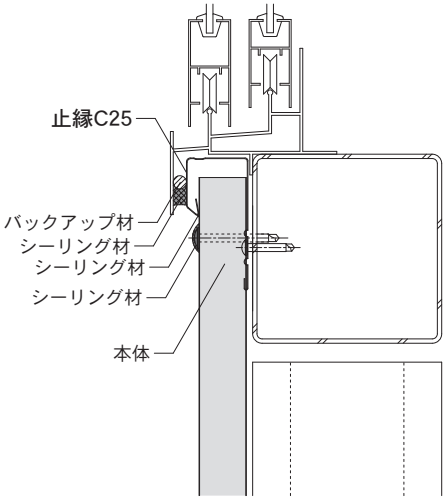
開口部上



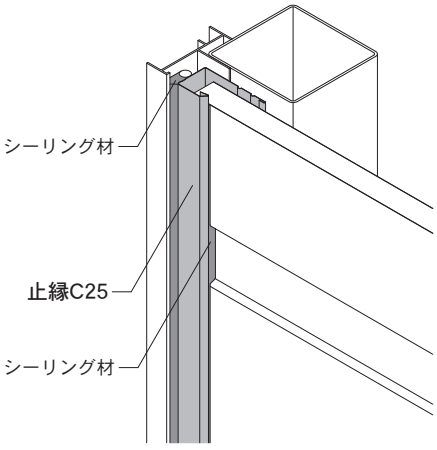


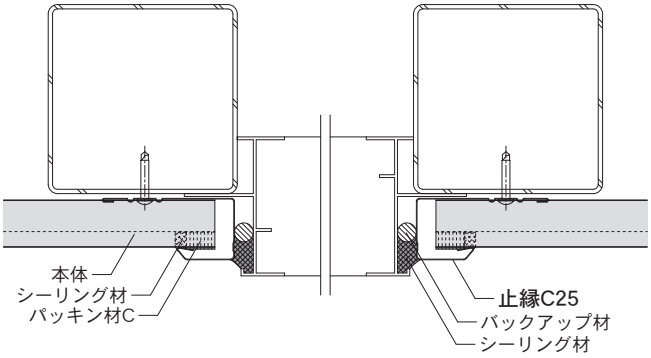
開口部下





開口部左右

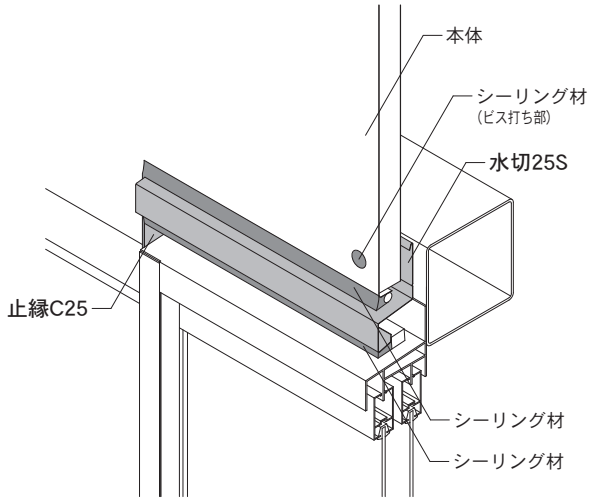


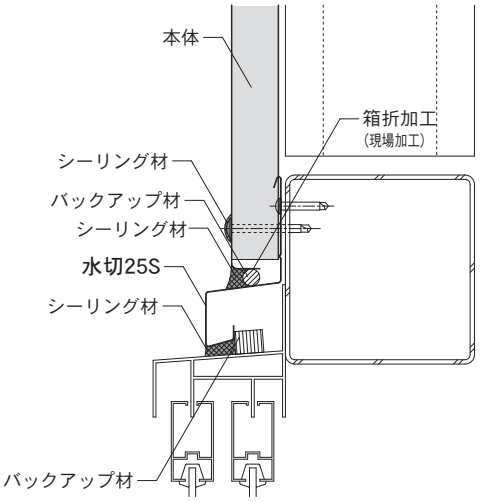


●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

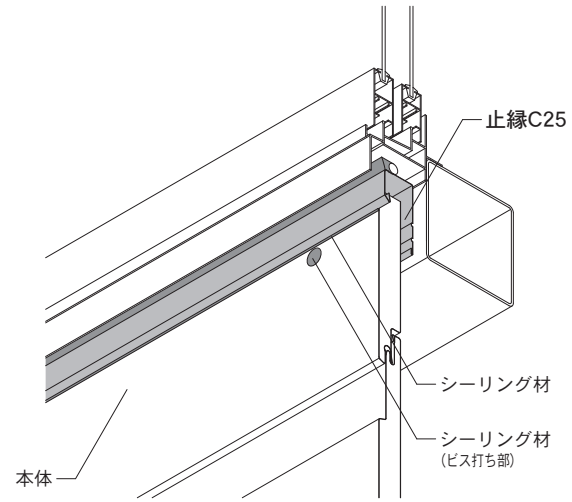
Ⅰ．開口部［外付け］①　（水切25S／止縁C25）

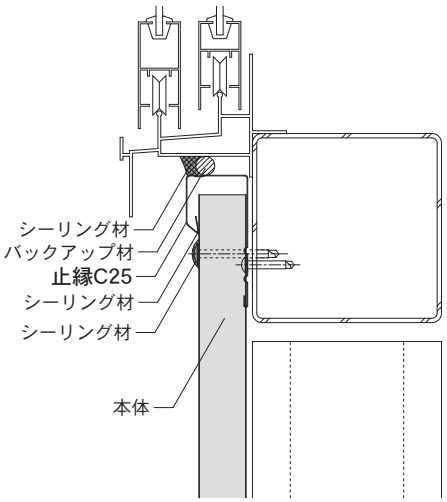
開口部上



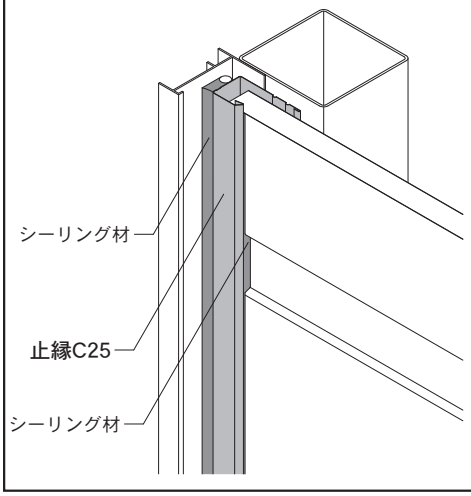


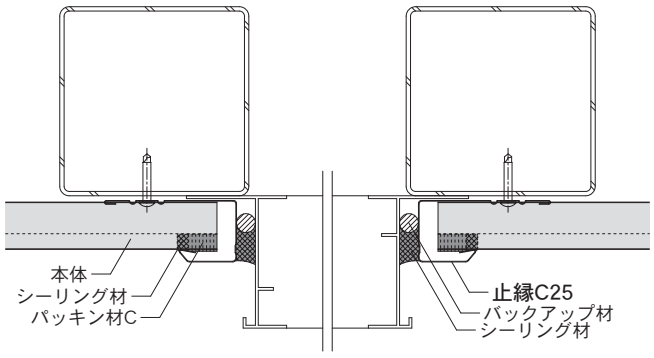
開口部下





開口部左右

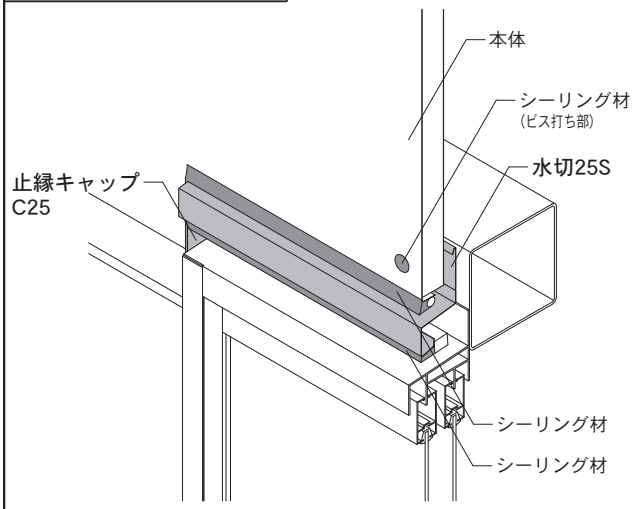


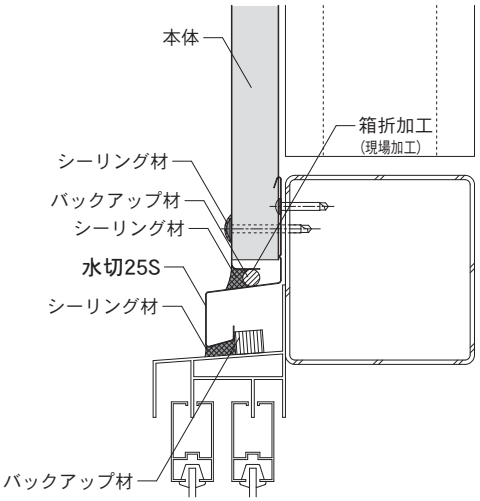


●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

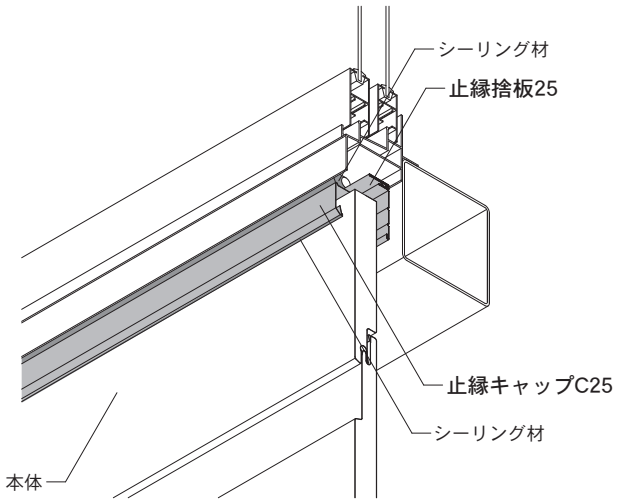
Ⅰ．開口部［外付け］②　（水切25S／止縁キャップC25／止縁捨板25）

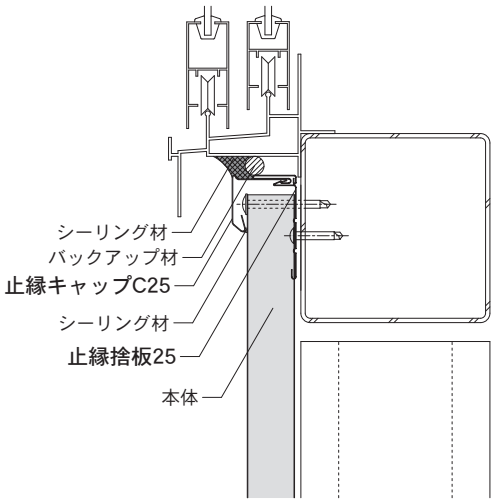
開口部上



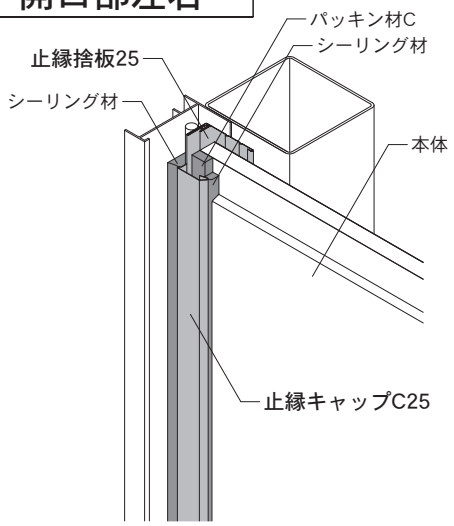


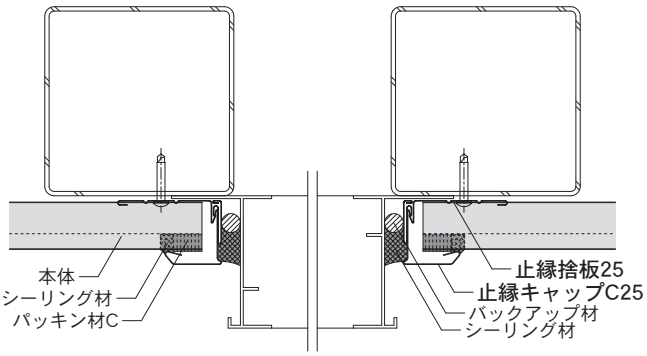
開口部下





開口部左右



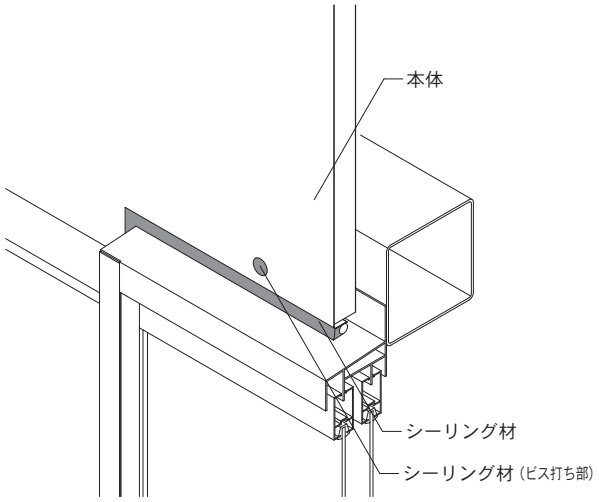


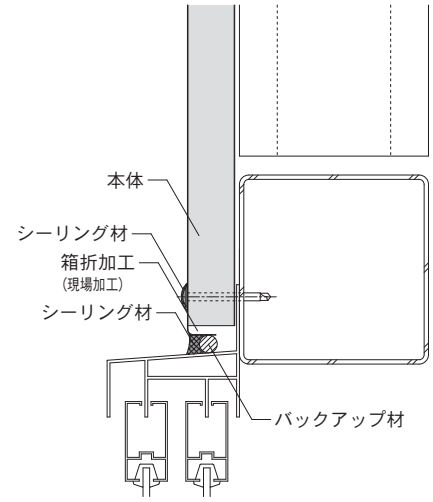
●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

Ⅰ．開口部［外付け］③

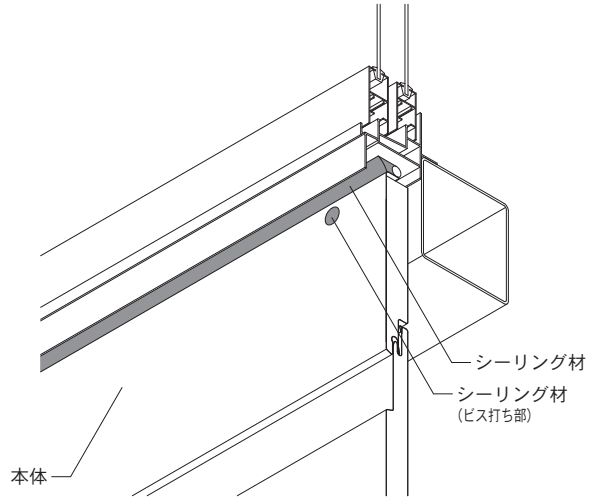
（付属品なし）

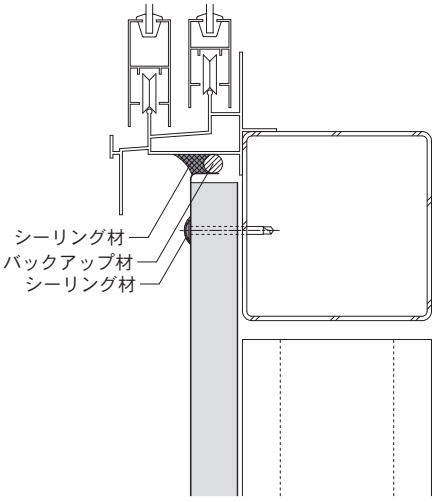
開口部上



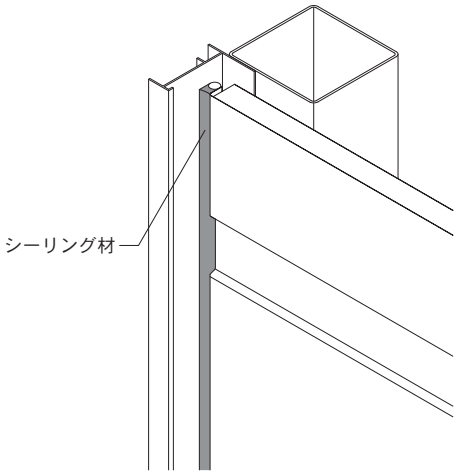


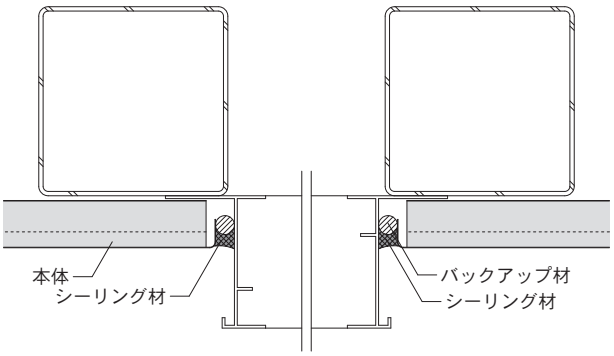
開口部下





開口部左右





［！］注意：しん材にシーリング材は接着しません。必ず箱折加工を施してください。

●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。サッシと本体のすき間にシーリング材を施工してください。

9 納まり図

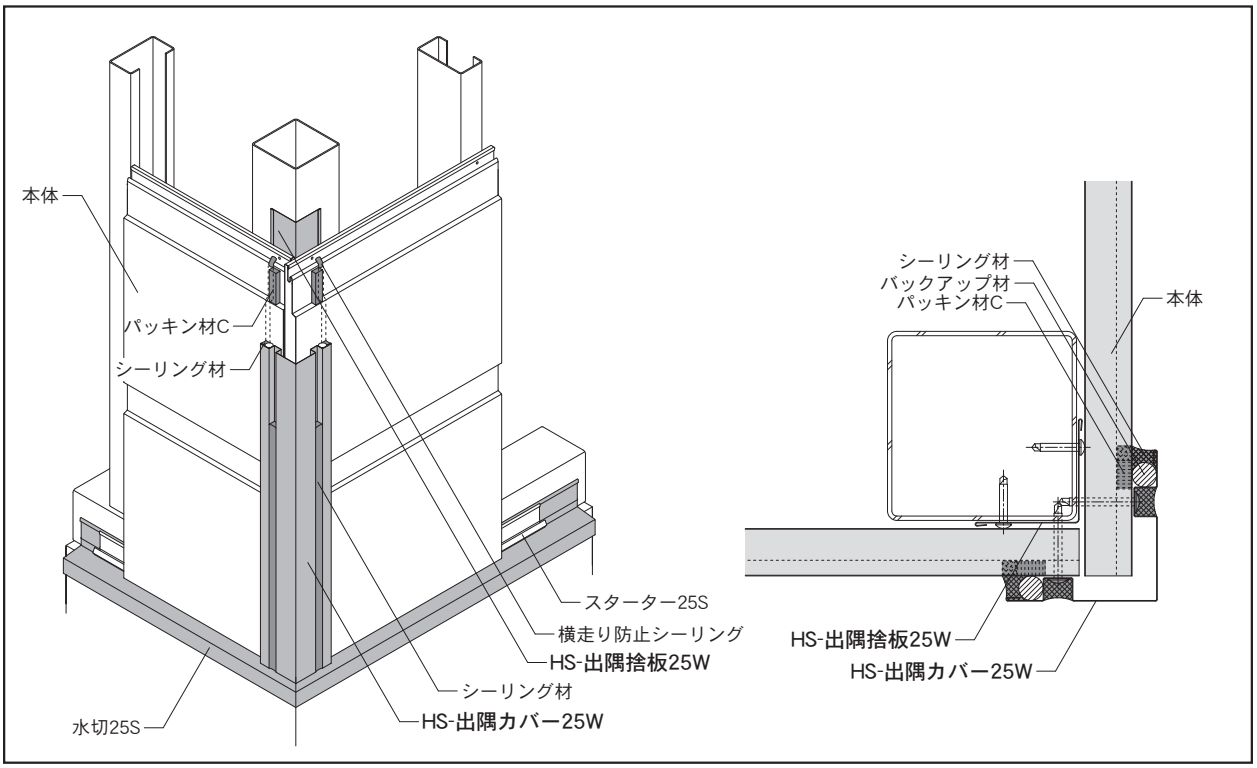
《表面止水仕様》

外壁表面をシーリング仕上げで納める商品です。
シーリング代を確保することで、より高い止水性が得られます。

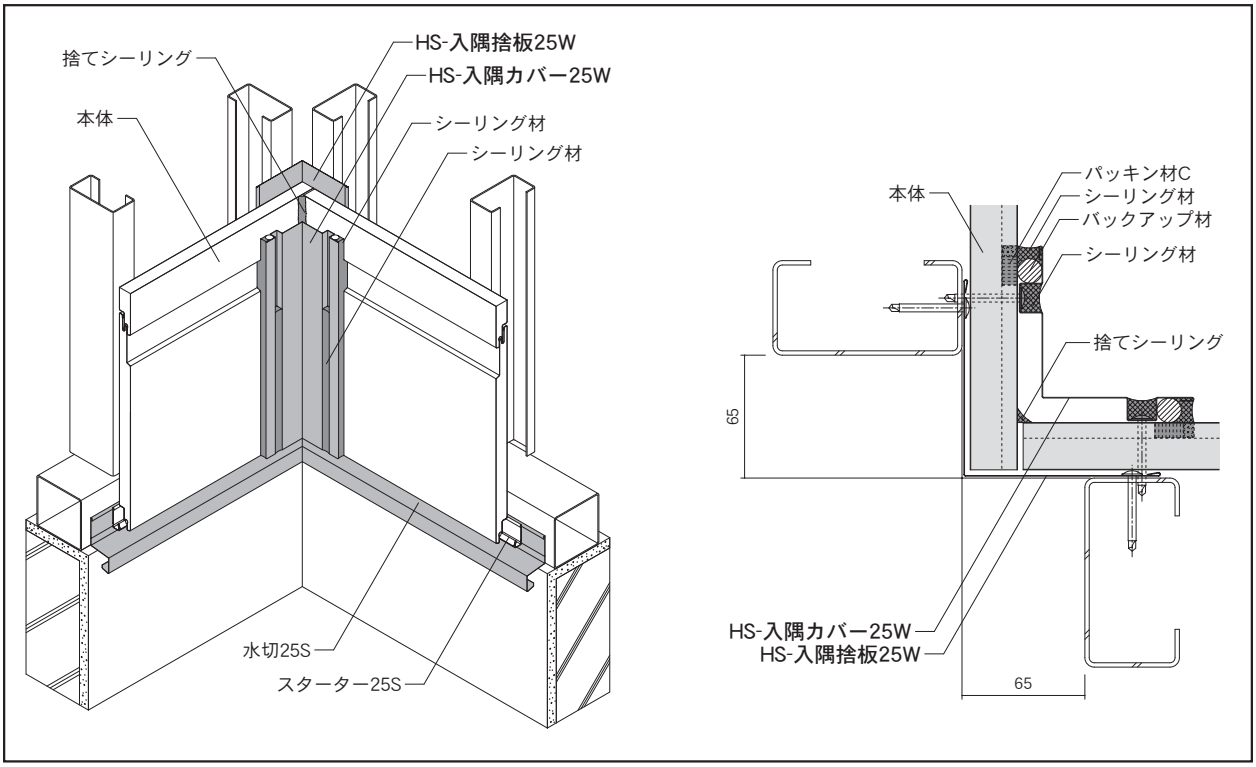
A．土台［出隅］・・・・・・・・・・P 34
B．土台［入隅］・・・・・・・・・・P 35
C．横継ぎ・・・・・・・・・・・・P 35
D．軒・・・・・・・・・・・・・・P 36
E．笠木・・・・・・・・・・・・・P 36
F．開口部［半外］・・・・・・・・P 37
G．開口部［外付け］・・・・・・・P 38

A．土台［出隅］

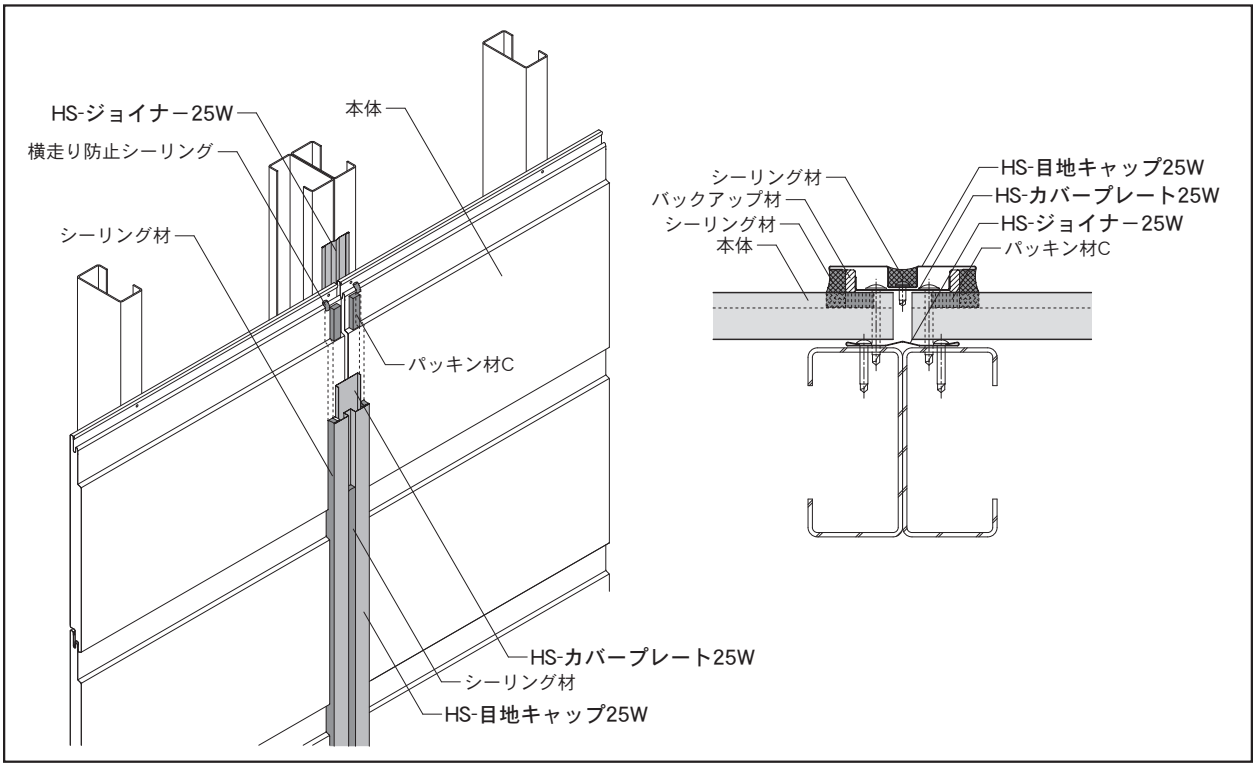
（HS-出隅カバー25W／HS-出隅捨板25W）



B．土台［入隅］　（HS-入隅カバー25W／HS-入隅捨板25W）

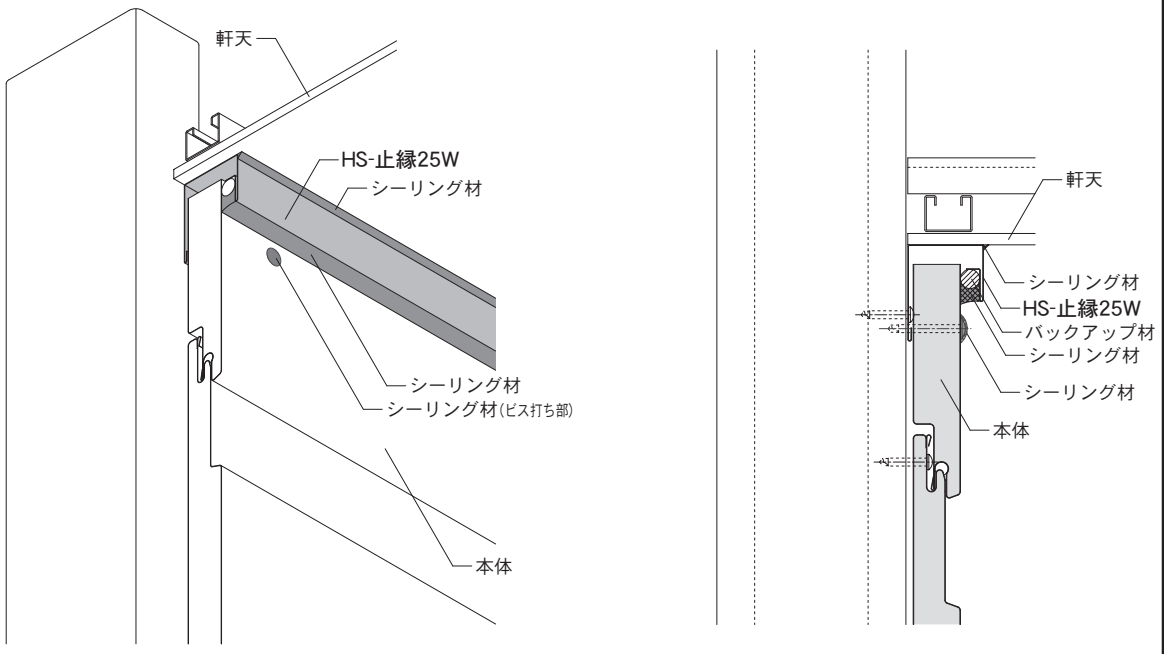


C．横継ぎ　（HS-目地キャップ25W／HS-カバープレート25W／HS-ジョイナー25W）

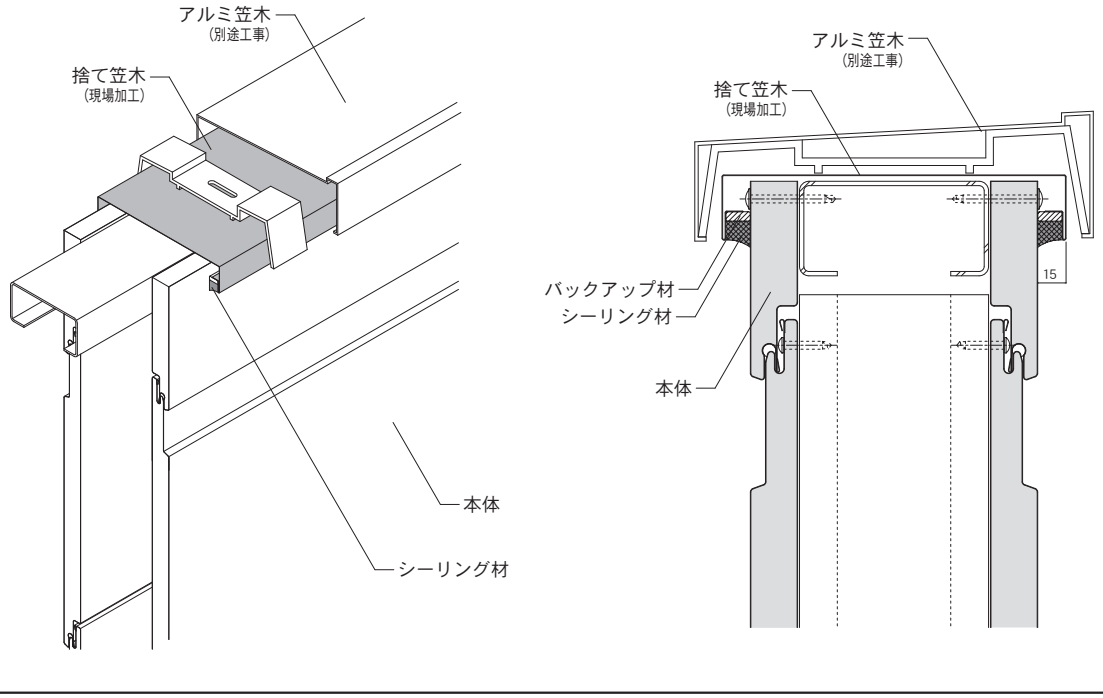


D．軒

(HS-止縁25W)



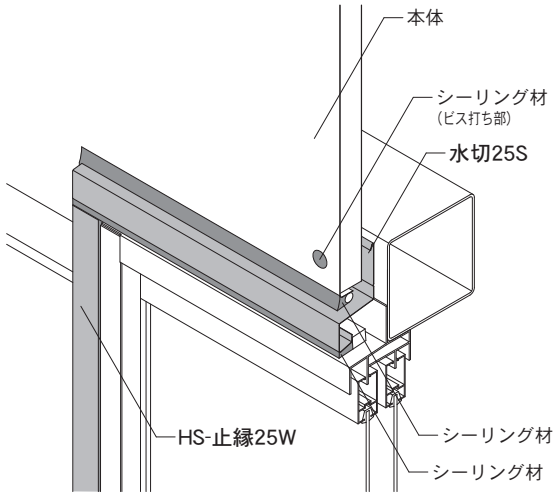
E．笠木

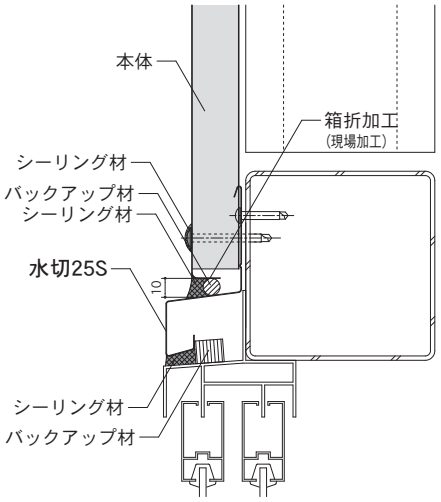


F．開口部［半外］

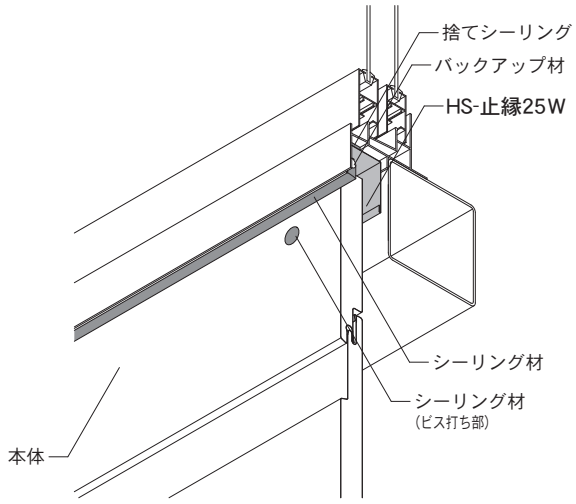
（水切25S／HS-止縁25W）

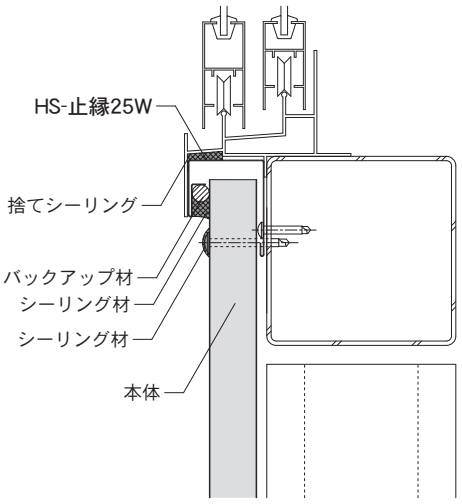
開口部上



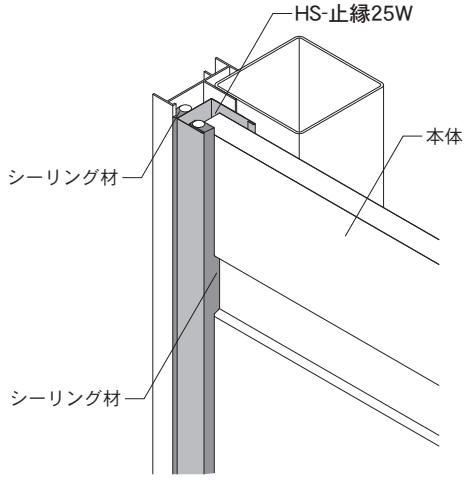


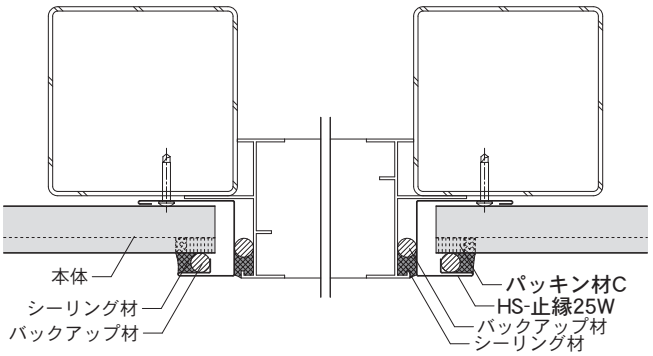
開口部下





開口部左右



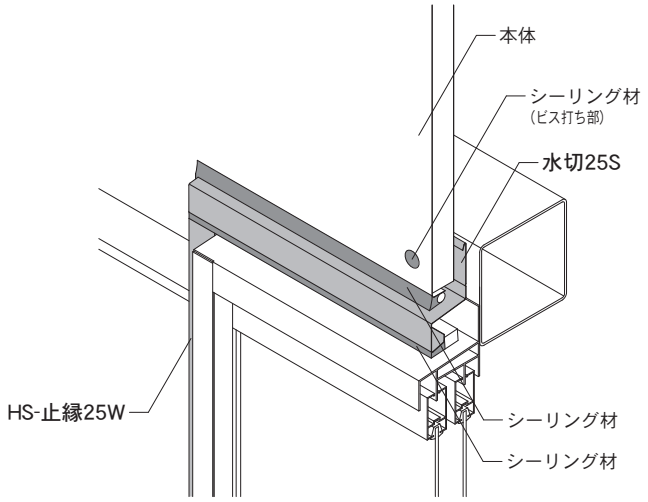


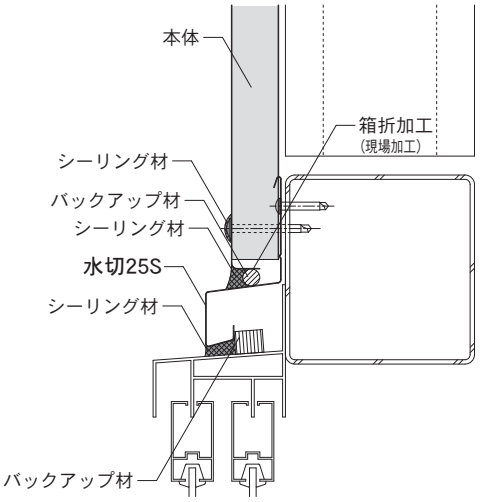
●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

G. 開口部［外付け］

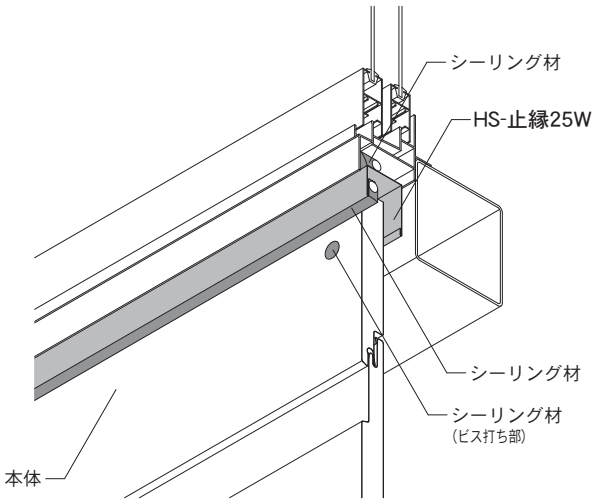
（水切25S／HS-止縁25W）

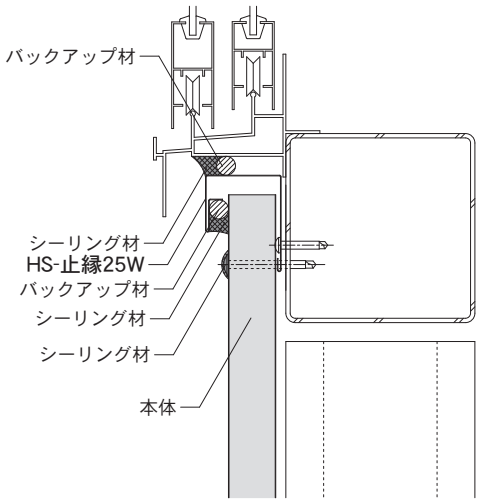
開口部上



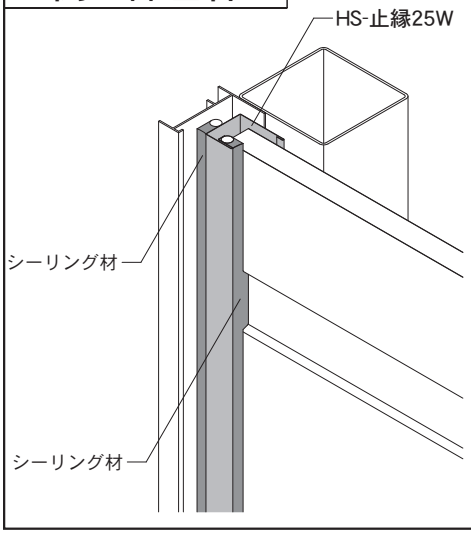


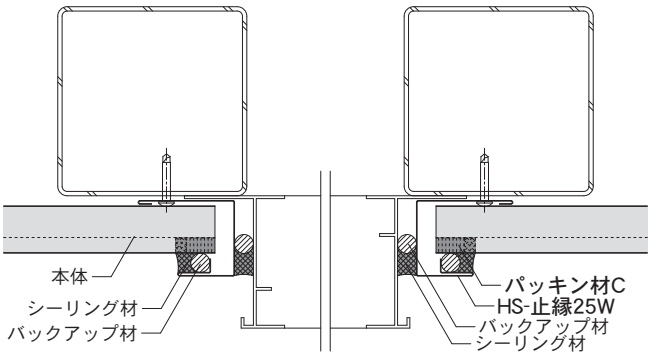
開口部下





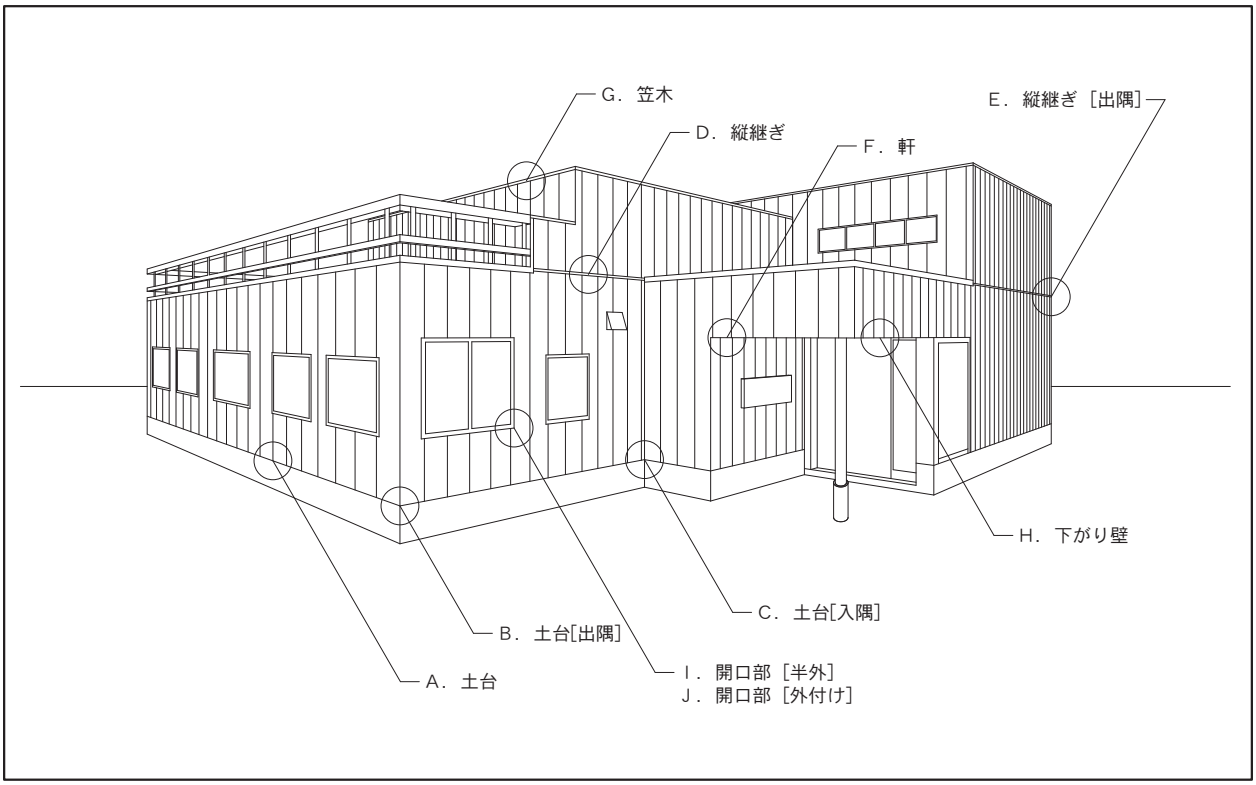
開口部左右





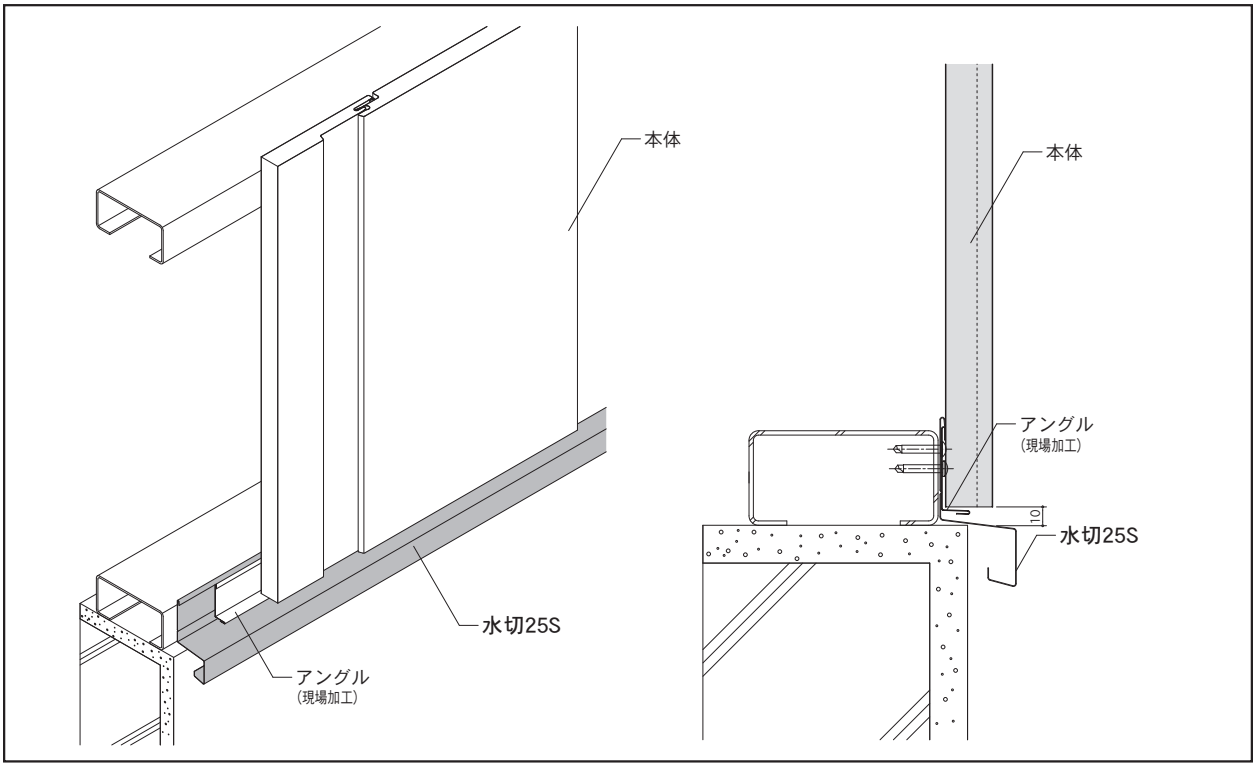
●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

10 納まり図



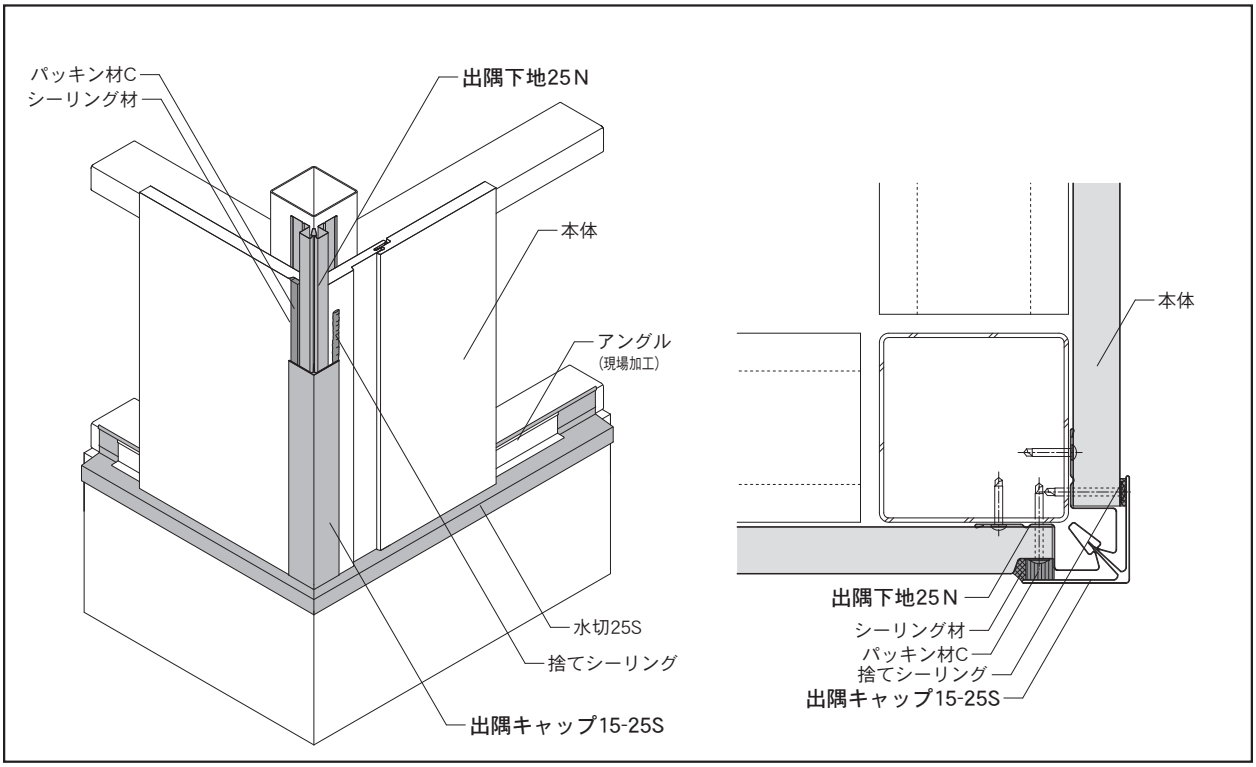
A．土台・・・・・・・・・・・・・・P40
B．土台［出隅］・・・・・・・・・・P40
C．土台［入隅］・・・・・・・・・・P41
D．縦継ぎ・・・・・・・・・・・・・P42
E．縦継ぎ［出隅］・・・・・・・・・P42
F．軒・・・・・・・・・・・・・・・P43
G．笠木・・・・・・・・・・・・・・P44
H．下がり壁・・・・・・・・・・・・P44
I．開口部［半外］・・・・・・・・・P45
J．開口部［外付け］・・・・・・・・P46～47

A．土台　（水切25S）



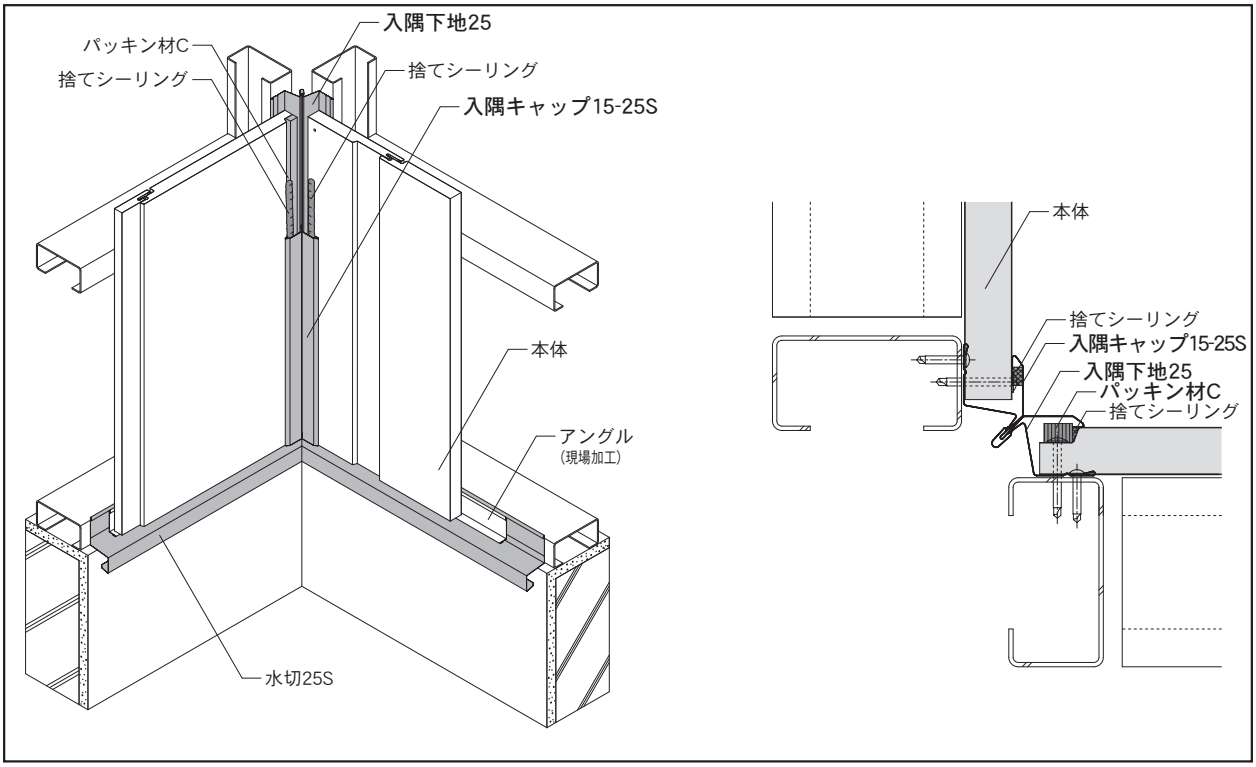
●出隅・入隅などの加工は、P53の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

B．土台［出隅］　（出隅キャップ15-25S／出隅下地25N）



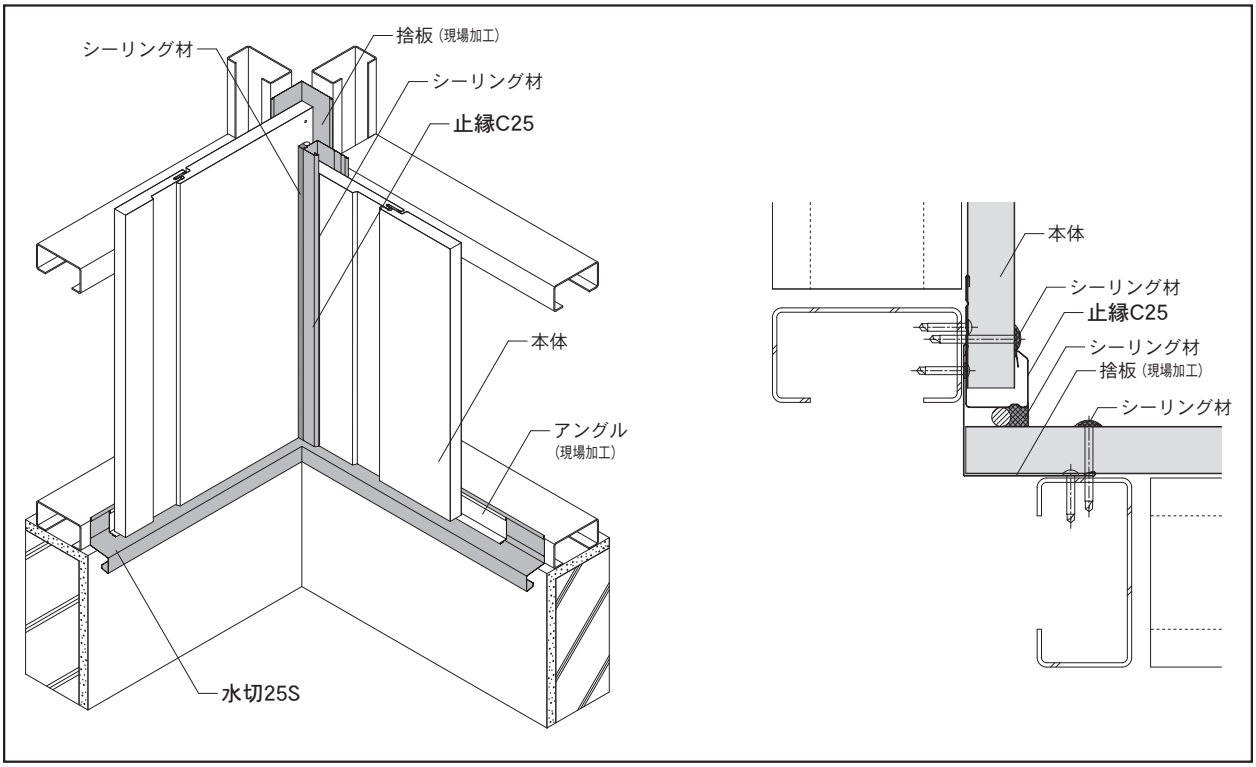
C．土台［入隅］①

（入隅キャップ15-25S／入隅下地25）

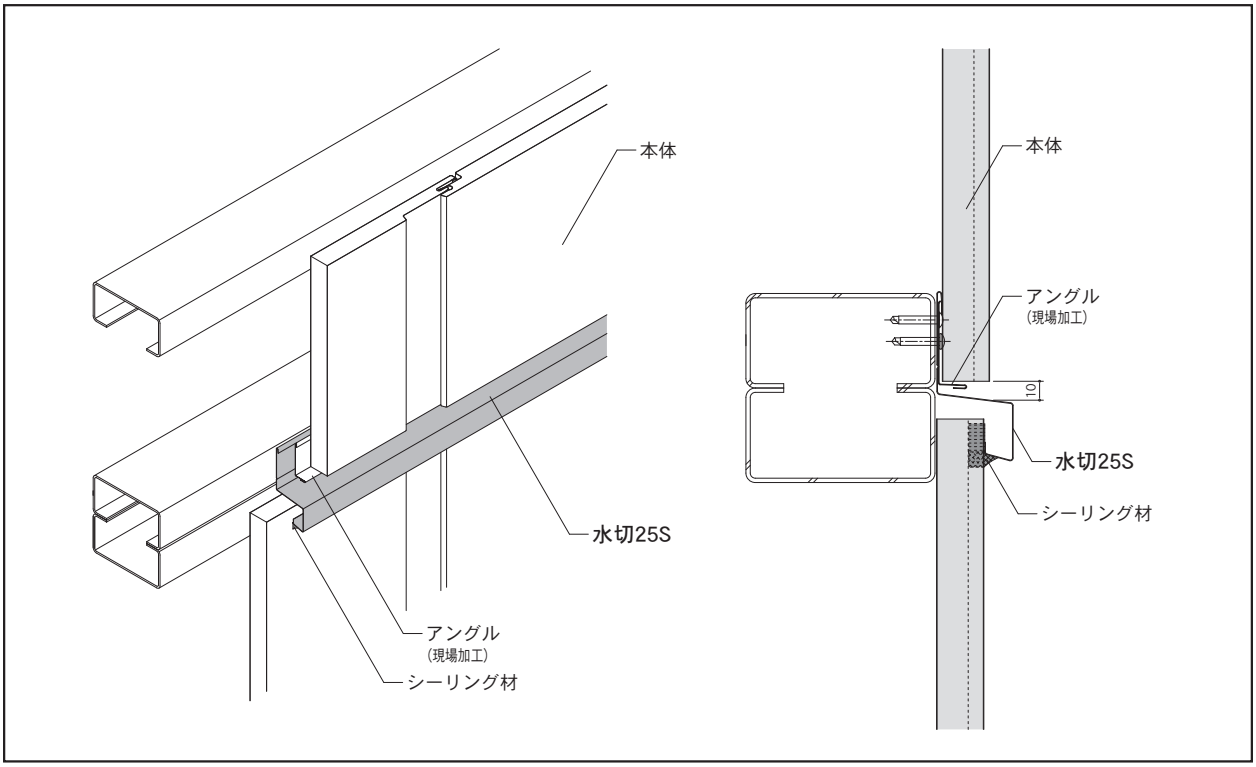


C．土台［入隅］②

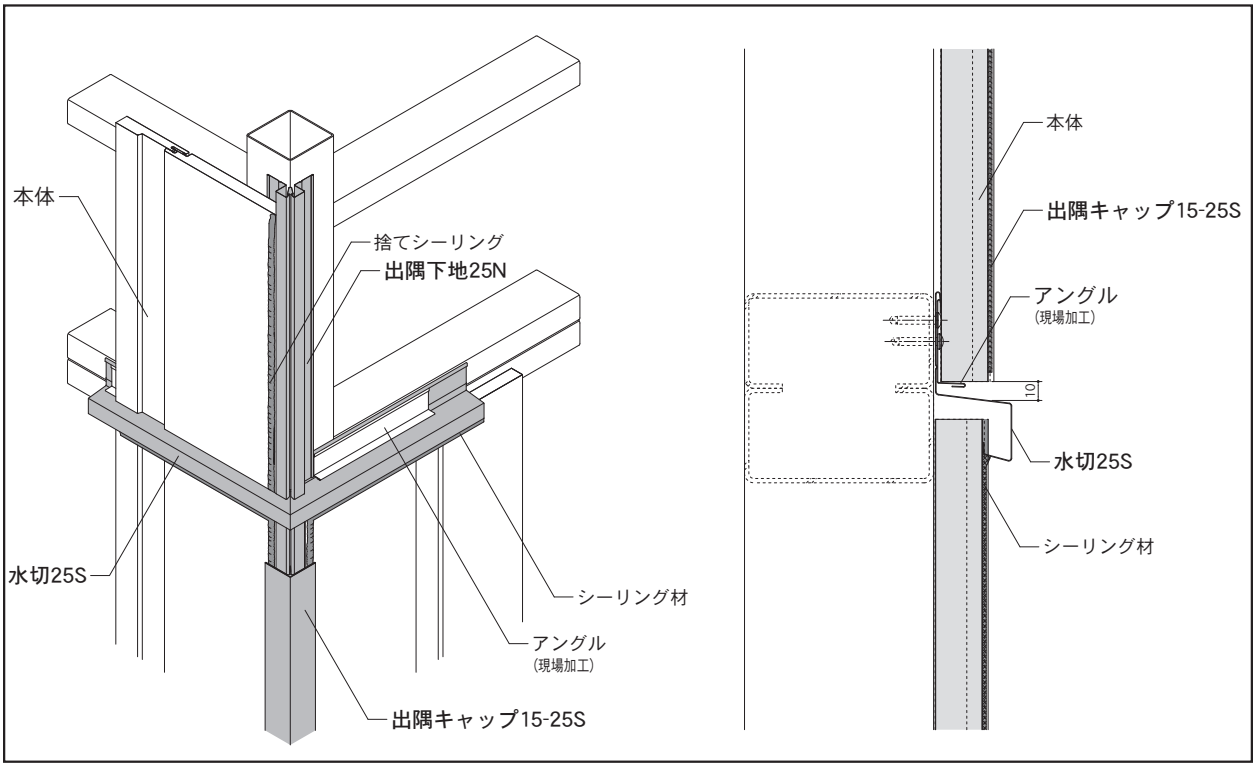
（止縁C25）



D．縦継ぎ　（水切25S）



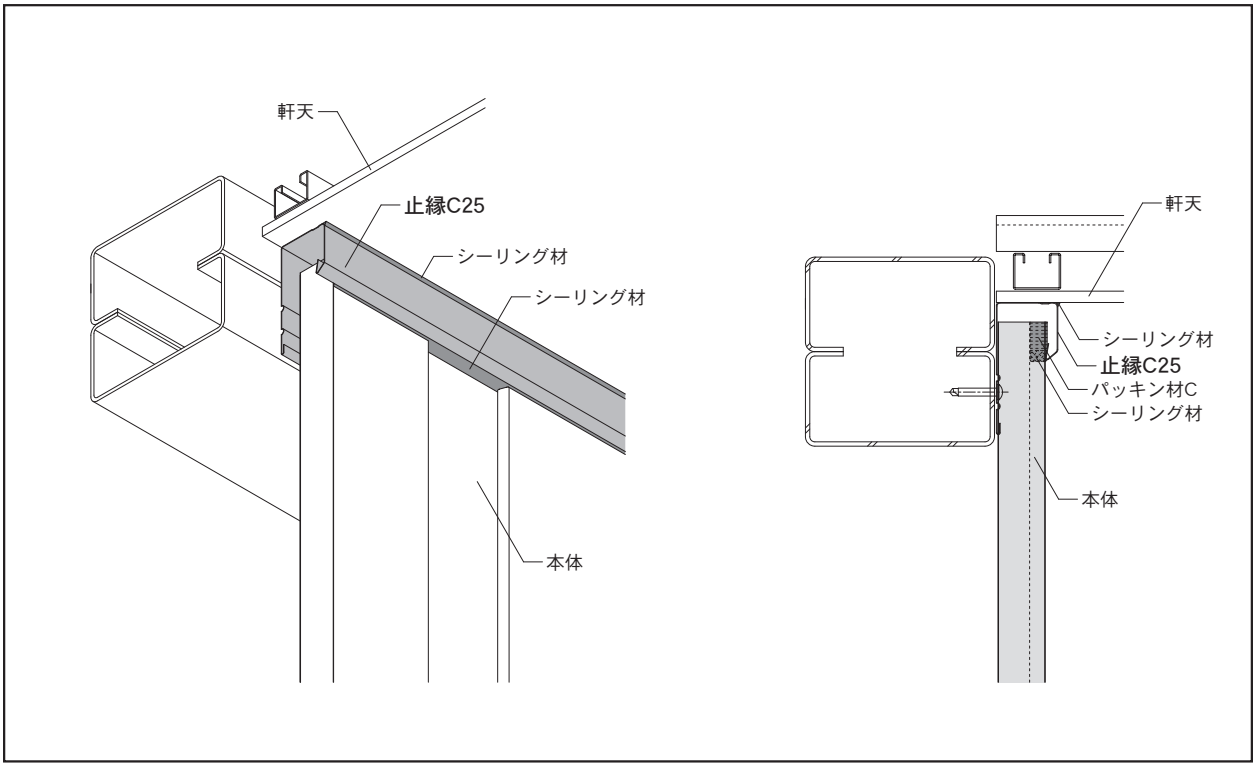
E．縦継ぎ［出隅］　（水切25S／出隅キャップ15-25S／出隅下地25N）



●出隅キャップ15-25を水切25Sに差し込んでください。（P54の「12.付属品の加工方法」を参照してください。）

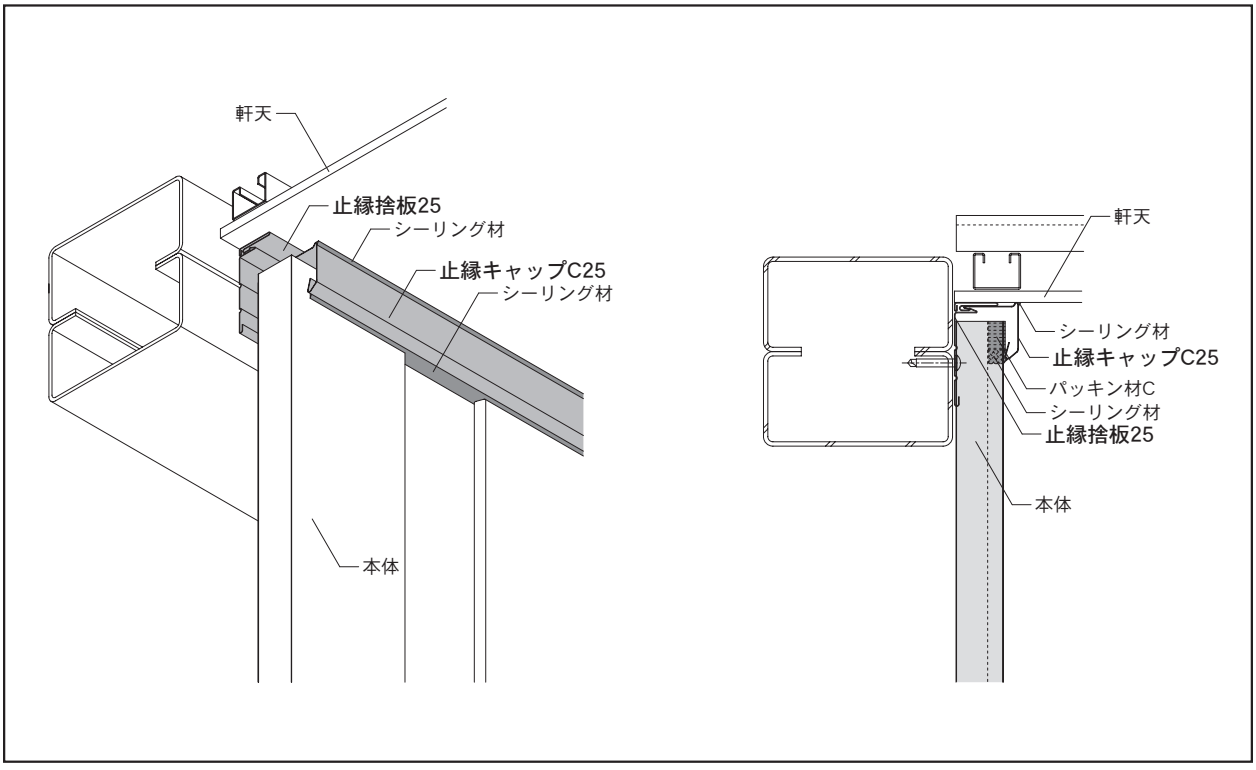
F． 軒①

（止縁C25）

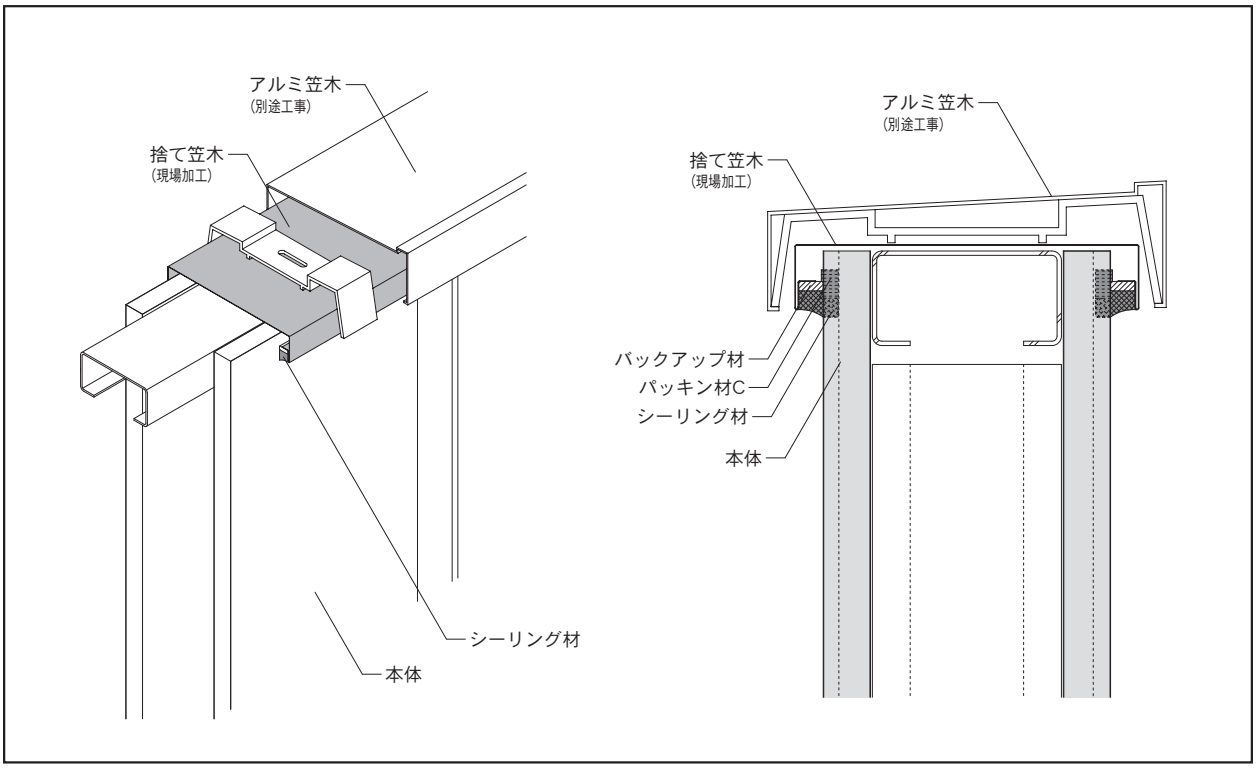


F． 軒②

（止縁キャップC25／止縁捨板25）

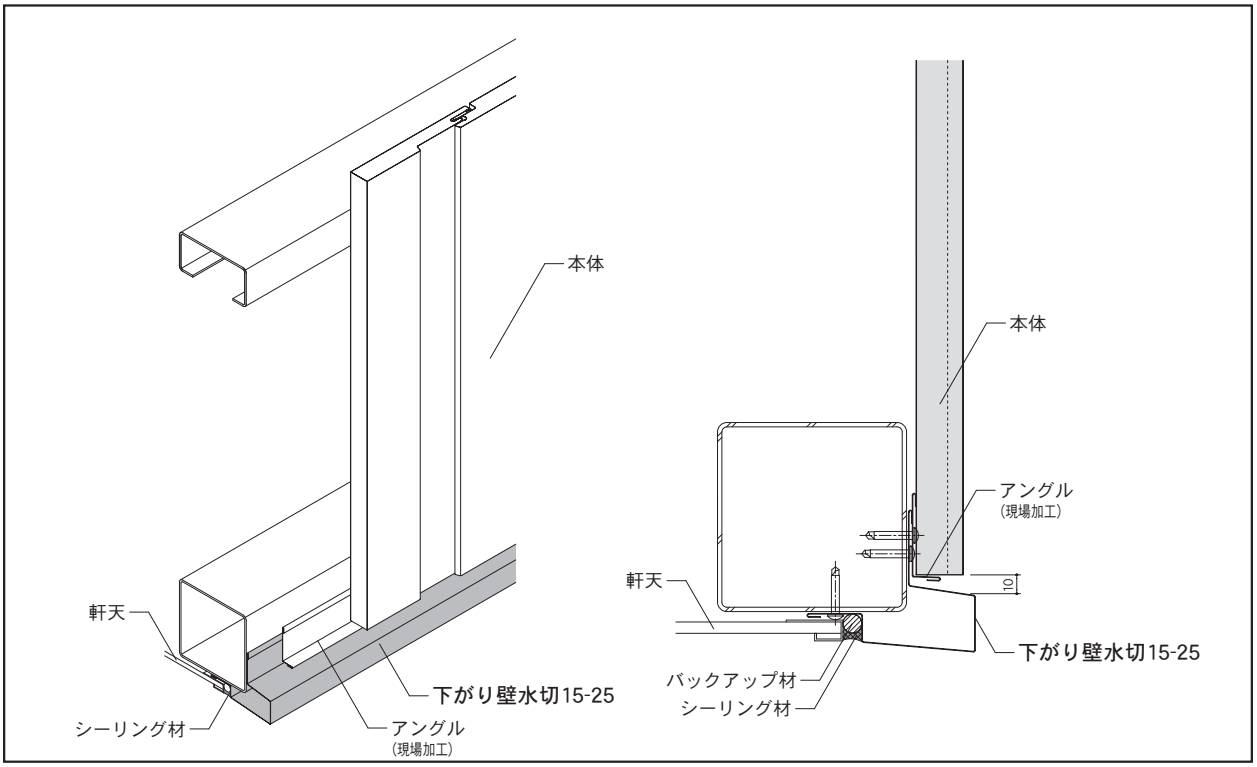


G. 笠木



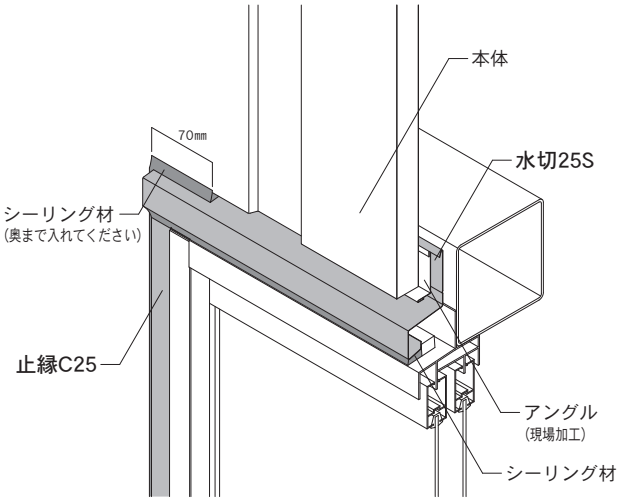
H. 下がり壁

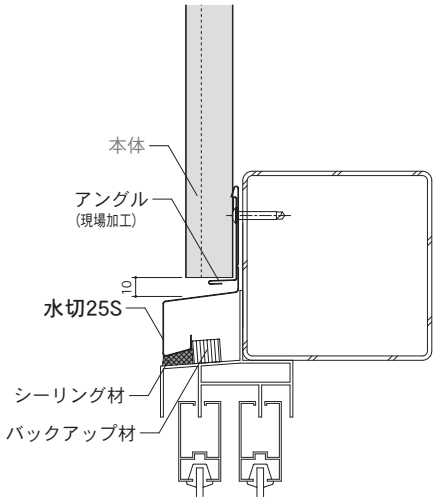
(下がり壁水切15-25)



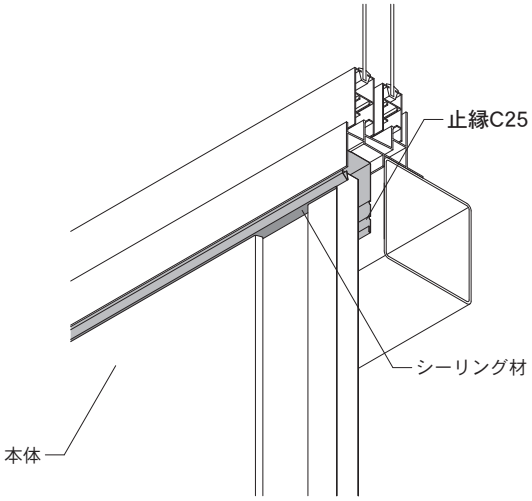
Ⅰ．開口部［半外］①　（水切25S／止縁C25）

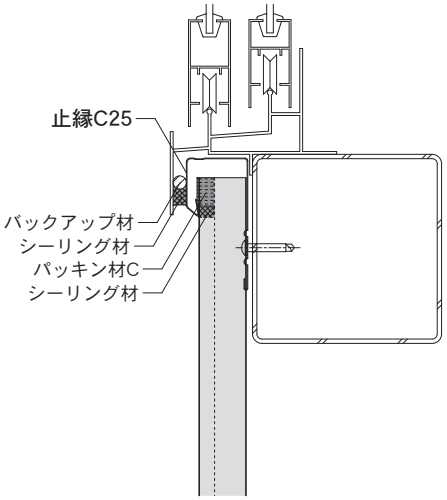
開口部上



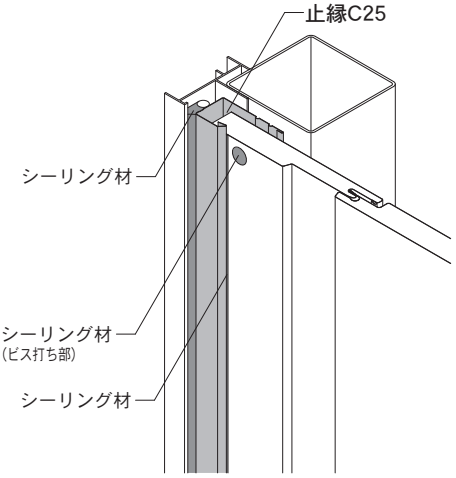


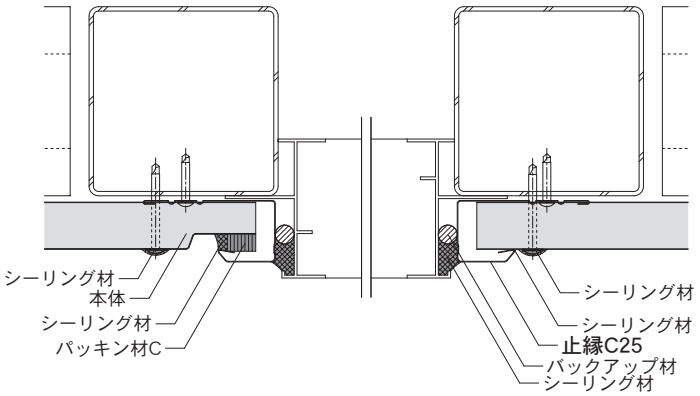
開口部下





開口部左右



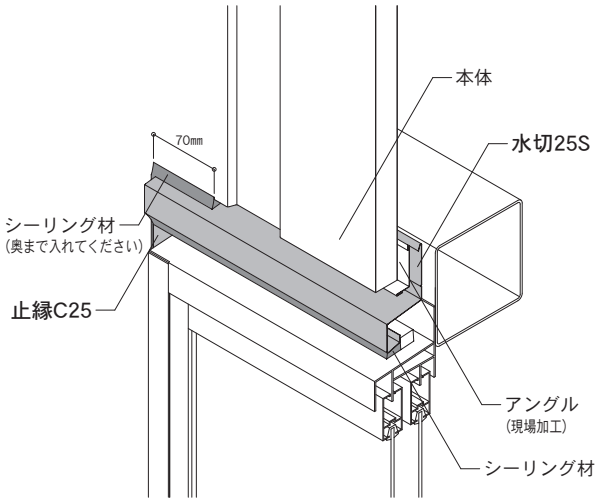


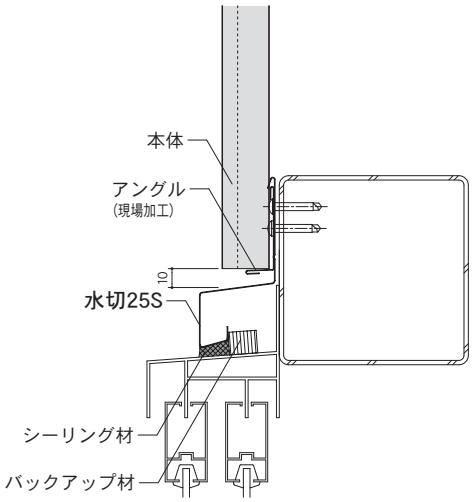
●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

J．開口部［外付け］①

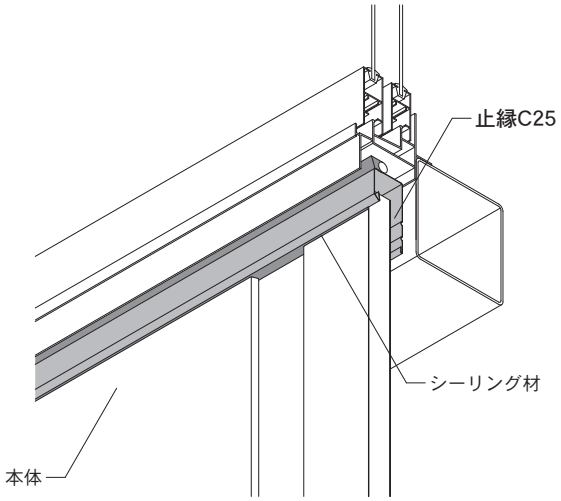
（水切25S／止縁C25）

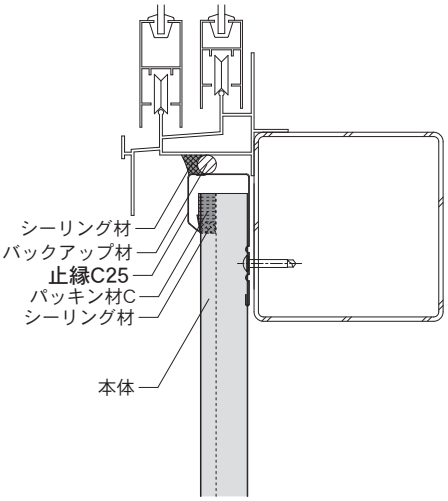
開口部上



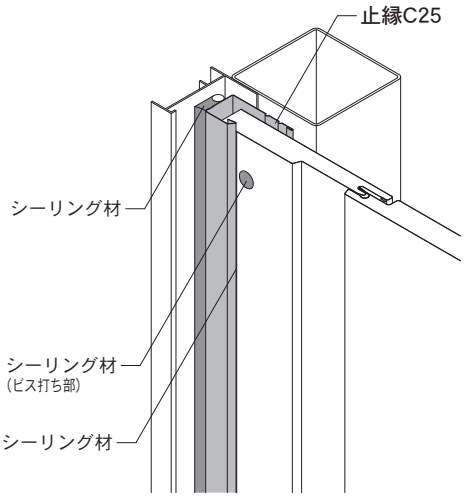


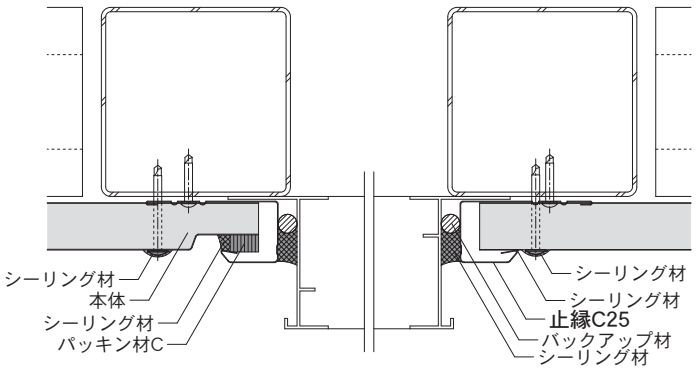
開口部下





開口部左右

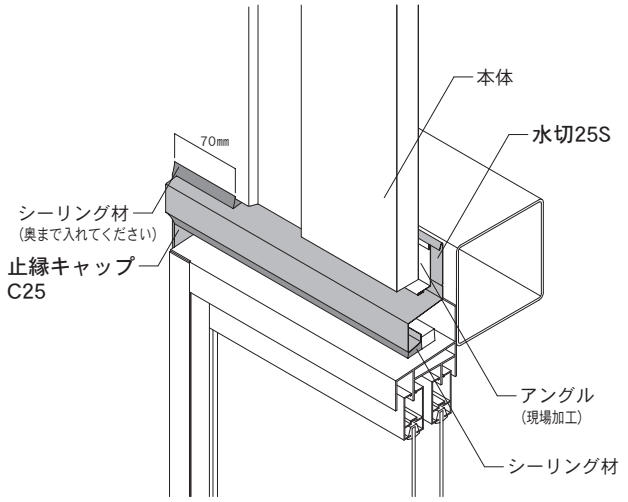


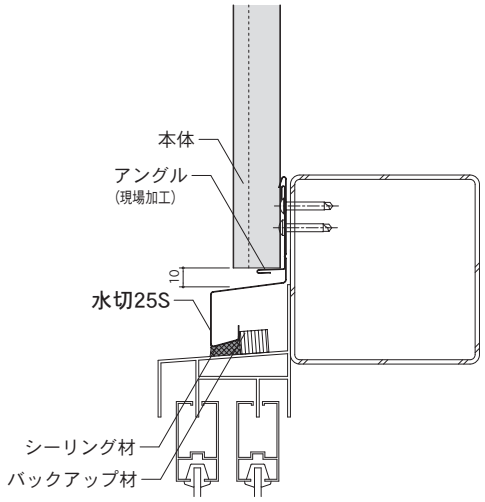


●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

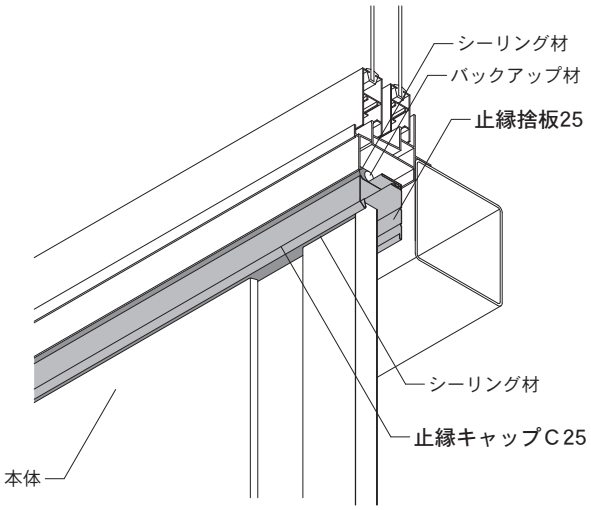
J．開口部［外付け］②　（水切25S／止縁キャップC25／止縁捨板25）

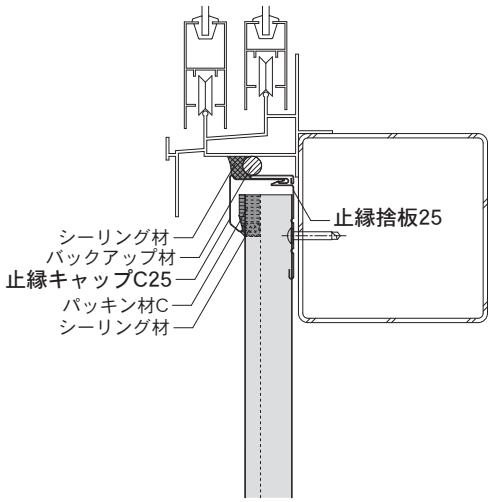
開口部上



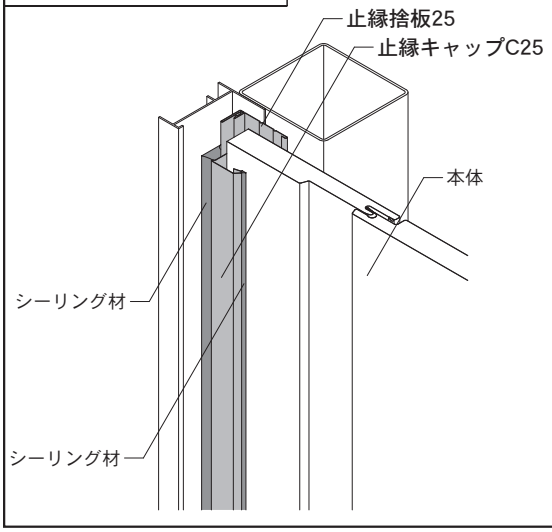


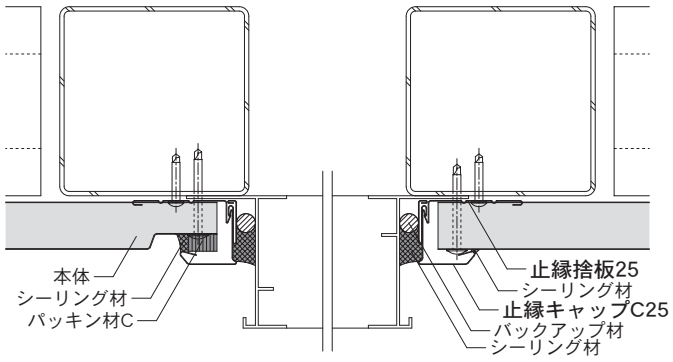
開口部下





開口部左右





●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

11 納まり図

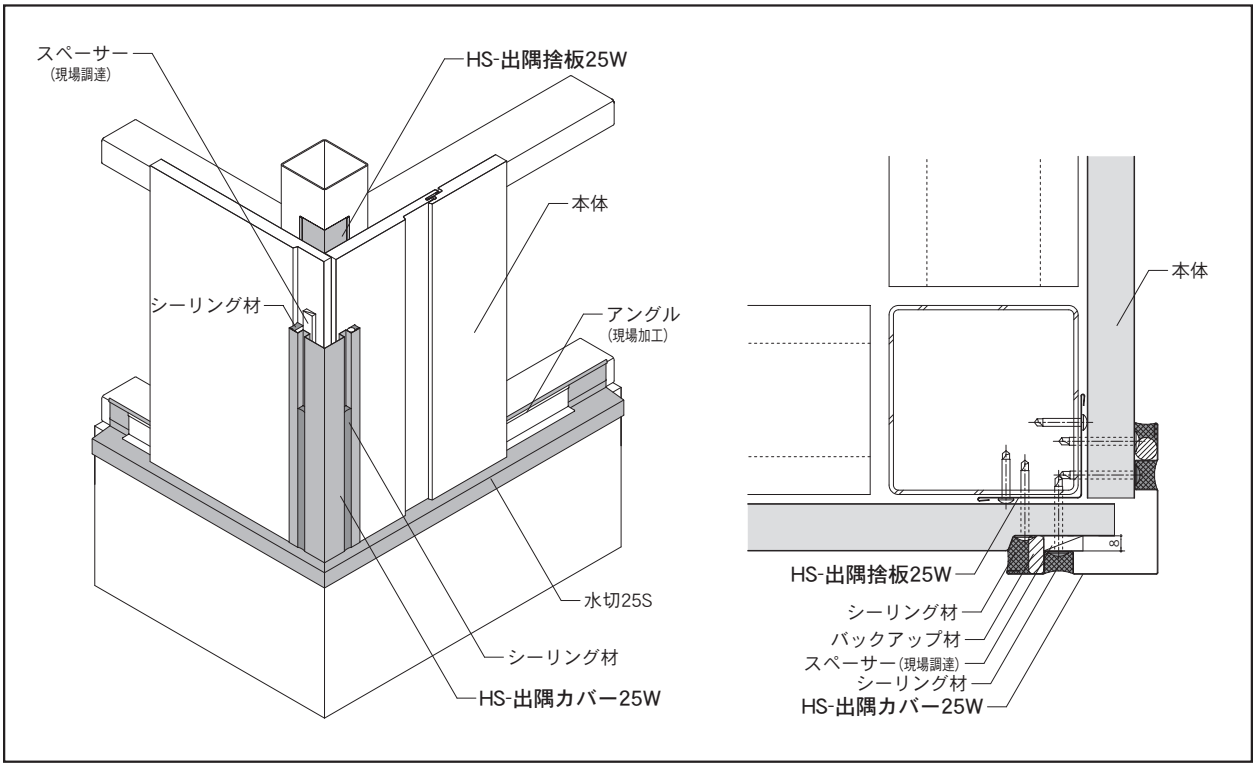
《表面止水仕様》

外壁表面をシーリング仕上げで納める商品です。
シーリング代を確保することで、より高い止水性が得られます。

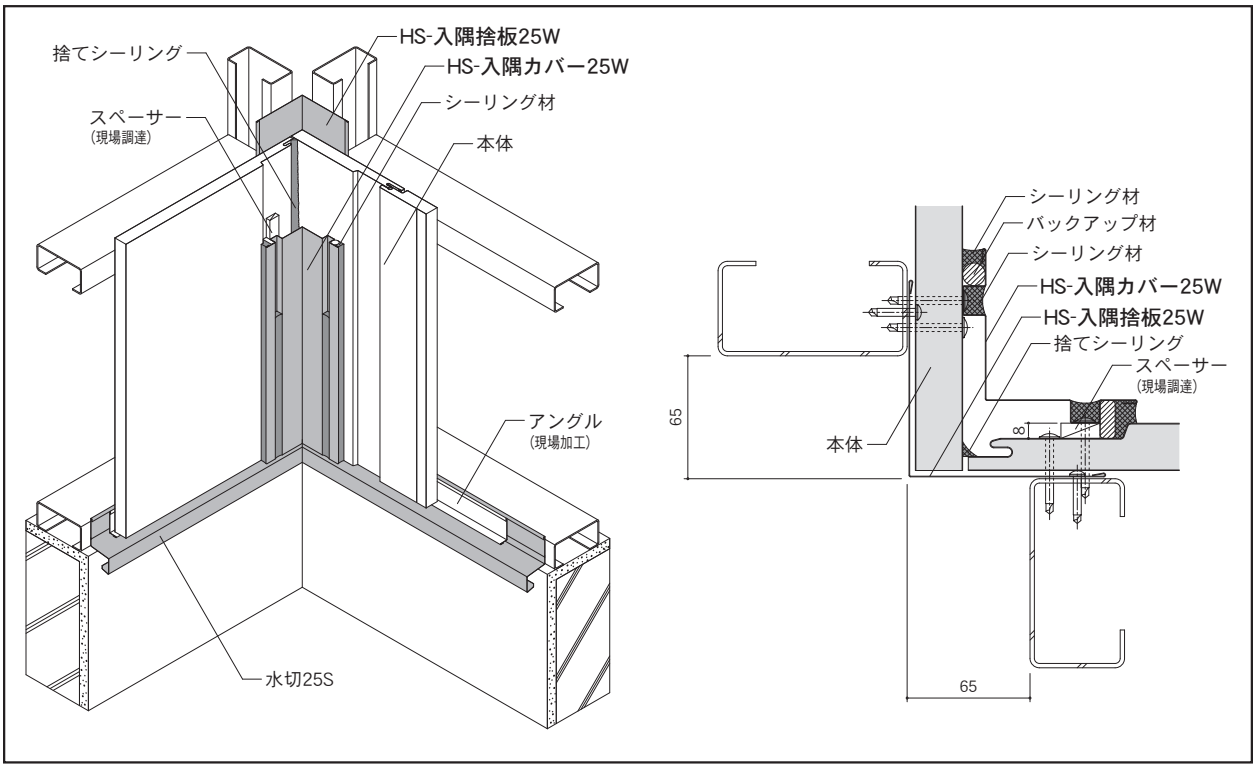
A．土台［出隅］・・・・・・・・・P48
B．土台［入隅］・・・・・・・・・P49
C．縦継ぎ［出隅］・・・・・・・・P49
D．軒・・・・・・・・・・・・・・・P50
E．笠木・・・・・・・・・・・・・・P50
F．開口部［半外］・・・・・・・・P51
G．開口部［外付け］・・・・・・・P52

A．土台［出隅］

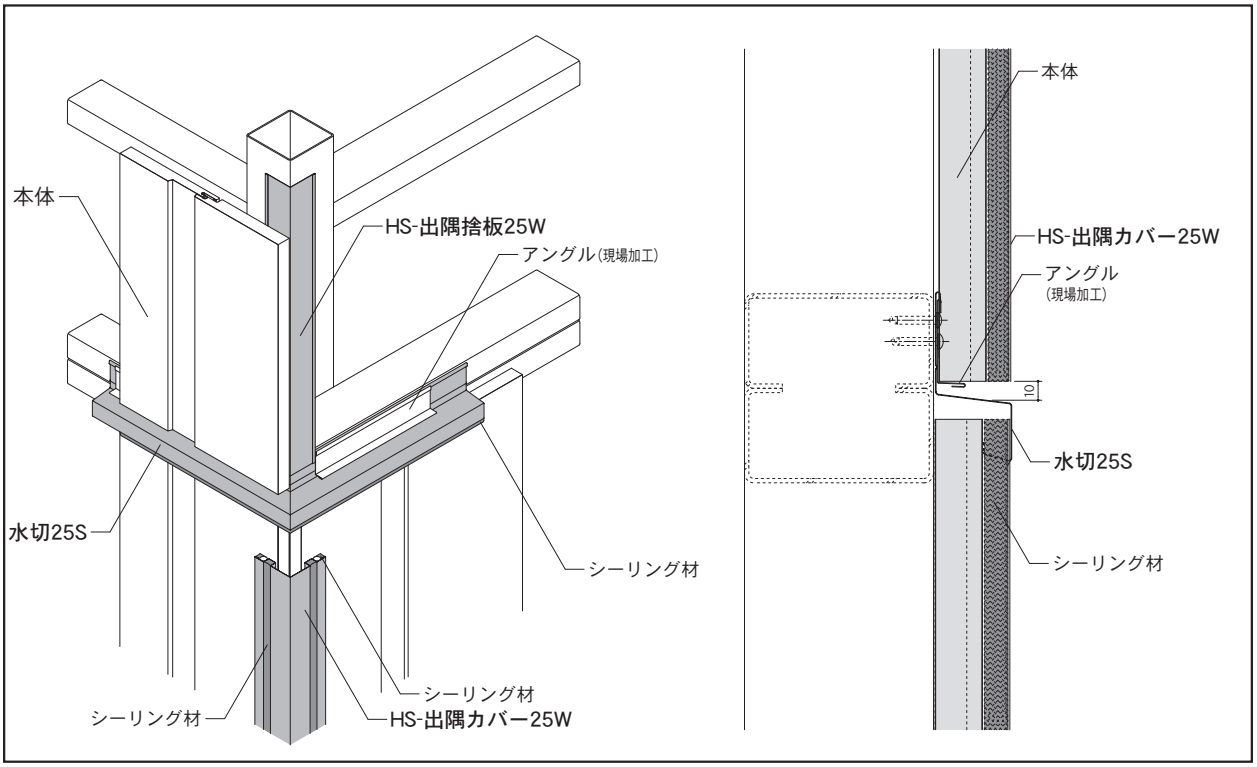
（HS-出隅カバー25W／HS-出隅捨板25W）



B．土台［入隅］　（HS-入隅カバー25W／HS-入隅捨板25W）



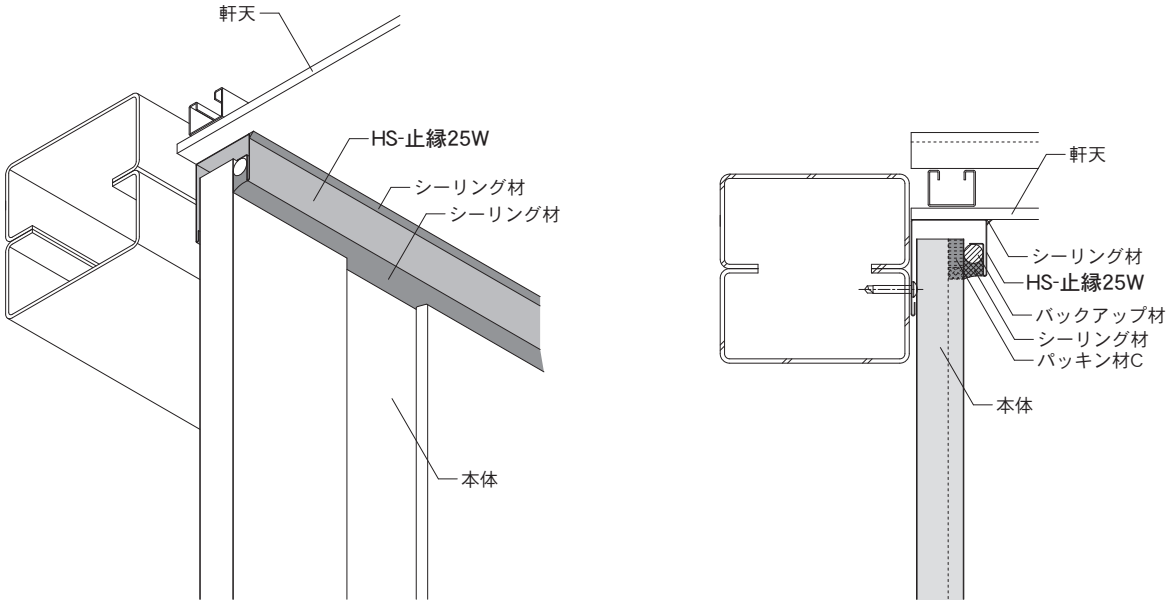
C．縦継ぎ［出隅］　（水切25S／HS-出隅カバー25W／HS-出隅捨板25W）



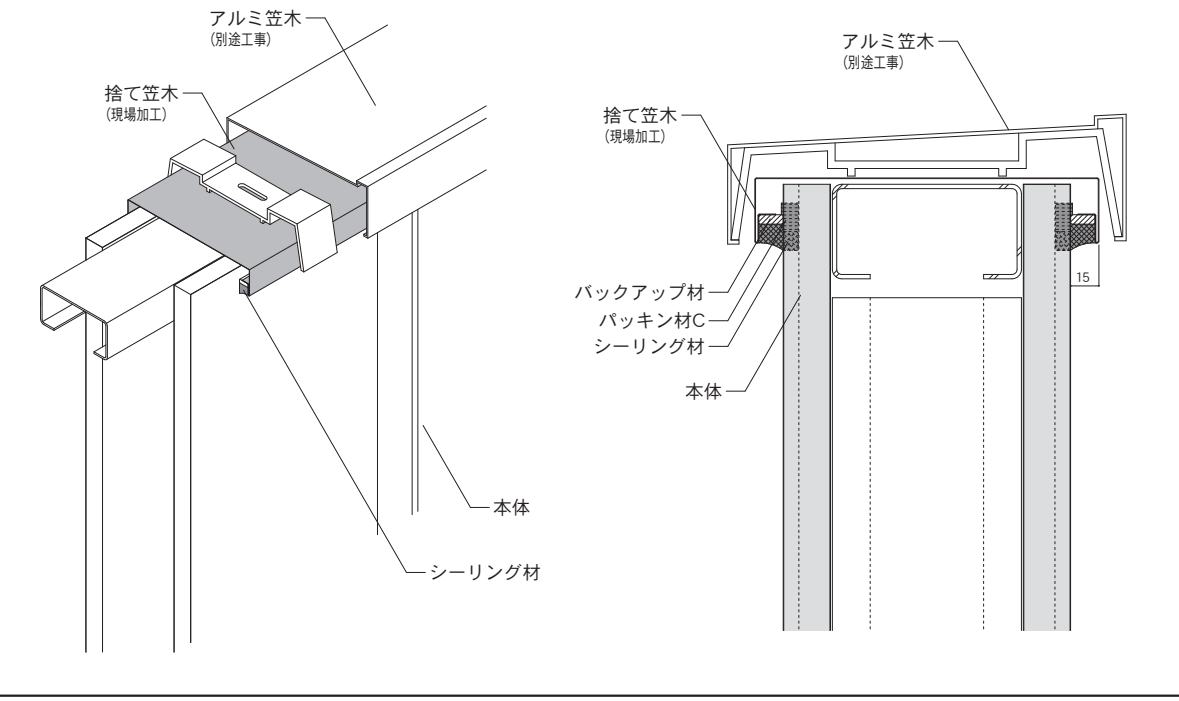
●水切25Sの下部を切り欠いて、HS-出隅カバー25Wを差し込んでください。

D．軒

（HS-止縁25W）



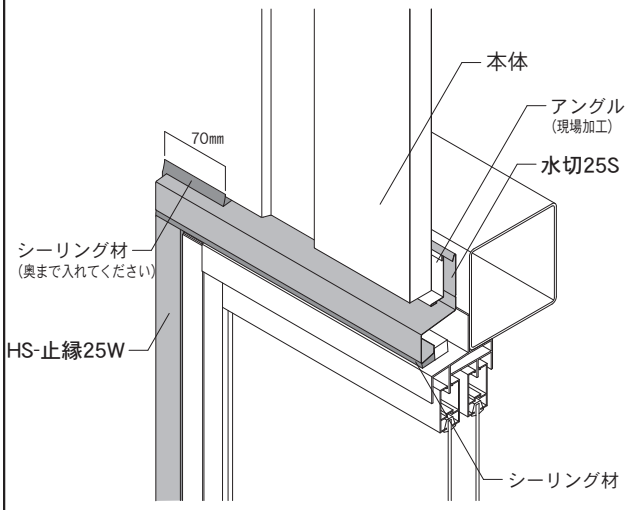
E．笠木

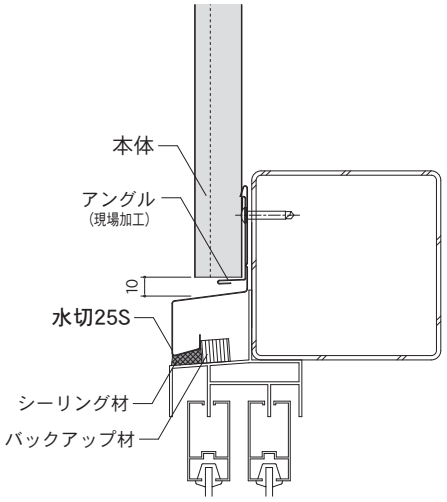


F．開口部［半外］

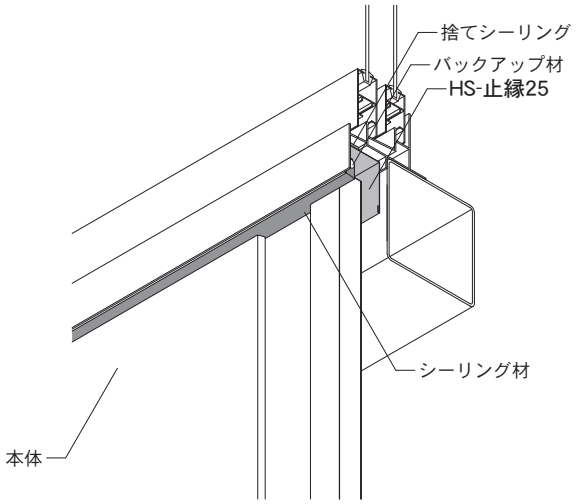
（水切25S／HS-止縁25W）

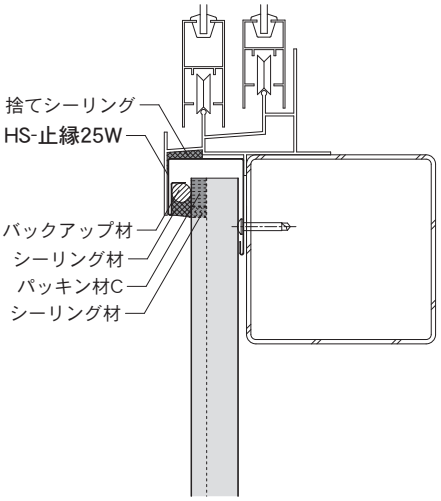
開口部上



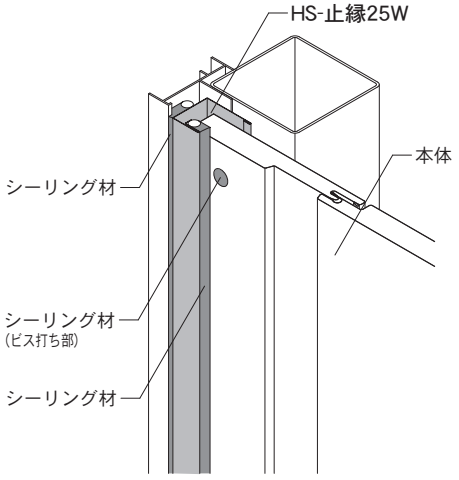


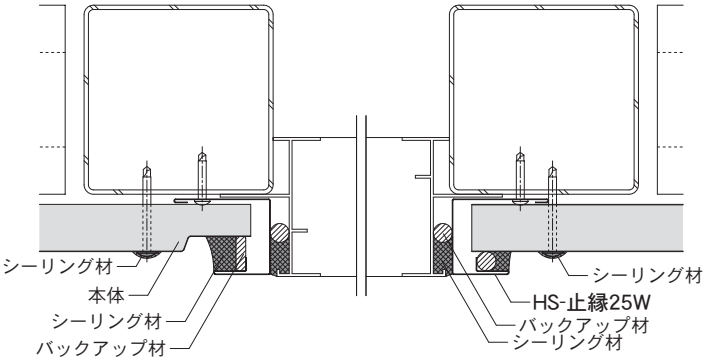
開口部下





開口部左右



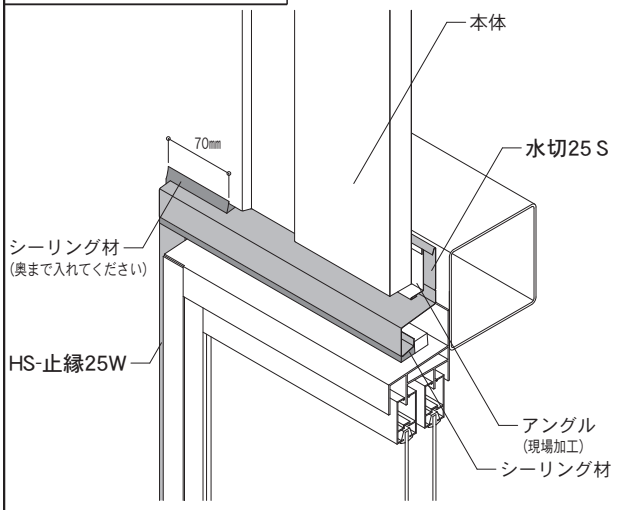


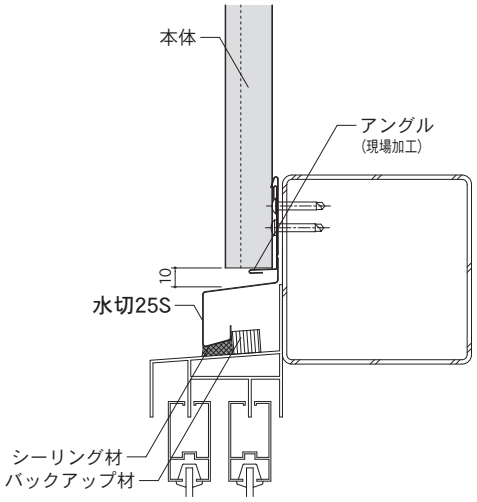
●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

G．開口部［外付け］

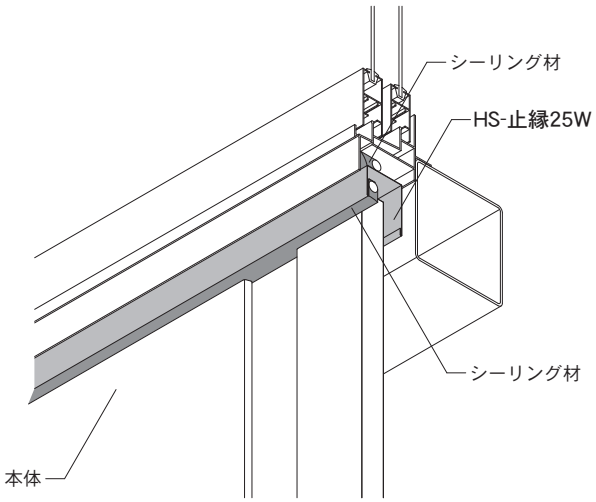
（水切25S／HS-止縁25W）

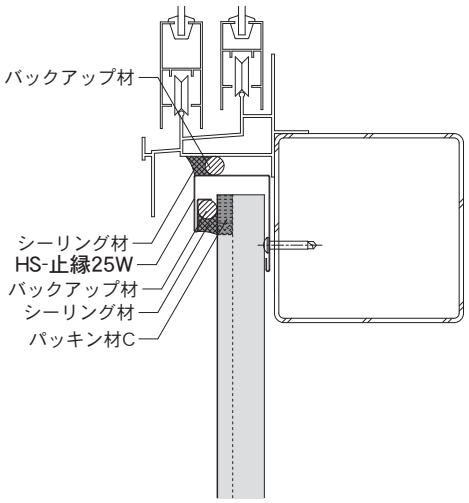
開口部上



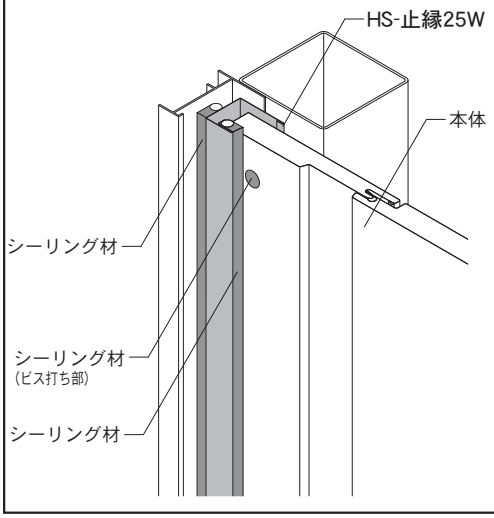


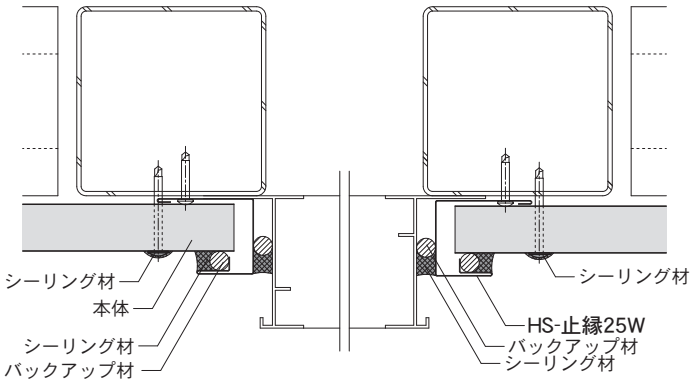
開口部下





開口部左右



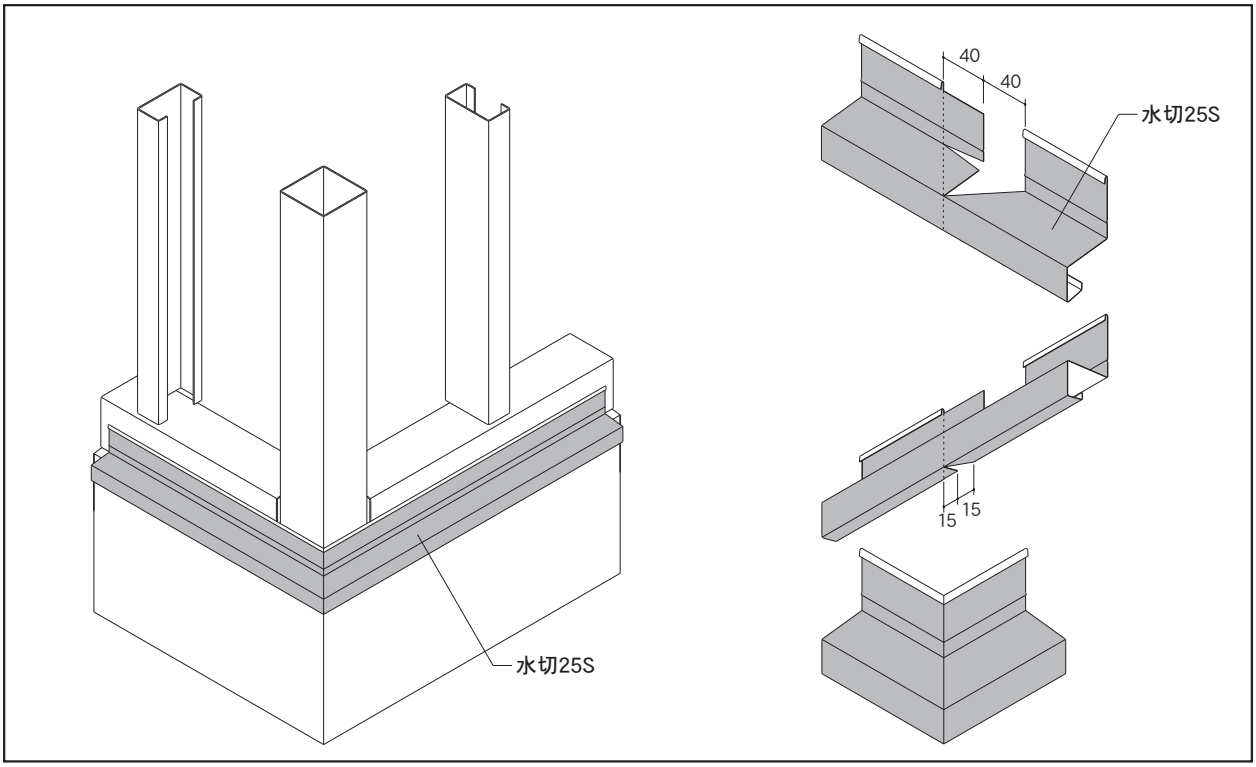


●開口部の納めには、雨仕舞に対する万全の注意が必要です。
　サッシと付属品のすき間はもちろん、本体と付属品のすき間もシーリング材を施工してください。
●開口部の付属品の納め方は、Ｐ55～の「12.付属品の加工方法」を参照してください。

12 付属品の加工方法

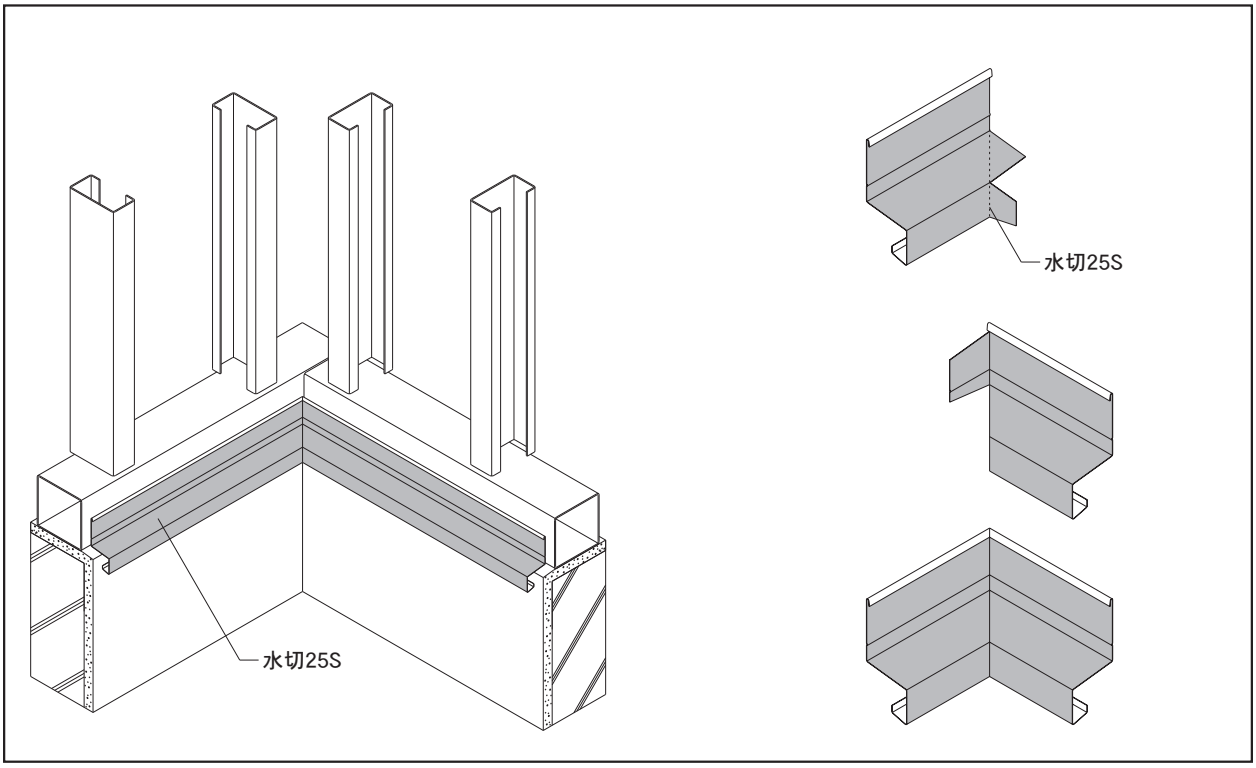
1．土台加工［出隅］

（水切25S）

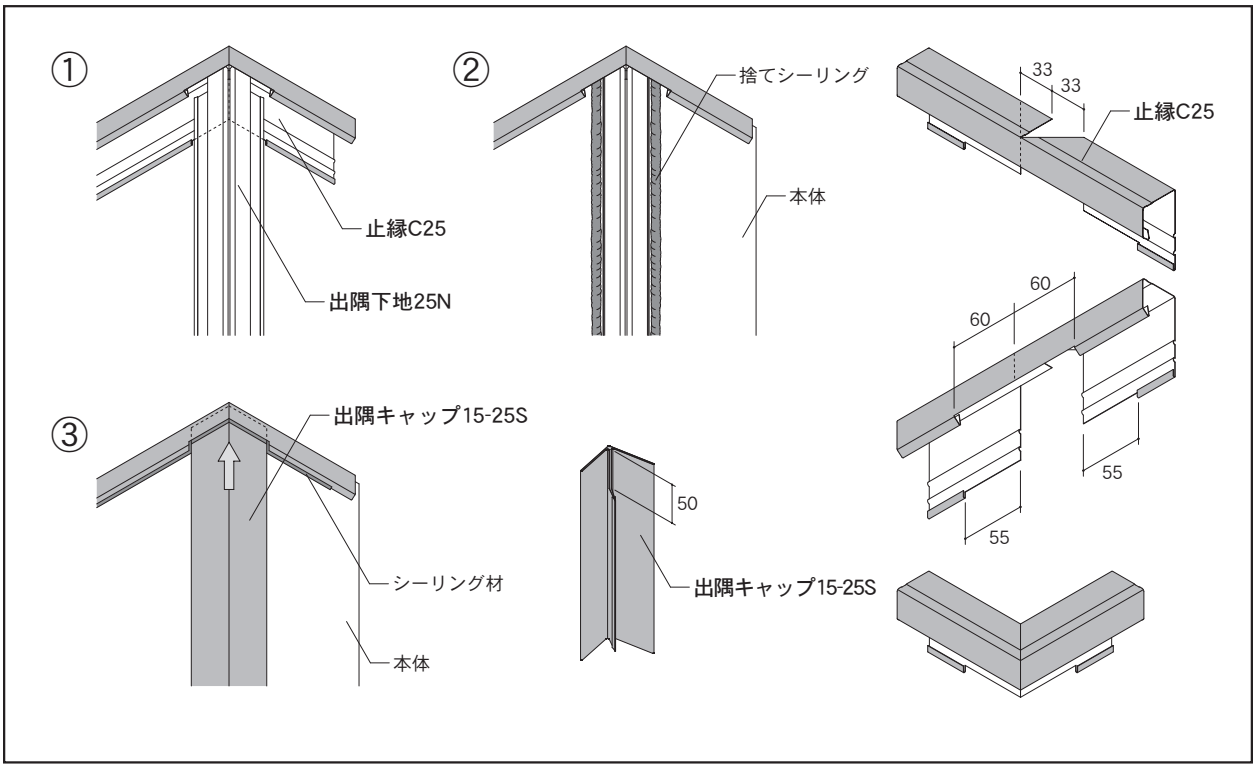


1．土台加工［入隅］

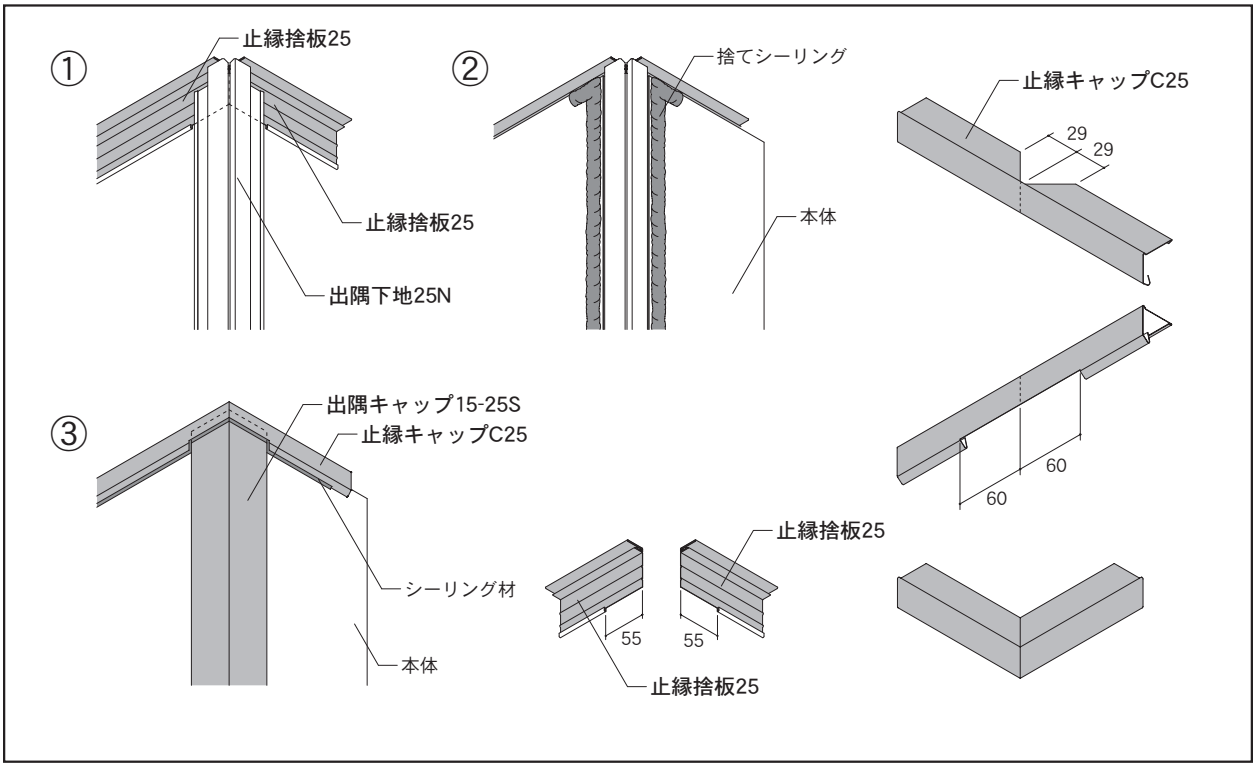
（水切25S）



3．軒加工［出隅］①　（止縁C25／出隅キャップ15-25S／出隅下地25N）

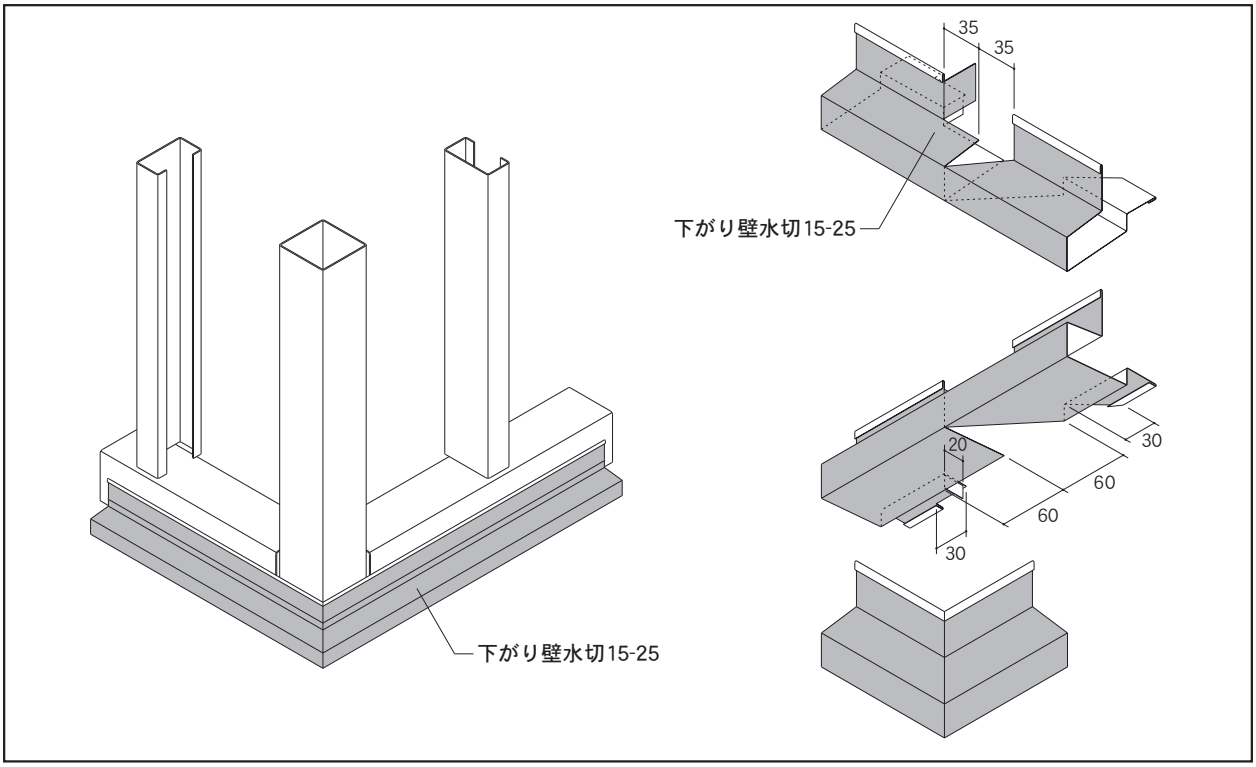


3．軒加工［出隅］②　（止縁キャップC25／止縁捨板25／出隅キャップ15-25S／出隅下地25N）



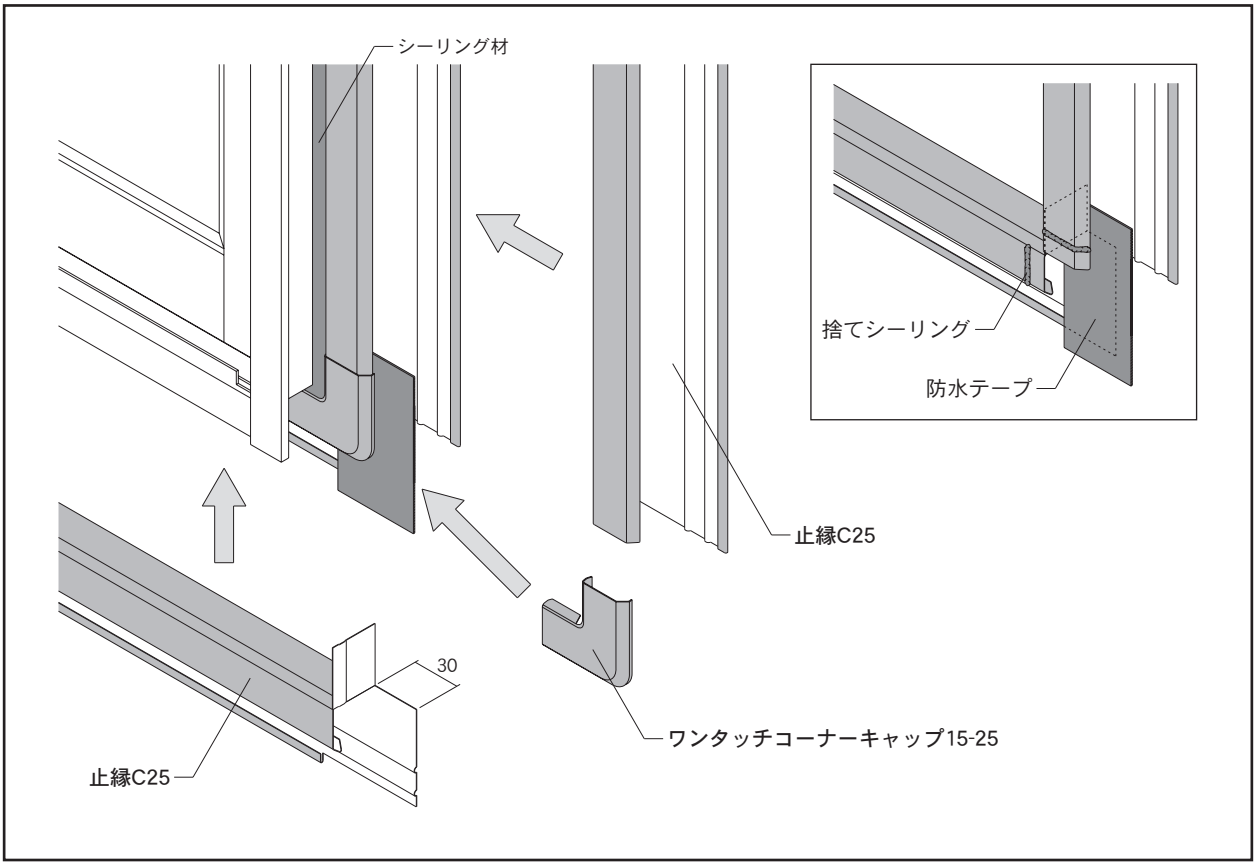
4．下がり壁加工［出隅］

（下がり壁水切15-25）



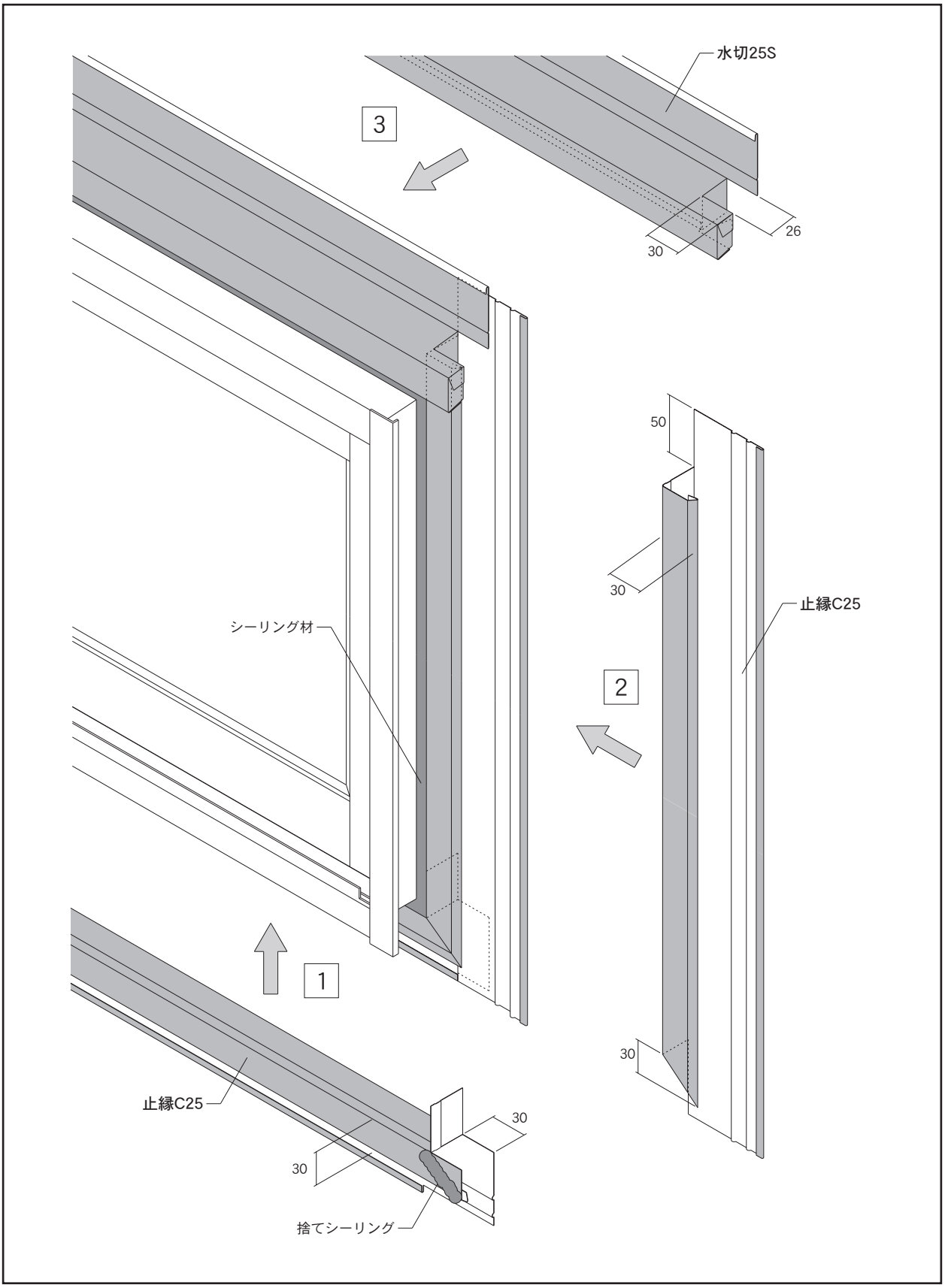
5．開口部加工 ①

（止縁C25／ワンタッチコーナーキャップ15-25）



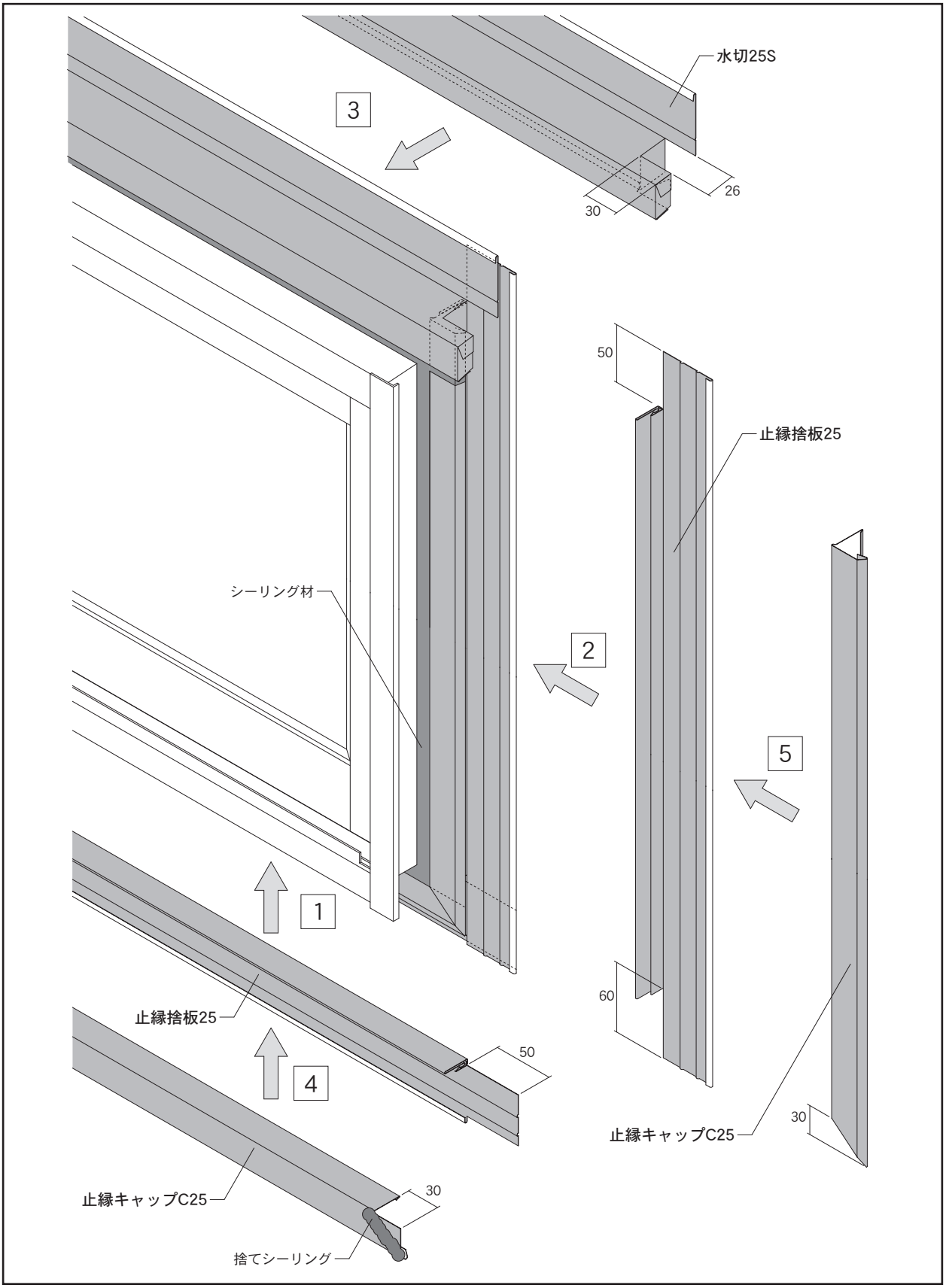
5．開口部加工 ②

（水切25S／止縁C25）



1 ～ 3 の順序で施工してください。
付属品同士の重ね部分は、止水のため捨てシーリングを施工してください。

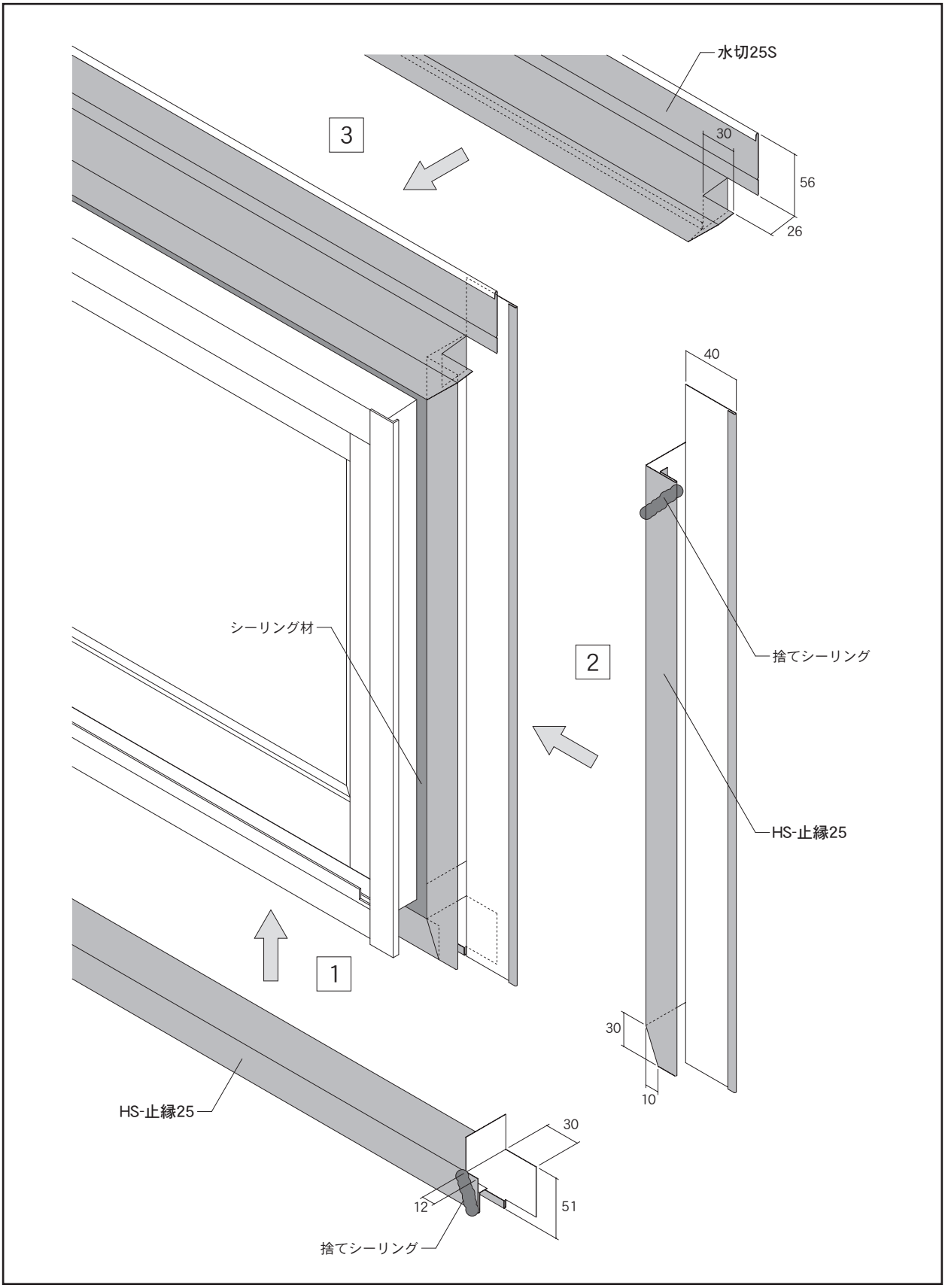
5．開口部加工 ③　（水切25S／止縁キャップC25／止縁捨板25）



1 ～ 5 の順序で施工してください。
付属品同士の重ね部分は、止水のため捨てシーリングを施工してください。

5．開口部加工 ④

（水切25S／HS-止縁25）



1 ～ 3 の順序で施工してください。
付属品同士の重ね部分は、止水のため捨てシーリングを施工してください。

免責事項

次のような場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

・施工店様による、施工や取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
・入居者の維持管理の不注意・装置の取り付け・改修・改築により不具合が生じた場合。
・入居者または第三者の故意・過失などにより不具合が生じた場合。
・天変地異・周囲環境・大気汚染・塩害などの特殊環境下で不具合が生じた場合。
・通常の経年変化による変色・汚れなどが生じた場合。
・建物の構造体に起因した変形・変位が原因で不具合が生じた場合。
・シーリング部及び現場塗装により不具合が生じた場合。
・パネル本体及び付属品に付着した切粉・加工屑・落ち葉・動物の排出物・粉塵などが原因で不具合が生じた場合。
・水が滞留する部分の塗膜損傷及び電食作用が原因で不具合が生じた場合。
・くぎ部のさびまたはもらいさび、及びカビによる汚染などが生じた場合。
・建築基準法及び、関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
・外壁以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。

その他ご不明な点などありましたら弊社にご相談ください。

アイジー工業株式会社

URL http://www.igkogyo.co.jp/

本　　社	〒999-3716 山形県東根市蟹沢上縄目1816-12	☎0237(43)1810	FAX0237(41)1810
東京営業所	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-17-5 神田橋PR-EX8F	☎03(5283)7211	FAX03(5283)7213
札幌営業所	〒003-0026 札幌市白石区本通19丁目南2-7 食糧ビル5F	☎011(863)0303	FAX011(860)2084
盛岡営業所	〒020-0022 盛岡市大通3-3-10 七十七日生盛岡ビル7F	☎019(605)8050	FAX019(605)8051
仙台営業所	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12 MB小田急ビル5F	☎022(292)5405	FAX022(292)5406
関東営業所	〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町1-92-3 至誠堂ビル2F	☎048(658)1600	FAX048(658)1602
新潟営業所	〒950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-54 明治安田生命新潟駅南第二ビル6F	☎025(240)6718	FAX025(240)6719
富山営業所	〒930-0004 富山市桜橋通り1-18 住友生命富山ビル3F	☎076(443)8621	FAX076(443)8622
名古屋営業所	〒452-0822 名古屋市西区中小田井5-404-1 愛法ビル2F	☎052(506)9898	FAX052(506)9899
大阪営業所	〒562-0036 大阪府箕面市船場西2-2-1 ニューエリモビル6F	☎072(749)3188	FAX072(749)3199
福岡営業所	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-30-23 博多管絃ビル2F	☎092(474)5564	FAX092(474)5574

この施工説明書に掲載の商品は専門施工を必要とします。施工は専門施工店にご依頼ください。

●お問い合わせは下記取り扱い店へどうぞ

商品の改良などにより、予告なく仕様の一部を変更する場合があります。本施工説明書が最新であることを最寄りの営業所まで確認してください。

2013.4.1000